

平成2年度言語研修  
朝鮮語テキスト1

朝鮮語テキスト  
(文法と会話)

大江孝男編

東京外国語大学  
アジア・アフリカ言語文化研究所  
1990

朝鮮語テキスト  
(文法と会話)

大江孝男編

## はじめに

本稿は、平成2年度(1990)言語研修「朝鮮語」の実施計画にあわせて、その主教材として作成したものである。

内容は、昭和60年度(1985)の研修実施に際して作成したテキストを改訂したもので編成は42課にわかれ、初めの10課は発音と文字の練習を主として第1週にあて、残りの32課を第2週からの5週間にあてて学習するよう構成されている。第2週以降は週に7課ずつ学習すれば最後の第6週には余裕を残して主教材の学習を終え、他の教材などの学習に集中することが可能となる計算であるが、学習の進捗については固定した考え方にとらわれず受講者の学力にあわせて調整しつつ指導してほしい。文法事項の解説は会話文にあわせて話しことばに即してあつまっているので、利用するにあたっては学校文法など既成の考え方にとらわれない柔軟な姿勢で臨まれるよう希望したい。

教材としては、本稿のほかに副教材を別に準備する。前回同様、短い新聞記事を集めて講読指導のための教材として編成したもので、第2週ごろから並行して1日1節を講読することを予定しているもので、文章表現にもなじみある程度の読解力をやしなうて学力の定着をはかり、全体としての学力向上を期待しているわけである。

主教材である本稿の改訂作業は、金裕鴻、石花賢両氏の協力によって作成した前回のテキストを基礎に、梁鉀容、李明姫、申相烈、李健相の4氏の協力をえて全文を録音テープに収録しつつ吟味する形でおこない、対話形式で臨場感をもって発話してもらうことで、違和感や不自然な感じをあたえる表現を排除し、他方で単純な会話例文や文法例文ではカバーすることのむずかしい生活会話の慣用的な日常表現の文例をつけ加えて、いろいろな人間関係で用いられることばとその雰囲気を理解する素地を養うよう工夫した。

一方、これら4氏の世代の発音は「標準発音法」(『標準語規程』第2部)に規定する母音組織と合わない面があるので、発音教材については客員研究員として来所中の任洪彬氏(ソウル大学校国語国文学科副教授)の協力をえて検討作業をおこなった。同氏は40才代後半の世代に属するソウル方言の話し手である。

本稿では、上記のように文表現についてはできるだけ日常的な自然な表現にちかづけることができたと思うが、その反面で、今回協力してもらった4氏が30才代前半

1人と20代3人という若い世代の話し手であるため、この世代特有の表現がやや強く表に出ているという傾向が見られるかもしれない。この人たちの世代ではよく使われるがソウル全体では必ずしも一般的とはいえないかもしれない語彙なども、特に問題がないと思われるものはそのまま採録したからであるが、この研修計画が単なる旅行会話や短期的単発的交流を目的とする言語学習ではなく、地域研究や現地調査などやや長期にわたる交流を目的とする人たちを対象とするものであることを考慮して敢えて排除しようとしなかったものである。

いそがしい時間をさいて無理をきき協力をおしまれなかった上記諸氏、また、研修の準備に助力して下さった方々に感謝の意を記しておきたい。

なお、版下は当初A4版縮小を予定していたが、初級入門者には字面がやや小さくなる心配がでてきたためB5版等倍で作成した。全体につまりすぎにみえるのはこのためである。

平成2年 7月

## 注 意 事 項

1. 学習の進度： 研修の実施日程は、週5日制で6週間（総日数30日）、1日あたり5時間であるが、この教材の学習は原則として、発音訓練を主とする第1週は1日あたり2課を、会話練習をしゅとする第2週以降は、週に7課または8課のペースで学習することを前提として組み立ててある。

練習は、反復練習ばかりでなく、作文練習をも課して応用訓練をおこなうこと、作文は紙に書くだけでなく、かならず口に出して発音するよう指導してほしい。

時間数に限りがあるため、学習内容と練習事項とが常に対をなしているとはかぎらないが、学習事項については一通りの説明をその場所でかならずおこなうこと。

学習内容は、発音や対話本文と練習事項を主とし、それに参考事項をつけ加えて構成してある。参考事項は、学力養成のためというより、将来の体験にそなえて日常生活表現に対する知識のはばをひろげておくことを主眼としてつけ加えたものである。したがって、参考事項の学習は固定的に考えることなく、受講生の学力や時間のゆとりのぐあいなどを勘案して判断し、適切な範囲でおこなうこと。

2. 副教材： 第2週以降は、毎日、少なくとも1回は、副教材の講読指導をおこなうこと。講読指導をくみこむ時間、進度等については状況によって判断してほしい。

3. 語尾の形など： 日常会話では、縮約された形が用いられることがあり、そのように書き表すこともあるが、このような形は発話の態度や雰囲気との結びつきがつよく、いつも使えるとはかぎらないので、本稿では基本となる形を学習するように組み立ててある。基本の形を学んだ上で、実際の体験をつうじて縮約形などの用法に習熟するのが望ましいと考えているからであるが、排除する必要はないので、必要な場合にはそのような形についても板書するなどして解説してほしい。

4. 表記その他： ハングルの表記は、できるだけあたらしい正書法（『한글 맞춤법』）と『標準語規程』に従ったが、分かち書きについては日本人の初級入門者にわかりやすいように比較的短く区切って表記している部分がある。また、テキストで用いている日付などは、今年度にあうように特に調整はしていない。今年にあわせて表現すればどのようになるかなどという面も練習としてとりあげてほしい。

## 目 次

第 1 課	発音と文字 : 概観	1
第 2 課	母音の発音	5
第 3 課	子音の発音	8
第 4 課	半母音と母音字母	10
第 5 課	字母の発音	12
第 6 課	字母と発音	14
第 7 課	字母と発音	16
第 8 課	字母と発音	18
第 9 課	字母と発音 : 字母「ㅇ」と「ㅎ」	20
第 10 課	字母と発音 : 字母「ㄴ」と「ㄹ」	24
第 11 課	안녕하십니까?	26
第 12 課	소개해 드리겠습니다.	29
第 13 課	이 건 누구 겁니까?	31
第 14 課	박 대철 선생님 계십니까?	35
第 15 課	오래 기다리셨습니다.	38
第 16 課	같이 식사나 하시겠습니까?	41
第 17 課	좀 더 드십시오.	44
第 18 課	일부러 마중나와 주셔서 고맙습니다.	48
第 19 課	직업은 뭐니까?	51
第 20 課	물건 좀 사려 나갑니다.	55
第 21 課	은행에 가서 돈을 바꾸어야 합니다.	58
第 22 課	오늘이 며칠이지요?	61
第 23 課	몇 년생이시지요?	65
第 24 課	부인도 같이 오셨어요?	69
第 25 課	지금 몇 시예요?	73
第 26 課	며칠 동안 갔다 오셨어요?	77
第 27 課	며칠 전에 강 선생님을 만났어요.	82
第 28 課	11시경에 기다리겠습니다.	86
第 29 課	말씀 좀 여쭙어 보겠습니다.	90
第 30 課	경주에 가 볼 생각입니다.	94
第 31 課	제주도 가려면 비행기를 타고 가야지요?	98
第 32 課	방을 예약했는데요.	101

第 33 課	일본에서 아는 분이 오셔서. . .	105
第 34 課	추석 날은 9월 29일이군요.	109
第 35 課	추석 날에는 어떻게 지냅니까?	113
第 36 課	박 대철 선생님 댁이시지요?	116
第 37 課	매운 것을 좋아 하세요?	120
第 38 課	아버지, 안녕히 주무셨습니까?	124
第 39 課	장 좀 보고 오는 길이에요.	129
第 40 課	영순아, 상 좀 차려라.	132
第 41 課	아버지, 안녕히 다녀 오셨습니까?	136
第 42 課	이제 텔레비전 끄고 그만들 자거라.	141
(付) :	内容細目 一覽	145

第1課 文字と発音： 概観

1. 1. 1. 母音字母

	字母	読み	発音	口の形	注意事項
1	ㅏ	ㅏ	[a]		「ア」と同じ
2	ㅣ	ㅣ	[i]		「イ」と同じ
3	ㅜ	우	[u]		唇をできるだけまるめ 突き出すこと
4	ㅡ	으	[ɯ]		日本語「ス」「ツ」 の母音
5	ㅓ	애	[ɛ]		拇指を歯の間にくわえ る程度の開き
6	ㅕ	에	[e]		小指も歯の間を通ら ない程度の開き
7	ㅗ	어	[ɔ]		「애」と同じ程度に開 いた明るい「オ」
8	ㅛ	오	[o]		唇をできるだけまる めた奥深い「オ」
9	ㅜ	어	[ə:]		「オ」と「ア」の間ぐ らいの母音



1. 1. 2. 半母音 ([j, w]) と字母

	字母	読み 発音	字母	読み 発音
1	ヤ ト	야 [ja]	ワ 나	와 [wa]
2	-- --	-- --	위 기	위 [wi]
3	ㅠ	유 [ju]	--	-- --
4	--	-- --	--	-- --
5	ㅝ	애 [jɛ]	ㅞ	왜 [wɛ]
6	ㅜ        ㅞ	예 [je]	ㅜ        ㅞ, ㅟ	웨, 외 [we]
7	ㅟ	여 [jo]	ㅟ	위 [wo]
8	ㅟ        ㅟ	요 [jo]	ㅟ        --	-- --
9	(--)	여 [jə:]	(--)	위 [wə:]

1. 2. 子音字母：

		両唇音	歯音	軟口蓋音	歯茎音		(歯茎音)	喉頭音		
破 裂 音	平音	ㇿ [p, b]	ㇸ [t, d]	ㇹ [k, g]	破 擦 音	ㇵ [tʃ, dʒ]	摩 入 [s]	註 ○ [ʼ-]		
	激音	ㇸ [pʼ]	ㇸ [tʼ]	ㇹ [kʼ]		ㇵ [tʃʼ]			擦 音	ㇰ [h]
	濃音	ㇸ [pʼ]	ㇸ [tʼ]	ㇹ [kʼ]		ㇵ [tʃʼ]			ㇸ [sʼ]	
鼻音	ㇸ [m]	ㇸ [n]	註① ○ [ŋ]	----	----	----	----			
流音	----	己 [-r-, -l]	----	----	----	----	----			

[註①] 字母の形は同じだが、母音字母との組み合わせの位置によって区別される。

1. 3. 가가表 (反切表) : (가로 쓰기)

	a.	b.	c.	d.	e.	f.	g.	h.	i.	j.
A.										
1.	가	가	거	겨	고	교	구	규	그	기
2.	나	냐	너	녀	노	뇨	누	뉴	느	니
3.	다	다	더	더	도	도	두	두	드	디
4.	라	랴	러	려	로	료	루	류	르	리
5.	마	마	머	머	모	묘	무	뮤	므	미
6.	바	바	버	버	보	보	부	부	브	비
7.	사	샤	서	셔	소	쇼	수	슈	스	시
8.	아	야	어	여	오	요	우	유	으	이
9.	자	자	저	져	조	조	주	주	즈	지
10.	차	차	처	쳐	초	초	추	추	츠	치
11.	카	카	커	켜	코	교	쿠	큐	크	키
12.	타	타	터	터	토	토	투	투	트	티
13.	파	파	퍼	퍼	포	포	푸	푸	프	피
14.	하	하	허	허	호	호	후	후	흐	히
B.										
15.	까	까	꺼	껴	꼬	교	꾸	큐	끄	끼
16.	따	따	터	껴	또	교	뚜	투	뜨	띠
17.	빠	빠	퍼	껴	뽀	교	뿌	뿌	쁘	삐
18.	싸	싸	셔	껴	쏘	교	쑤	슈	쓰	씨
19.	짜	짜	저	껴	쪼	교	쑤	쑤	쑤	찌

1. 4. 各自, 自分の住所氏名など, 固有名詞をハングルで書いてみること.

## 第2課 母音の発音

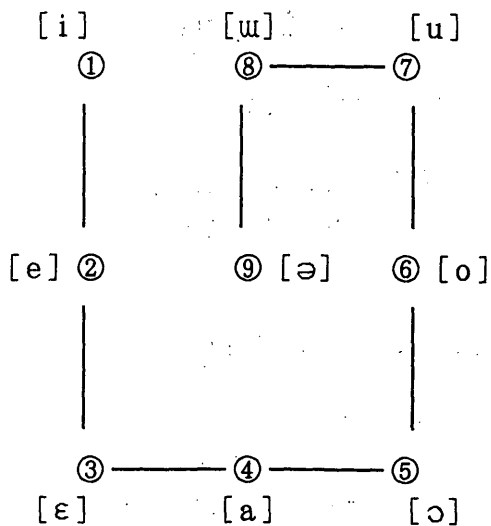
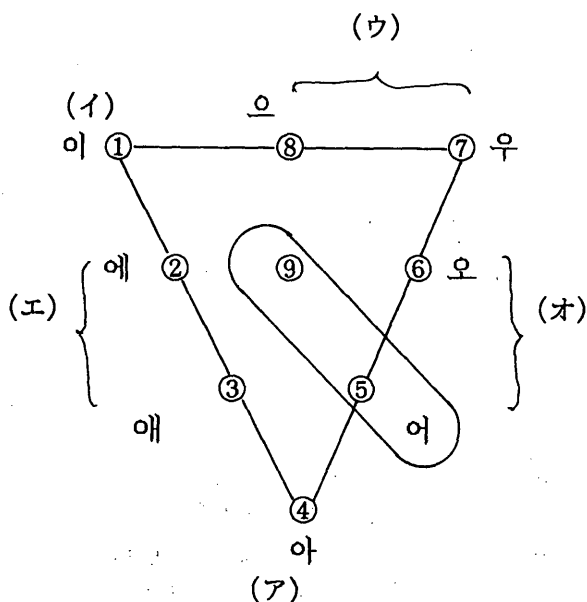
### 2. 1. 読み方練習 (1) ——母音の発音——

- |             |             |              |
|-------------|-------------|--------------|
| a. 아이 《子ども》 | b. 아우 《弟》   | c. 오이 《きゅうり》 |
| d. 아마 《多分》  | e. 이마 《額》   | f. 이미 《既に》   |
| g. 마음 《心》   | h. 무 《だいこん》 | i. 엄마 《お母さん》 |

### 2. 2. 読み方練習 (2) ——母音の発音——

- |           |                |                |
|-----------|----------------|----------------|
| j. 나무 《木》 | k. 누나 《(弟から)姉》 | l. 언니 《(妹から)姉》 |
| m. 나라 《国》 | n. 마루 《板張りの床》  | o. 멀리 《遠く(に)》  |

### 2. 3. 母音の種類と発音



I. 「에」 と 「애」

- (1) a. 세수 《洗面》
- b. 새해 《新年》

- (2) a. 셈 《計算》
- b. 샘 《泉, 井戸》

II. 「오」 と 「어」

- (3) a. 소리 《音》
- b. 서리 《霜》

- (4) a. 오소리 《穴ぐま》
- b. 어머니 《母親》

III. 「우」 と 「으」 :

- (5) a. 수레 《車》
- b. 스물 《二十》

- (6) a. 수수 《きび》
- b. 스스로 《自発的に》

IV. 「어」 : [ə:] と [ɔ]

- (7) a. 어른 《大人》
- b. 얼음 《氷》

- (8) a. 언제 《いつ》
- b. 어제 《きのう》

- (9) a. 벌 《蜂》
- b. 벌 《罰》

V. 「어」 : [ə:]

- (10) a. 설 《元日》
- b. 벌 《蜂》

- (11) a. 섬 《島》
- b. 범 《虎》

2. 4. 読み方練習——

- |                |           |                |
|----------------|-----------|----------------|
| (1) a. 나무 《木》  | b. 남 《他人》 | c. 엄마 《母親》     |
| d. 사무 《事務》     | e. 삼 《麻》  | f. 마음 《心》      |
| g. 누나 《(弟から)姉》 | h. 눈 《目》  | i. 언니 《(妹から)姉》 |
| j. 마루 《板張りの床》  | k. 말 《馬》  | l. 멀리 《遠く(に)》  |
| m. 시루 《烝し器》    | n. 실 《糸》  | o. 실리 《実利》     |
| (2) a. 삶 《生》   | b. 섬 《島》  | c. 솜 《綿》       |
| d. 숨 《息》       | e. 샘 《泉》  | f. 셈 《勘定》      |



第3課 子音の発音

3. 1. 読み方練習: —— 子音の発音

- |              |             |                |
|--------------|-------------|----------------|
| a. 나무 《木》    | b. 남 《他人》   | c. 엄마 《母親》     |
| d. 누나 《姉》    | e. 눈 《目》    | f. 언니 《(妹から)姉》 |
| g. 마루 《板の床》  | h. 말 《馬》    | i. 멀리 《遠く(に)》  |
| j. 세상 《世のなか》 | k. 망아지 《子馬》 | l. 항아리 《壺》     |

3. 2. 平音の発音: ——

- |                  |              |             |
|------------------|--------------|-------------|
| (1) ㅅ: a. 발 《足》  | b. 사발 《どんぶり》 | c. 담배 《たばこ》 |
| (2) ㄷ: a. 달 《月》  | b. 아들 《息子》   | c. 감동 《感動》  |
| (3) ㄱ: a. 굴 《かき》 | b. 저고리 《上衣》  | c. 감기 《風邪》  |
| (4) ㅈ: a. 줄 《ひも》 | b. 어제 《きのう》  | c. 감자 《馬鈴薯》 |
| (5) ㄴ: a. 술 《酒》  | b. 사실 《事実》   | c. 감사 《感謝》  |

3. 3. 平音・激音・濃音: ——

- |                |             |              |
|----------------|-------------|--------------|
| (1) a. 불 《火》   | b. 풀 《糊》    | c. 뿔 《つの(角)》 |
| (2) a. 달 《月》   | b. 탈 《仮面》   | c. 딸 《娘》     |
| (3) a. 굴 《かき》  | b. 코 《鼻》    | c. 꿀 《蜜》     |
| (4) a. 자다 《眠る》 | b. 차다 《冷たい》 | c. 짜다 《塩からい》 |
| (5) a. 살 《はだ》  | b. —————    | c. 쌀 《米》     |

3. 4. あいさつの ことば ②—— “さようなら” ——

発音練習:    안녕히    [an n j ɔ ŋ (h) i]  
                   가십시오 [ka ʃ i p ʃ i o]  
                   계십시오 [ke : ʃ i p ʃ i o]

- (1) a. 안녕히 계십시오. ——    안녕히 가십시오.  
       b. 안녕히 계세요. ——    안녕히 가세요.

- (2) a. 안녕히 가십시오. ----- 안녕히 가십시오.  
 b. 안녕히 가세요. ----- 안녕히 가세요.
- (3) a. 안녕히 가십시오. ----- 안녕히 계십시오.  
 b. 안녕히 가십시오. ----- 안녕히 계세요.

3. 5. 単語による発音練習 (子音と母音) -----

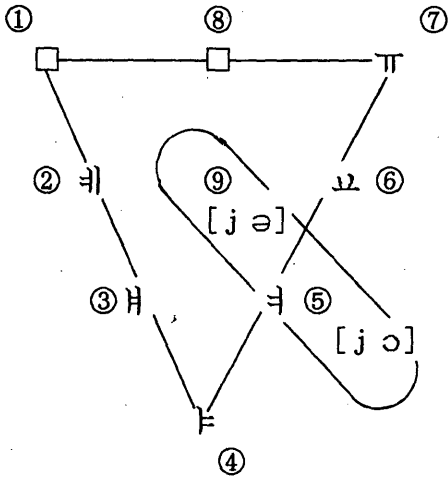
- |     |            |             |               |
|-----|------------|-------------|---------------|
| (1) | a. 어머니 《母》 | b. 머리 《頭》   | c. 서리 《霜》     |
| (2) | a. 오늘 《今日》 | b. 모기 《蚊》   | c. 소리 《音》     |
| (3) | a. 구름 《雲》  | b. 수레 《車》   | c. 수수 《黍》     |
| (4) | a. 그늘 《蔭》  | b. 스물 《二十》  | c. 스스로 《自発的に》 |
| (5) | a. 어른 《大人》 | b. 언제 《いつ》  | c. 벌 《蜂》      |
| (6) | a. 얼음 《氷》  | b. 어제 《昨日》  | c. 벌 《罰》      |
| (7) | a. 개 《犬》   | b. 매미 《蟬》   | c. 새해 《新年》    |
| (8) | a. 게 《蟹》   | b. 메기 《なまず》 | c. 세수 《洗面》    |



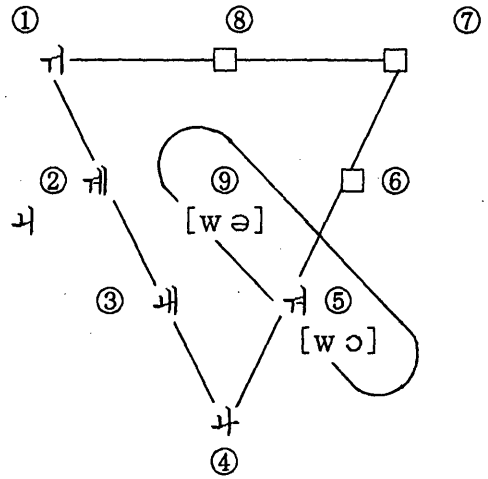
第4課 半母音と母音字母

4. 1. 半母音の字母と発音

A. [j] :



B. [w] :



A. 発音練習 [j]

- |                     |             |            |
|---------------------|-------------|------------|
| (1) a. 야구 《野球》      | b. 대야 《洗面器》 | c. 고향 《故郷》 |
| (2) a. 얘기 (이야기) 《話》 |             |            |
| (3) a. 예술 《芸術》      | b. 시계 《時計》  | c. 계산 《計算》 |
| (4) a. 여우 《狐》       | b. 겨울 《冬》   | c. 며느리 《嫁》 |
| (5) a. 별 《星》        | b. 편지 《手紙》  |            |
| (6) a. 요 《敷布団》      | b. 우표 《切手》  |            |
| (7) a. 유리 《ガラス》     | b. 우유 《牛乳》  |            |

B. 発音練習 [w]

- |                |            |            |
|----------------|------------|------------|
| (1) a. 화로 《火鉢》 | b. 기와 《瓦》  | c. 전화 《電話》 |
| (2) a. 왜 《何故》  | b. 괭이 《鋤》  | c. 인쇄 《印刷》 |
| (3) a. 궤착 《櫃》  | b. 훼방 《妨害》 | c. 웬일 《何事》 |
| (4) a. 외투 《外套》 | b. 회사 《会社》 | c. 사회 《社会》 |

- |                |            |               |
|----------------|------------|---------------|
| (5) a. 위험 《危險》 | b. 귀 《耳》   | c. 사위 《婿》     |
| (6) a. 원인 《原因》 | b. 원숭이 《猿》 | c. 휘신 《ずば抜けて》 |
| (7) a. 권고 《勸告》 | b. 원수 《敵》  | c. 권총 《拳銃》    |

4. 2. 挨拶の言葉 ③ —— “お元気でしたか” ——

発音：

오래간·만·입니다.

[oɾegʌn·mʌn·imnida]

《お久しぶりです》

그 동안 [kwɔɔŋ-an]

《その間(ずっと)》

안녕 [ʌnnjɔŋ]

①하십니까? [hʌʃimnik'a]

《お元気ですか》

②하셨습니다습니까? [hʌʃɔs'ʌmnik'a]

《お元気でしたか》

- (1) 안녕하십니까? 오래간만입니다.
- (2) 네, 안녕하십니까?
- (3) 그 동안 안녕하셨습니다습니까?
- (4) 오래간만입니다. 그 동안 안녕하셨습니다습니까?

4. 3. 激音(有気音)の練習

- |       |            |              |              |
|-------|------------|--------------|--------------|
| (1) ㄷ | a. 팔 《腕》   | b. 포도 《葡萄》   | c. 대패 《鉋》    |
| (2) ㅌ | a. 탈 《仮面》  | b. 태도 《態度》   | c. 울타리 《垣根》  |
| (3) ㅋ | a. 칼 《ナイフ》 | b. 커피 《コーヒー》 | c. 조카 《甥, 姪》 |
| (4) ㅌ | a. 차이 《差異》 | b. 추수 《收穫》   | c. 배추 《白菜》   |

4. 4. 濃音(喉頭化音)の練習

- |       |                |               |              |
|-------|----------------|---------------|--------------|
| (1) ㅂ | a. 오빠 《兄(妹から)》 | b. 고삐 《手綱》    | c. 빨래 《洗濯》   |
| (2) ㅃ | a. 이따가 《後で》    | b. 허리띠 《帶》    | c. 또아리 《トアリ》 |
| (3) ㅍ | a. 아까 《先ほど》    | b. 도끼 《斧》     | c. 까치 《かささぎ》 |
| (4) ㅑ | a. 가짜 《偽物》     | b. 어찌 《どのように》 | c. 짜임새 《緻密さ》 |
| (5) ㅕ | a. 비싸다 《高価だ》   | b. 손씨 《手際》    | c. 싸움 《争い》   |

第5課 字母の発音

5. 1. 字母「ㄱ」の発音

(1) 語頭の「의」: [w<sup>i</sup>]

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| a. 의사 《医者》 | b. 의자 《椅子》 | c. 의미 《意味》 |
| d. 의무 《義務》 | e. 의회 《議會》 | f. 의문 《疑問》 |

(2) 語頭以外の「의」: [(w) i]

- |            |            |               |
|------------|------------|---------------|
| a. 주의 《注意》 | b. 호의 《好意》 | c. 회의 《會議》    |
| d. 의의 《意義》 | e. 항의 《抗議》 | f. 문의 《問い合わせ》 |

(3) 子音と結合した「ㄱ」: [i]

- |              |            |                 |
|--------------|------------|-----------------|
| a. 희망 《希望》   | b. 희다 《白い》 | c. 피어쓰기 《分かち書き》 |
| d. 저희들 《私ども》 | e. 환희 《歡喜》 | f. 무늬 《模様, 紋様》  |

(4) 所有・所属を表す助辞「의」: [e]

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| a. 남의 집 《よその家》  | b. 남의 나라 《よその国》 |
| c. 꿈의 세계 《夢の世界》 | d. 별의 세계 《星の世界》 |
| e. 닭의 해 《とまり木》  | f. 닭의 어리 《鳥籠》   |

5. 2. 挨拶の言葉 ④ —— “ありがとうございます” ——

発音:

고맙습니다 [ko : mapsumnida] 《ありがとうございます》  
 잘 있었습니다 [tʃa : l is 'os 'umnida] 《元氣でした》  
 잘 지내고 있습니다 [tʃa : l tʃinɛgo is 'umnida] 《元氣に暮らしています》

練習:

- (1) a. 안녕하십니까? ————— 네, 안녕하십니까?  
 b. 요즈음 어떠세요?

- c. 요즈음 어떻게 지내세요? ————— 네, 잘 지내고 있어요.
- d. 그저 그렇습니다.
- e. 그럭저럭 지냅니다.
- f. 여전하지요.
- (2) a. 오래간만입니다. 그 동안 안녕하셨습니까?
- b. 오래간만입니다. 그 동안 별일 없으셨습니까?
- (3) a. 고맙습니다. 잘 있었습니까. 그 동안 안녕하셨습니까?
- b. 고맙습니다. 덕분에 잘 지내고 있습니다.
- c. 고맙습니다. 맥내 두루 편안하신지요?
- (4) 네, 잘 있었습니까.

5. 3. 音節末(終聲)の子音の發音

- |                         |             |             |               |
|-------------------------|-------------|-------------|---------------|
| (1) [-m <sub>ㅁ</sub> ]: | a. 밤 《夜》    | b. 봄 《春》    | c. 섬 《島》      |
| (2) [-n <sub>ㄴ</sub> ]: | a. 반 《班》    | b. 산 《山》    | c. 손 《手》      |
| (3) [-ŋ <sub>ㅇ</sub> ]: | a. 방 《部屋》   | b. 강 《川(江)》 | c. 땅 《土地, 地面》 |
| (4) [-l <sub>ㄹ</sub> ]: | a. 발 《足》    | b. 살 《肌》    | c. 솔 《はけ》     |
| (5) [-p <sub>ㅍ</sub> ]: | a. 밥 《御飯》   | b. 입 《口》    | c. 집 《家》      |
|                         | d. 앞 《前》    | e. 잎 《葉》    | f. 짚 《藁》      |
| (6) [-t <sub>ㅌ</sub> ]: | a. 발 《島》    | b. 팔 《あずき》  | c. 솥 《釜》      |
|                         | d. 곧 《すぐ》   |             |               |
|                         | e. 빗 《櫛》    | f. 옷 《着物》   | g. 맛 《味》      |
|                         | h. 빚 《借金》   | i. 젖 《乳》    |               |
|                         | j. 빛 《光, 色》 | k. 옷 《漆》    | l. 숯 《炭》      |
|                         | m. 히읗 《字母ㅎ》 |             |               |
| (7) [-k <sub>ㅊ</sub> ]: | a. 박 《瓢》    | b. 혹 《こぶ》   | c. 국 《汁》      |
|                         | d. 부엌 《台所》  |             |               |
|                         | e. 밖 《外》    |             |               |

第6課 字母と発音

6. 1. 子音字母の連続 (-VC<sub>1</sub>・C<sub>2</sub>V-) ①:

- a. 第1子音(C<sub>1</sub>)は破裂部のない「内破音」に発音されて, 平音・激音・濃音の発音の区別はなくなる. ただし, 第2子音(C<sub>2</sub>)が鼻音であれば, 第1子音は調音点の同じ鼻音に同化して発音される.
- b. 第2子音(C<sub>2</sub>)は字母の発音を保つ. ただし, 平音の場合には第1子音(C<sub>1</sub>)が口腔子音であれば濃音に発音され, 鼻音([m, n, ŋ])または流音([l])のあとでは有声の平音に発音されるのが原則.

- |                  |               |              |
|------------------|---------------|--------------|
| (1) a. 압박 《压迫》   | b. 납득 《納得》    | c. 입김 《吐く息》  |
| d. 입술 《唇》        | e. 입장 《立場》    | f. 앞발 《前足》   |
| g. 앞다리 《前脚》      | h. 옆구리 《脇腹》   | i. 옆집 《隣家》   |
| (2) a. 밥플 《飯粒》   | b. 집터 《敷地》    | c. 앞치마 《前掛け》 |
| (3) a. 남편 《夫》    | b. 송편 《ソンピョン》 | c. 칠판 《黑板》   |
| (4) a. 심부름 《お使い》 | b. 정부 《政府》    | c. 꿀벌 《蜜蜂》   |
| (5) a. 밥맛 《飯の味》  | b. 앞날 《前途》    | c. 잡념 《雜念》   |

6. 2. 音節末の子音 —— 付属語との連結 ①

- 単語 ① -이/가 《が》, -에 《に》, -도 《も》, -만 《だけ》
- 単語 ② 이 《この》, 그 《その》, 저 《あの》
- 単語 ③ -입니다 (입니다) [(i)mni da] 《です》

		《家》	《藁》	《荷物》
	单独 :	집	짚	짐
(1)	~ 《が》 :	집이	짚이	짐이
(2)	~ 《に》 :	집에	짚에	짐에
(3)	~ 《も》 :	집도	짚도	짐도
(4)	~ 《だけ》 :	집만	짚만	짐만
(5)	《この》~ 《です》 :	이 집입니다	이 짚입니다	이 짐입니다
(6)	《その》~ 《です》 :	그 집입니다	그 짚입니다	그 짐입니다
(7)	《あの》~ 《です》 :	저 집입니다	저 짚입니다	저 짐입니다

6. 3. 會話練習 —— “どなたですか” ——

練習： 누구입니까? 《だれですか》  
 누구십니까? 《どなたですか》  
 어디십니까? 《どちらさまでですか》

- (1) 1. 누구십니까? a. 김 인수입니다. b. 김 영순입니다.  
 2. 어디십니까? a. 김 인수입니다.  
 3. 어디세요? a. 김 인수입니다.  
 4. 어디서 오셨습니까? 성함이 어떻게 되십니까?  
 (2) 저 분이 누구십니까? —— 김 선생님이십니다.  
 (3) 이 분이 김 선생님이십니까? —— 네, 김 선생님이십니다.  
 (4) 저 분이 김 선생님이십니까? —— 네, 저 분이 김 선생님이십니다.  
 (5) 저 분이 누구입니까? —— 저 분이 김 선생님이십니다.

6. 4. 發音練習：

- (1) a. 밤 《夜》 b. 봄 《春》 c. 땀 《汗》  
 d. 감명 《感動》 e. 감나무 《柿の木》 f. 담배 《たばこ》  
 (2) a. 반 《班》 b. 돈 《金錢》 c. 신 《靴, 履物》  
 d. 전문 《專門》 e. 전날 《前日》 f. 전부 《全部》  
 (3) a. 방 《部屋》 b. 콩 《大豆》 c. 땅 《土地》  
 d. 정문 《正門》 e. 장날 《市の立つ日》 f. 정부 《政府》  
 (4) a. 온돌 《オンドル》 b. 당번 《當番》 c. 상대방 《相手(方)》

第7課 字母と発音

7. 1. 子音字母の連続 (-VC<sub>1</sub>·C<sub>2</sub>V-) ②:

- |                    |               |                 |
|--------------------|---------------|-----------------|
| (1) a. 밑바닥 《底》     | b. 발도랑 《排水溝》  | c. 심달 《(旧)歴12月》 |
| d. 숟가락 《スプーン》      | e. 밑거름 《基肥》   | f. 헛발 《踏み外した足》  |
| g. 깃대 《旗竿》         | h. 젓가락 《箸》    | i. 숫자 《数字》      |
| j. 풋사랑 《未熟な恋》      | k. 만사위 《長女の婿》 | l. 맞선 《見合い》     |
| m. 늦봄 《晩春》         | n. 빚돈 《借金》    | o. 꽃감 《干し柿》     |
| (2) a. 깃털 《羽毛》     | b. 풋콩 《青豆》    | c. 밑장 《靴底》      |
| (3) a. 꽃봉오리 《つぼみ》  | b. 꽃다발 《花束》   | c. 빛깔 《光, 色》    |
| (4) a. 만며느리 《長男の嫁》 | b. 이튿날 《翌日》   | c. 잇몸 《齒莖》      |
| d. 옛날 《昔》          | e. 젖먹이 《乳飲み子》 | f. 꽃망울 《つぼみ》    |
| g. 꽃놀이 《花見》        |               |                 |
| (5) a. 속도 《速度》     | b. 약국 《薬局》    | c. 박사 《博士》      |
| d. 식탁 《食卓》         | e. 식칼 《包丁》    | f. 식품 《食品》      |
| (5) a. 박물관 《博物館》   | b. 막내 《すえっ子》  | c. 식물 《植物》      |

7. 2. 音節末の子音 —— 付属語との連結 ②

- |             |          |           |            |
|-------------|----------|-----------|------------|
| 单独 :        | a. 빛 《櫛》 | b. 빚 《借金》 | c. 빛 《光》   |
|             | d. 발 《鼻》 | e. 북 《太鼓》 | f. 부엌 《台所》 |
|             | g. 담 《塀》 | h. 끈 《ひも》 | i. 방 《部屋》  |
| (1) ~ 《가》 : | a. 빛이    | b. 빚이     | c. 빛이      |
|             | d. 발이    | e. 북이     | f. 부엌이     |
|             | g. 담이    | h. 끈이     | i. 방이      |
| (2) ~ 《に》 : | a. 빛에    | b. 빚에     | c. 빛에      |
|             | d. 발에    | e. 북에     | f. 부엌에     |
|             | g. 담에    | h. 끈에     | i. 방에      |
| (3) ~ 《も》 : | a. 빛도    | b. 빚도     | c. 빛도      |
|             | d. 발도    | e. 북도     | f. 부엌도     |
|             | g. 담도    | h. 끈도     | i. 방도      |

- |              |         |         |          |
|--------------|---------|---------|----------|
| (4) ~ 《だけ》 : | a. 빗만   | b. 빗만   | c. 빗만    |
|              | d. 발만   | e. 복만   | f. 부엌만   |
|              | g. 담만   | h. 끈만   | i. 방만    |
| (5) ~ 《です》 : | a. 빗입니다 | b. 빗입니다 | c. 빗입니다  |
|              | d. 발입니다 | e. 복입니다 | f. 부엌입니다 |
|              | g. 담입니다 | h. 끈입니다 | i. 방입니다  |

7. 3. 会话練習：—— “この方，あの方，どの方” ——

單語： 어느 《どの》， 어느 분 《どの方》  
 -은 (는) 《~は (話題の焦点)》

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| (1) 김 선생님은 어느 분입니까?  |                    |
| (2) 어느 분이 김 선생님이십니까? |                    |
| (3) 저 분은 누구십니까?      | 저 분이 김 선생님이십니다.    |
| (4) 이 분은 김 선생님이십니까?  | 네, 김 선생님은 이 분이십니까? |
| (5) 김 선생님은 어느 분이십니까? | 김 선생님은 저 분이십니다.    |



第8課 字母と発音

8. 1. 音節末の二重子音 :

- |            |      |      |        |          |     |
|------------|------|------|--------|----------|-----|
| (1) 값      | 《値段》 |      | cf. 밥  | 《御飯》     |     |
| (2) a. 샷   | 《労賃》 | b. 몯 | 《分け前》  | cf. 국    | 《汁》 |
| (3) a. 닭   | 《鶏》  | b. 흙 | 《土》    |          |     |
| (4) 둘 (ㄷㄹ) | 《周年》 |      | cf. 돌  | 《石》      |     |
| (5) 여덟     | 《八》  |      |        |          |     |
| (6) 젊은이    | 《若者》 |      | cf. 젊다 | 《若い》     |     |
| (7) 늙은이    | 《老人》 |      | cf. 늙다 | 《年とっている》 |     |

8. 2. 音節末の子音 —— 付属語との連結 ③

- |              |          |      |         |      |         |       |
|--------------|----------|------|---------|------|---------|-------|
| 单独 :         | a. 값     | 《値段》 | b. 샷    | 《労賃》 | c. 몯    | 《分け前》 |
|              | d. 닭     | 《鶏》  | e. 흙    | 《土》  | f. 둘    | 《周年》  |
|              | g. 여덟    | 《八》  |         |      |         |       |
| (1) ~ 《가》 :  | a. 값이    |      | b. 샷이   |      | c. 몯이   |       |
|              | d. 닭이    |      | e. 흙이   |      | f. 둘이   |       |
|              | g. 여덟이   |      |         |      |         |       |
| (2) ~ 《に》 :  | a. 값에    |      | b. 샷에   |      | c. 몯에   |       |
|              | d. 닭에    |      | e. 흙에   |      | f. 둘에   |       |
|              | g. 여덟에   |      |         |      |         |       |
| (3) ~ 《も》 :  | a. 값도    |      | b. 샷도   |      | c. 몯도   |       |
|              | d. 닭도    |      | e. 흙도   |      | f. 둘도   |       |
|              | g. 여덟도   |      |         |      |         |       |
| (4) ~ 《だけ》 : | a. 값만    |      | b. 샷만   |      | c. 몯만   |       |
|              | d. 닭만    |      | e. 흙만   |      | f. 둘만   |       |
|              | g. 여덟만   |      |         |      |         |       |
| (5) ~ 《です》 : | a. 값입니다  |      | b. 샷입니다 |      | c. 몯입니다 |       |
|              | d. 닭입니다  |      | e. 흙입니다 |      | f. 둘입니다 |       |
|              | g. 여덟입니다 |      |         |      |         |       |

8. 3. 会話練習：—— “これ, それ, あれ; こと, もの; なに” —  
 単語 (かっこ内は文章語形) :

거 (것) 《こと, もの》 ; 뭐 (무엇) 《何》  
 이 거 (이 것) 《これ》 ; 뭐니까 (무엇입니까) 《何ですか》  
 책상 《机》, 의자 《椅子》, 칠판 《黑板 (漆板)》  
 연필 《鉛筆》, 만년필 《万年筆》, 지우개 《消しゴム》

- (1) 이 건 뭐니까? ----- ( 이 것은 무엇입니까? )  
 (2) 그 건 책입니다. ----- ( 그 것은 책입니다. )  
 (3) 그 건 뭐니까? ----- ( 그 것은 무엇입니까? )  
 (4) 이 건 책상입니다. ----- ( 이 것은 책상입니다. )  
 (5) 저 건 뭐니까? ----- ( 저 것은 무엇입니까? )  
 (6) 저 건 칠판입니다. ----- ( 저 것은 칠판입니다. )

8. 4. 激音の発音練習 :

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| (1) a. 팔 《腕》        | b. 탈 《仮面》   |
| c. 칼 《ナイフ》          | d. 차 《車》    |
| (2) a. 풀 《糊》        | b. 덕 《顎》    |
| c. 코 《鼻》            | d. 책 《本》    |
| (3) a. 포도 《葡萄》      | b. 태도 《態度》  |
| c. 커피 《コーヒー》        | d. 차이 《差異》  |
| (4) a. 하품 《あくび》     | b. 이태 《2か年》 |
| c. 올케 《兄弟の嫁(妹や姉から)》 | d. 대추 《なつめ》 |
| (5) a. 대패 《かんな》     | b. 울타리 《垣根》 |
| c. 조카 《甥, 姪》        | d. 기차 《汽車》  |

8. 5. 濃音の発音練習 :

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| (1) a. 빨래 《洗濯》          | b. 빵 《パン》        |
| c. 뿌리 《根》               | d. 뼈 《骨》         |
| (2) a. 또아리 《頭にのせるクッション》 | b. 땅 《土地》        |
| c. 딸기 《苺》               | d. 땀 《汗》         |
| (3) a. 까치 《かささぎ》        | b. 꿈 《夢》         |
| c. 꼬리 《尾》               | d. 끈 《紐》         |
| (4) a. 짜임새 《緻密さ》        | b. 찌개 《チゲ (鍋料理)》 |
| c. 찌꺼기 《くず》             | d. 짜증 《かんしゃく》    |
| (5) a. 설매 《そり》          | b. 싸움 《けんか》      |
| c. 쓰레기 《ごみ》             | d. 쌀 《米》         |

第9課 字母と発音：字母「ㅇ」と「ㅎ」

9. 1. 音節末の子音の次の音節が母音で始まる場合：

- ① {ㅂ, ㅃ, ㅍ} \_ + 母音： [ b ]  
 ② {ㄷ, ㅌ, ㅍ, ㅍ, ㅍ} \_ + 母音： [ d ]  
 ③ {ㄱ, ㅋ, ㆁ} \_ + 母音： [ g ]  
 ④ {ㅇ, ㄴ, ㄹ} \_ + 母音： [ m , n , r ]

- (1) a. 겹 : 겹옷 《衿の着物》      b. 옆 : 옆얼굴 《横顔》  
 c. 값 : 값어치 《値打ち》  
 (2) a. 맏 : 맏아들 《長男》      b. 겉 : 겉옷 《外衣》  
 c. 젖 : 젖어미 《乳母》      d. 몇 : 몇월 《何月》  
 e. 낯 : 낯없다 《面目ない》      f. 웃 : 웃어른 《目上の人》  
 g. 맛 : 맛없다 《まずい(味)》  
 h. 옷 : 옷의변 《衣偏》 (Cf. 옷엿니 《(衣の)虱》)  
 (3) a. 속 : 속옷 《下着》      b. 뉘 : 뉘없이 《ぼんやりと》  
 (4) a. 솜 : 솜옷 《綿入れ》      b. 눈 : 눈알 《眼球》  
 c. 털 : 털옷 《毛皮の服》

9. 2. 音節末の子音の次の音節が「ㅎ」で始まる場合：

- ① 先行する音節末子音が口腔子音であれば語末子音と同じ発音となり、「ㅎ」と融合して激音に発音される。  
 ② 先行する音節末子音が鼻音の場合、原則としてそのまま発音されるが「ㅎ」は、弱く発音され、特に弱まった場合には、先行する鼻音が次の音節の母音と結合して音節頭音に発音される。

- (1) a. 입학 《入学》      b. 급행 《急行》      c. 급하다 《急だ》  
 (2) a. 맏형 《長兄》      b. 몇 호실 《何号室》      c. 못 하다 《できない》  
 d. 따뜻하다 《暖かい》  
 (3) a. 축하 《祝賀》      b. 역할 《役割》      c. 국화 《菊の花》  
 (4) a. 감히 《敢て》      b. 남해 《南海》      c. 담화 《談話》  
 (5) a. 흔히 《ふつうに》      b. 문화 《文化》      c. 전화 《電話》  
 (6) a. 조용히 《静かに》      b. 성함 《お名前》      c. 영화 《映画》  
 (7) a. 열흘 《十日》      b. 괄호 《括弧》      c. 실험 《実験》

9. 3. 接辞, 語尾の継ぎ目の「ㅎ」と口腔子音の連続:

A. 語幹末の「ㅎ」: 後に続く破裂音・破擦音と融合して激音に発音され, 摩擦音の場合には融合して濃音「ㄷ」に発音される.

用言語幹:

- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| a. 이렇- 《こうだ》 | b. 그렇- 《そうだ》 | c. 저렇- 《あだ》  |
| d. 많- 《多い》   | e. 좋- 《良い》   | f. 싫- 《嫌だ》   |
| g. 놓- 《放す》   | h. 닳- 《すり減る》 | i. 끓- 《沸騰する》 |

(1) ~ -다 (終止形):

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| a. 이렇다 | b. 그렇다 | c. 저렇다 |
| d. 많다  | e. 좋다  | f. 싫다  |
| g. 놓다  | h. 닳다  | i. 끓다  |

(2) ~ -게 《ように》:

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| a. 이렇게 | b. 그렇게 | c. 저렇게 |
| d. 많게  | e. 좋게  | f. 싫게  |
| g. 놓게  | h. 닳게  | i. 끓게  |

(3) ~ -지요 《ですよ》:

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| a. 이렇지요 | b. 그렇지요 | c. 저렇지요 |
| d. 많지요  | e. 좋지요  | f. 싫지요  |
| g. 놓지요  | h. 닳지요  | i. 끓지요  |

(4) ~ -습니다 《です, ます》:

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 이렇습니다 | b. 그렇습니다 | c. 저렇습니다 |
| d. 많습니다  | e. 좋습니다  | f. 싫습니다  |
| g. 놓습니다  | h. 닳습니다  | i. 끓습니다  |

B. 語幹末の口腔子音と接辞頭音の「ㅎ」と「ㅇ」:

- ① 後に続く破裂音・破擦音とは融合して激音に発音され、摩擦音の場合には融合して濃音「ㄷ」に発音される。  
 ② 語幹末子音が「ㄷ」または「ㅌ」で、接辞の頭音が母音 [i] または [j] をもつ母音の場合、語幹末子音は口蓋化して「ㅌ」または「ㄷ」に発音される。

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| (1) a. 잡히다 《捕まる》       | b. 잡다 《捕まえる》     |
| (2) a. 막히다 《ふさがる》      | b. 막다 《妨げる》      |
| (3) a. 맞히다 《当てる》       | b. 맞다 《合う, 当たる》  |
| (4) a. 넓히다 《広げる》       | b. 넓다 《広い》       |
| (5) a. 밝히다 《明らかにする》    | b. 밝다 《明るい》      |
| (6) a. 얹히다 《載せられる》     | b. 얹다 《載せる》      |
| (7) a. 갇히다 《閉じ込められる》   | b. 가두다 《閉じ込める》   |
| (8) a. 묻히다 《埋まる》       | b. 묻다 《埋める》      |
| (9) a. 붙히다 《はり付ける》     | b. 붙다 《はり付く》     |
| (10) a. 핥히다 《なめられる》    | b. 핥다 《舐める》      |
| (11) a. 같이 《同じく, ~ように》 | b. 같다 《同じだ》      |
| (cf. 티끌 《塵》)           |                  |
| (12) a. 낱알이 《一つ一つ》     | b. 낱 《1個のもの》     |
| (13) a. 굳이 《たって, 固く》   | b. 굳다 《堅固だ》      |
| (cf. 어디 《どこ》)          |                  |
| (14) a. 해돋이 《日の出》      | b. 돋다 《突出する, 昇る》 |
| (cf. 디디다 《踏み締める》)      |                  |

9. 4. 会話練習: —— “いつおいでになりましたか”, “いつ, どこ” ——

単語: 언제 《いつ》, 오셨습니까? 《おいでになりましたか》  
 왔습니다 《来ました》, 어디 《どこ》  
 계십니까 《いらっしゃいますか》, 있습니다 《います》  
 있겠습니다 《います, いるつもりです》

- (1) a. 언제 오셨습니까? —— 어제 왔습니다.  
 b. 어디 계십니까? —— 여관에 있습니다.  
 (2) 이 번에는 어떻게 오셨습니까?  
 a. 사업차 왔습니다.  
 b. 집안 일로 나왔습니다.

- c. 좀 불일이 있어서요.
  - d. 출장 온 김에 들렀습니다.
  - e. 일본에 가는 길에 들렀습니다.
- (3) a. 언제까지 계십니까?      —— 내일까지 있겠습니다.  
 b. 언제 나가시겠습니까?      —— 내일까지 있겠습니다.
- (4) a. 오늘은 어디 계십니까?  
 b. 어디서 묵으십니까?  
 c. 어디서 묵고 계십니까?  
 d. 짐은 어디다 푸셨습니까?
- (5) a. 여관에 있겠습니다.  
 b. 언니네 집에 있습니다.  
 c. 친구네 집에 있습니다.  
 d. 형님 댁에 있습니다.  
 e. 아는 사람 집에 있습니다.

第10課 字母と発音：字母「ㄴ」と「ㄹ」

10. 1. 字母「ㄹ」の位置と発音：

- ① 母音と母音の間 : [-r-]
- ② 語末, または「ㄴ, ㄹ」以外の子音の前 : [-l-]
- ③ 「ㄴ, ㄹ」との連結(前後いずれでも) : [-l·l-]
- ④ 上記以外の子音連続の第2子音としての発音: [-C)·n-]

(第1子音が鼻音でない場合, 調音位置を保ったまま鼻音となる)

- 「ㄱ, ㅋ」 + 「ㄹ」 => [-m·n-]
- 「ㄷ, ㅌ, ㅍ, ㅍ, ㅍ, ㅍ, ㅍ」 + 「ㄹ」 => [-n·n-]
- 「ㄱ, ㅋ, ㄴ」 + 「ㄹ」 => [-ŋ·n-]

- (1) a. 서랍 《引き出し》 b. 토란 《里芋》 c. 불안 《不安》
- (2) a. 달걀 《卵》 b. 올케 《兄弟の嫁(姉妹から)》 c. 서울 《ソウル》
- (3) a. 빨래 《洗濯》 b. 벌레 《虫》
- (4) a. 연락 《連絡》 b. 난로 《ストーブ》 c. 진리 《真理》
- (5) a. 일년 《一年》 b. 칼날 《刃》 c. 돌날(돋날) 《1周年の日》
- (6) a. 담력 《胆力》 b. 음력 《陰曆》 c. 심리 《心理》
- (7) a. 압력 《圧力》 b. 협력 《協力》 c. 십육 《十六》
- (8) a. 능력 《能力》 b. 양력 《新曆》 c. 승리 《勝利》
- (9) a. 박력 《迫力》 b. 속력 《速力》 c. 독립 《独立》

10. 2. 語頭の「ㄴ」と「ㄹ」 —— (漢字音) :

- ① 朝鮮民主主義人民共和国では, 本来の字音の通り表記し発音する.
- ② 大韓民国では,
  - a. 母音 [i] や半母音 [j] の前の位置では「ㄴ」([n])も「ㄹ」([r])も発音されないので表記しない.
  - b. [i] 以外の母音の前では, 本来の「ㄹ」が [n] に発音されるので「ㄴ」([n])で表記する.

- (1) a. 처녀 《若い女》 b. 여자 (녀자) 《女子》
- (2) a. 기념 《記念》 b. 염려 (념려) 《念慮》
- (3) a. \_\_\_\_\_ b. 유대 (뉴대) 《紐帶》
- (4) a. 노력 《努力》 b. 역기 (력기) 《重量上げ》

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| (5) a. 체류 《滞留》  | b. 유학 (류학) 《留学》    |
| (6) a. 추리 《推理》  | b. 이상 (리상) 《理想》    |
| (7) a. 유리 《有利》  | b. 이익 (리익) 《利益》    |
| (8) a. 학력 《學歷》  | b. 역사 (력사) 《歷史》    |
|                 | c. 이력서 (리력서) 《履歷書》 |
| (9) a. 과로 《過勞》  | b. 노동자 (로동자) 《勞働者》 |
| (10) a. 미래 《未來》 | b. 내일 (래일) 《明日》    |
| (11) a. 간략 《簡略》 | b. 냉면 (랭면) 《冷麵》    |

10.3. 會話練習：—— “いつおいでになりましたか” ——

單語：언제 《いつ》， 그저께 《一昨日》  
 오셨습니까? 《おいでになりましたか》  
 왔습니다 《来ました》， 어디 《どこ》  
 계십니까 《いらっしゃいますか》， 있습니다 《います》  
 모레 《明後日》， 있겠습니다 《いるつもりです》

- (1) 안녕하십니까? 오래간만입니다.
- (2) 네, 안녕하십니까? 그 동안 안녕하셨습니까?
- (3) 네, 잘 있었습니다.
- (4) 언제 오셨습니까?
- (5) 그저께 왔습니다.
- (6) 어디 계십니까?
- (7) 여관에 있습니다.
- (8) 언제까지 계십니까?
- (9) 모레까지 있겠습니다.



第 11 課    안녕하세요?

11. 1.    對話 :

- A : 안녕하세요?  
 B : 안녕하세요?  
 A : 네, 오래간만입니다.  
     그 동안 안녕하셨습니까?  
 B : 네, 잘 있었습니다.  
     정말 오래간만입니다.  
     안녕하셨습니까?  
 A : 네, 잘 있었습니다.  
     반갑습니다.  
 B : 저도 반갑습니다.

11. 2.    練習文例 (恭謙形) : -ㅂ니다 (-습니다) と -ㅂ니까 (-습니까)

- |        |                 |                 |
|--------|-----------------|-----------------|
| (1) a. | 안녕하십니까?         | (안녕 · 하시 · ㅂ니까) |
| b.     | 어디 계십니까?        | (계시 · ㅂ니까)      |
| c.     | 안녕하셨습니까?        | (안녕 · 하셨 · 습니까) |
| d.     | 언제 오셨습니까?       | (오셨 · 습니까)      |
| (2) a. | 여관에 있습니다.       | (있 · 습니다)       |
| b.     | 여관에 있겠습니까.      | (있겠 · 습니다)      |
| c.     | 잘 있었습니다.        | (있었 · 습니다)      |
| d.     | 어제 왔습니다.        | (왔 · 습니다)       |
| (3) a. | 저 건 뭘입니까?       | (뭘 · 니까)        |
| b.     | 저 분이 누구입니까?     | (누구 · ㅂ니까)      |
| c.     | 저 분이 김 선생입니까?   | (김 선생 · ㅂ니다)    |
| d.     | 저 분이 누구십니까?     | (누구시 · ㅂ니까)     |
| e.     | 김 선생님이십니까?      | (김 선생 님 · ㅂ니까)  |
| (4) a. | 그 건 책입니다.       | (책 · ㅂ니다)       |
| b.     | 그 분이 김 선생님입니다.  | (있겠 · 습니다)      |
| c.     | 오래간만입니다.        | (오래간만 · ㅂ니다)    |
| d.     | 그 분이 김 선생님이십니다. | (김 선생님 · ㅂ니다)   |
| (5) a. | 저 건 뭘입니까?       | (뭘 · 니까)        |
| b.     | 반갑습니다.          | (반갑 · 습니다)      |
| c.     | 고맙습니다.          | (고맙 · 습니다)      |

1 1 . 3 . 對話練習 (恭謙形) :

- (1) a. 김 선생님은 언제 오셨습니까? (오셨·습니까)  
 --- 어제 오셨습니다. (오셨·습니다)  
 b. 지금 어디 계십니까? (계시·십니까)  
 --- 여관에 계십니다. (계시·입니다)  
 c. 언제까지 계십니까? (계시·십니까)  
 --- 내일까지 계십니다. (계시·입니다)
- (2) a. 어제는 어디 가셨습니까? (가셨·습니까)  
 --- 시장에 갔습니다. (갔·습니다)  
 b. 오늘은 어디 가십니까? (가시·십니까)  
 --- 학교에 갑니다. (가·입니다)  
 c. 내일은 어디 가지겠습니까? (가지겠·습니까)  
 --- 내일도 학교에 가겠습니다. (가겠·습니다)
- (3) a. 김 선생님은 어디 가셨습니까? (가셨·습니까)  
 --- 여관에 가셨습니다. (가셨·습니다)  
 b. 학교에도 오십니까? (오시·십니까)  
 --- 학교에도 오십니다. (오시·입니다)  
 c. 학생도 옵니까? (오·십니까)  
 --- 학생도 옵니다. (오·입니다)
- (4) a. 어제는 어디 갔다 오셨습니까? (갔다 오셨·습니까)  
 --- 박물관에 갔다 왔습니다. (갔다 왔·습니다)  
 b. 어제는 어디 가 보셨습니까? (보셨·습니까)  
 --- 박물관에 가 봤습니다. (봤·습니다)
- (5) a. 오늘은 어디를 가십니까? (가시·십니까)  
 --- 고궁에 갑니다. (가지겠·습니까)  
 b. 내일은 신문사에 가지겠습니까? (가겠·습니까)  
 --- 내일은 방송국에 가겠습니다.

1 1 . 4 . 整理 (恭謙形) : 現在·過去·「未來·推量」

注意 : (a) -<sup>(스)</sup>입니다      갑니다      옵니다      있습니다  
 (b) -<sup>(스)</sup>십니까      가십니까      오십니까      계십니까  
 (c) -<sup>(의)</sup>십시오      가십시오      오십시오      계십시오

- (1) a. 갑니다      갔습니다      가겠습니다  
 b. 갑니까?      갔습니까?      가겠습니까?  
 c. 가십니다      가셨습니다      가지겠습니다

- |     |           |         |          |
|-----|-----------|---------|----------|
|     | d. 가십니까?  | 가셨습니까?  | 가시겠습니까?  |
| (2) | a. 옵니다    | 왔습니까?   | 오겠습니까?   |
|     | b. 옵니까?   | 왔습니까?   | 오겠습니까?   |
|     | c. 오십니까?  | 오셨습니까?  | 오시겠습니까?  |
|     | d. 오십니까?  | 오셨습니까?  | 오시겠습니까?  |
| (3) | a. 있습니다   | 있었습니까?  | 있겠습니까?   |
|     | b. 있습니까?  | 있었습니까?  | 있겠습니까?   |
|     | c. 계십니까?  | 계셨습니까?  | 계시겠습니까?  |
|     | d. 계십니까?  | 계셨습니까?  | 계시겠습니까?  |
| (4) | a. -입니다   | -이었습니까? | -이겠습니까?  |
|     | b. -입니까?  | -이었습니까? | -이겠습니까?  |
|     | c. -이십니까? | -이셨습니까? | -이시겠습니까? |
|     | d. -이십니까? | -이셨습니까? | -이시겠습니까? |

11. 5. あいさつのことば ⑤: 別れ際にいうことば

- (1) 오늘은 이만 실례하겠습니다.  
 --- 그럼 안녕히 가십시오.  
 --- 안녕히 가십시오.
- (2) 또 뵙겠습니다.  
 --- 조심해서 가십시오.
- (3) 살펴서 가십시오
- (4) 또 오십시오
- (5) 종종 놀러 오세요.
- (6) 다시 찾아 뵙겠습니다.
- (7) 또 만납시다.
- (8) 또 만나요.
- (9) 우리 자주 만납시다.
- (10) 또 오겠습니다.
- (11) 시간이 나실 때 종종 놀러 오세요.

第 12 課 소개해 드리겠습니다.

12. 1. 對話 :

노무라 : 소개해 드리겠습니다.  
이 분이 김 인수씨입니다.  
이 분은 야마다씨입니다.

김 인수 : 처음 뵙겠습니다.

야마다 : 처음 뵙겠습니다.  
저는 야마다 타로오라고 합니다.

김 인수 : 선생님 말씀은 많이 들었습니다.

야마다 : 네, 그렇습니까? 잘 부탁드립니다.

김 인수 : 야마다씨는 뭘 공부하십니까?

야마다 : 대학원에서 전자 공학을 공부하고 있습니다.

김 인수 : 우리 말은 어디서 공부하셨습니까?

야마다 : 강습회에 가서 배웠습니다.

김 인수 : 몇 년 동안 공부하셨습니까?

야마다 : 한 일 년 동안 공부했습니다.

김 인수 : 그러십니까? 공부 많이 하셨군요.

야마다 : 많이는 못 했어요. 앞으로 더 열심히 할 생각입니다.

12. 2. 對話文例 —— 이, 그, 저 ——

- (1) 저 분은 김 인수씨입니다  
—— 네, 저 분이 김 인수씨입니까?
- (2) 김 인수씨가 어느 분입니까?  
—— 김 인수씨는 저 분입니다.
- (3) a. 그 분은 김 인수씨입니까?  
—— 네, 그 분이 김 인수씨입니다.  
b. 그 분이 김 인수씨이었습니까?  
—— 네, 그 분이 김인수씨이었습니다.  
c. 그럼, 다음에 그 분을 소개해 주십시오.
- (4) 김 인수씨가 그 분이십니까?  
—— 네, 그 분이 김 인수씨입니다.  
—— 그럼, 김 인수씨를 소개해 주십시오.
- (5) 야마다 선생이 그 분이십니까?  
—— 네, 저 분이 야마다 선생입니다.  
—— 그럼, 저 분을 소개해 주십시오.

- (6) 이 책이 얼마입니까?  
 -- 그 책은 천 원입니다.  
 -- 그럼, 이 책을 주십시오.
- (7) 이 잡지는 얼마입니까?  
 -- 그 잡지는 천 원입니다  
 -- 그럼, 이 잡지를 주십시오.
- (8) a. 이 주간지 주십시오.  
 b. 이 동화 책 주십시오.  
 c. 시내 지도를 주십시오  
 d. 이 버스 노선도 주십시오  
 e. 지하철 노선도 주십시오

1 2 . 3 . 整理——「格」を示す助辞 :

	a. -이/가 《が》	b. -은/는 《は》	c. -을/를 《を》
(1) 그 분	그 분이	그 분은	그 분을
(2) 야마다 선생	야마다 선생이	야마다 선생은	야마다 선생을
(3) 이 (그) 책	이 책이	이 책은	이 책을
(4) 김 인수씨	김 인수씨가	김 인수씨는	김 인수씨를
(5) 이 (그) 잡지	이 잡지가	이 잡지는	이 잡지를
(6) 연필 《鉛筆》	연필이	연필은	연필을
(7) 지우개 《ゴム》	지우개가	지우개는	지우개를
(8) 사전 《辞書》	사전이	사전은	사전을
(9) 공책 《ノート》	공책이	공책은	공책을
(10) 지갑 《財布》	지갑이	지갑은	지갑을
(11) 종이 《紙》	종이가	종이는	종이를
(12) 봉투 《封筒》	봉투가	봉투는	봉투를
(13) 모자 《帽子》	모자가	모자는	모자를

1 2 . 4 . 練習と整理——丁寧な命令形 -(으)시·십시오 :

(1) 안녕히 가십시오.	(가_시·십시오)
(2) 안녕히 계십시오.	(계시·십시오)
(3) 소개해 주십시오. (소개해	주_시·십시오)
(4) 이 책을 주십시오.	(주_시·십시오)
(5) 이 잡지를 주십시오.	(주_시·십시오)
(6) 이 편지를 읽으십시오.	(읽으시·십시오)
(7) 이리 앉으십시오.	(앉으시·십시오)

第13課 이 건 누구 겁니까?

13. 1. 對話 :

김 인수: 이 책은 야마다씨 겁니까?  
 야마다: 아닙니다. 그 건 제 책이 아닙니다.  
 김 선생님 거 아닙니까?  
 김 인수: 아닙니다. 제 것도 아닙니다.  
 야마다: 그럼, 이 건 누구 겁니까?  
 김 인수: 글썄요, 저는 모르겠습니다. 저 사람에게 알아 보십시오.  
 야마다: 여보세요. 이 거, 누구 건지 아십니까?  
 사람 A: 아, 네, 그 거요? 저 사람 것입니다.  
 저 사람에게 갖다 주십시오.  
 야마다: 여보세요. 저, 이 거, 선생님 겁니까?  
 사람 B: 네, 그렇습니다. 굉장히 찾았습니다. 어디 있었습니까?  
 야마다: 저쪽에 있었습니다.

13. 2. 人稱代名詞の形 :

單數	第1人稱		第2人稱	不定稱 (疑問)
	非敬語	敬語	非敬語	
~ (は) ~ 을 ~ が ~ に ~ の	나 (는) 나를 내가 내게 내	저 (는) 저를 제가 제게 제	너 (는) 너를 네가 네게 네	누구 누구를 누가 누구에게 누구 (의)
複數	第1人稱		第2人稱	
	非敬語	敬語	非敬語	
~ (は) ~ 을 ~ が ~ に ~ の	우리 (는) 우리를 우리가 우리에게 우리 (의)	저희들 (은) 저희들을 저희들이 저희들에게 저희들 (의)	너희들 (은) 너희들을 너희들이 너희들에게 너희들 (의)	

13. 2. 1. 第2人称のいい方：

(1) 第2人称に使われる単語：

単語（複数形）	大凡の意味	用いる相手に関する注意点
너 (너희들)	お前, 君, etc.	目下の相手, 子ども, etc.
자네 (~들)	君, あなた, etc.	自分より目下だと思ふ相手.
당신 (~들)	あんた, お前	夫婦相互, 自分と区別するという相手.
댁	おたく, あなた	あまりなじみのない相手.
부인 (~들)	奥さん,	知人の奥さん, その年配の女性, etc.
선생님 (~들)	先生 (先生がた)	尊敬すべき相手, 目上のひと.
사모님 (~들)	奥様 (奥様がた)	先生や上司の奥さん, など.

(너, 자네 以外の単語の複数形はあまり用いられない)

(2) 呼びかけに使われる単語：

職名に一語をつけた形, 例えば, 사장님《社長さん》, 부장님《部長さん》, 국장님《局長さん》, 과장님《課長さん》, 계장님《係長さん》などがごく一般的に用いられる. また, 見知らぬ不特定のひとに対して使える形として, 아저씨《おじさん》(年長の男性), 아주머니《おばさん》(年長の女性), 아가씨《お嬢さん》(若い女性), などがあつた. 目下の者に対する呼称は特になく, 名前を呼びすてにして呼ぶ.

相手が学生や子どもの場合, 학생《学生》, 애《子ども》, 꼬마《ちび》, 아가《幼くて可愛らしく思ふ子供》などを用いて呼びかける.

学生仲間や遊び仲間で上位にあるものへの呼称としては, 형《兄》(男性), 언니《姉》(女性)がもちいられ, 仕事の同僚の間などでの簡便な呼称としては, 姓の前に미스터《Mr.》(男性)や미쓰《Miss》(女性)をつけた形が用いられることがある.

以上のような第三者に対する呼称で, 第2人称者にもよく用いられるものをあげるとすれば次のようになる.

- a. ~ 군 (姓か姓名につけて) 《君》 : 目下の身近な男子青少年に対して
- b. ~ 양 (姓か姓名につけて) 《嬢》 : 目下の若い成年女子少女に対して
- c. ~ 씨 (姓名に付けて) 《~さん》 : 相手と呼ぶ一般的呼称
- d. ~ 선생 (姓名に付けて) 《~さん》 : 同程度までの相手の呼称
- e. ~ 선생님 (姓名に付けて) 《~さん, ~様》 : 目上の人に対する呼称
- f. 姓, または姓名に, 職名や地位の名称, 称号などを付けて, また, そのうえにさらに -님《様》を付けていう (사장(님)《社長》, 과장(님)《課長》, 장군(님)《將軍》, 교수(님)《教授》, 박사(님)《博士》など).

13. 2. 2. 第3人称と指示代名詞：

(1) 第三人称のいい方：

人称代名詞はないので，이 《この》，그 《その》，저 《あの》に人をあらわす単語をつけていう．代表的な表現は次のようなものがある．

	사람 《ひと》	분 《方》	애 《子》	놈 《奴》
この	이 사람	이 분	이 애	이 놈
その	그 사람	그 분	그 애	그 놈
あの	저 사람	저 분	저 애	저 놈
どの	어느 사람	어느 분	어느 애	어느 놈

(2) 指示代名詞の形：

指示代名詞はなく，指示語のうちの連体詞 이 《この》，그 《その》，저 《あの》を，補助名詞 것 《こと，もの》（b系列は弱まり形 거）に冠した形を用いて言う．

また，該当する疑問代名詞もなく，어느 《どの》を補助名詞 것（または 거）に冠した形が用いられる．これらの「疑問代名詞」はそのまま不定代名詞としても用いられる．

	-----	--- 《は》	--- 《を》	--- 《が》
(1) これ	a. 이 것	이 것은	이 것을	이 것이
	b. 이 거	이 건	이 걸	이 게
(2) それ	a. 그 것	그 것은	그 것을	그 것이
	b. 그 거	그 건	그 걸	그 게
(3) あれ	a. 저 것	저 것은	저 것을	저 것이
	b. 저 거	저 건	저 걸	저 게
(4) どれ	a. 어느 것	어느 것은	어느 것을	어느 것이
	b. 어느 거	어느 건	어느 걸	어느 게

(b. 系列は弱まり形： 이 거, 그 거, 저 거, ... のように用いる)



13. 3. 整理と練習文例—体言の否定: -이/가 아니다 《ではない》

- (1) a. 이 건 내 책입니다.  
b. 그 건 내 책이 아닙니다.
- (2) a. 이 건 선생님 사전입니까?  
b. 아닙니다. 제 것이 아닙니다.
- (3) a. 저 사전이 선생님 것입니까?  
b. 저 것도 제 사전이 아닙니다.  
c. 누구 건지 아십니까?  
d. 모르겠습니다.
- (4) a. 이 공책은 제 것이 아닙니다.  
b. 제 공책은 이 것이 아닙니다.
- (5) a. 어느 것이 선생님 공책입니까?  
b. 모르겠습니다.
- (6) a. 이 것이 선생님 지갑이 아닙니까?  
b. 네, 제 지갑이 아닙니다.
- (7) a. 이 건 선생님 모자입니까?  
b. 아닙니다. 내 모자가 아닙니다.
- (8) a. 이 봉투가 누구 겁니까?  
b. 저 사람 봉투가 아닙니까?
- (9) a. 김 선생님은 어디 계십니까?  
b. 나는 여기 있습니다.  
c. 이 건 선생님 것이 아닙니까?  
d. 그 건 내 겁니다. 내게 주십시오.
- (10) a. 야마다씨는 이 방에 계십니까?  
b. 저는 여기 있습니다.  
c. 이 지갑은 야마다씨 거가 아닙니까?  
d. 네, 제 지갑입니다. 제게 주십시오.
- (11) a. 나는 한국 사람입니다.  
b. 일본 사람이 아닙니다.
- (12) a. 그 사람은 남자입니까?  
b. 여자가 아닙니다.
- (13) a. 저는 일본 사람입니다.  
b. 미국 사람이 아닙니다.

第14課 박 대철 선생님 계십니까?

14. 1. 對話練習 :

야마다 : 여기가 박 대철 선생님 사무실입니까?  
 사무원 : 네, 그렇습니다.  
 야마다 : 저, 박 대철 선생님 계십니까?  
 사무원 : 안 계십니다.  
 야마다 : 나가셨습니까?  
 사무원 : 아까 나가셨습니다.  
 야마다 : 언제 돌아 오십니까?  
 사무원 : 곧 돌아 오실 겁니다.  
 잠깐 기다리십시오.  
 야마다 : 그럼 여기서 기다리겠습니다.  
 사무원 : 거기 앉아서 기다리십시오.  
 야마다 : 네, 고맙습니다.

14. 2. 練習文例 : 否定の副詞 안

- |                               |              |
|-------------------------------|--------------|
| (1) a. 박 대철 선생님 계십니까?         | 네, 계십니다.     |
| b. ----                       | 안 계십니다.      |
| (2) a. 박 대철 선생님 안 계십니까?       | 계십니다.        |
| b. ----                       | 네, 안 계십니다.   |
| (3) a. 박 대철 선생님은 오늘 학교에 가십니까? | 네, 가십니다.     |
| b. ----                       | 안 가십니다.      |
| (4) a. 선생님도 학교에 가십니까?         | 저도 갑니다.      |
| b. ----                       | 저도 안 갑니다.    |
| (5) a. 박 대철 선생님은 내일 학교에 오십니까? | 네, 오실 겁니다.   |
| b. ----                       | 안 오실 겁니다.    |
| (6) a. 선생님도 내일 학교에 오십니까?      | 네, 오겠습니다.    |
| b. ----                       | 안 오겠습니다.     |
| (7) a. 선생님은 어제 학교에 오셨습니까?     | 네, 왔습니다.     |
| b. ----                       | 안 왔습니다.      |
| (8) a. 박 대철 선생님도 오셨습니까?       | 네, 오셨습니다.    |
| b. ----                       | 안 오셨습니다.     |
| (9) a. 학생들은 안 왔습니까?           | 학생들도 왔습니다.   |
| b. ----                       | 학생들은 안 왔습니다. |

- |                             |             |
|-----------------------------|-------------|
| (10) a. 여기서 기다리십니까?         | 네, 기다리겠습니다. |
| b. -----                    | 안 기다리겠습니다.  |
| (11) a. 그 사람을 오래 기다리셨습니까?   | 네, 기다렸습니다.  |
| b. -----                    | 안 기다렸습니다.   |
| (12) a. 선생님은 오늘 학교에 계십니까?   | 네, 있습니다.    |
| b. -----                    | 오늘은 없습니다.   |
| (13) a. 선생님은 어제 학교에 계셨습니까?  | 네, 있었습니다.   |
| b. -----                    | 없었습니다.      |
| (14) a. 선생님은 내일 학교에 계시겠습니까? | 네, 있을 겁니다.  |
| b. -----                    | 내일은 없을 겁니다. |

14.3. 現在·過去·推量 —— 作文練習 :

- |               |               |                |
|---------------|---------------|----------------|
| (1) a. 갑니다    | b. 갔습니다       | c. 갈 겁니다       |
| d. 가십니다       | e. 가셨습니다      | f. 가실 겁니다      |
| (2) a. 안 갑니다  | b. 안 갔습니다     | c. 안 갈 겁니다     |
| d. 안 가십니다     | e. 안 가셨습니다    | f. 안 가실 겁니다    |
| (3) a. 옵니다    | b. 왔습니다       | c. 올 겁니다       |
| d. 오십니다       | e. 오셨습니다      | f. 오실 겁니다      |
| (4) a. 있습니다   | b. 있었습니다      | c. 있을 겁니다      |
| d. 계십니다       | e. 계셨습니다      | f. 계실 겁니다      |
| (5) a. 없습니다   | b. 없었습니다      | c. 없을 겁니다      |
| d. 안 계십니다     | e. 안 계셨습니다    | f. 안 계실 겁니다    |
| (6) a. 기다립니다  | b. 기다렸습니다     | c. 기다릴 겁니다     |
| d. 기다리십니다     | e. 기다리셨습니다    | f. 기다리실 겁니다    |
| (7) a. 그 분입니다 | b. 그 분이었습니다   | c. 그 분일 겁니다    |
| d. 그 분이십니다    | e. (그 분이셨습니다) | f. (그 분이실 겁니다) |
| (8) a. 아닙니다   | b. 아니었습니다     | c. 아닐 겁니다      |
| d. 아니십니다      | e. (아니셨습니다)   | f. (아니실 겁니다)   |
| (9) a. 읽습니다   | b. 읽었습니다      | c. 읽을 겁니다      |
| d. 읽으십니다      | e. 읽으셨습니다     | f. 읽으실 겁니다     |

1 4 . 4 . 練習と整理 : - ㄱ - 《その気持ち・考えている》

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| (1) 내일 학교 가지겠습니까?   | 네, 가겠습니다.    |
| (2) 내일도 학교에 오시겠습니까? | 네, 오겠습니다.    |
| (3) 여기서 기다리겠습니까?    | 네, 기다리겠습니다.  |
| (4) 내일은 댁에 계시겠습니까?  | 네, 집에 있겠습니다. |
| (5) 언제 돌아 오시겠습니까?   | 내일 돌아 오겠습니다. |
| (6) 시장하시겠습니까?       |              |
| (7) 피곤하시겠습니까?       |              |

1 4 . 5 . あいさつのことば ㉞ : 久しぶりに出会ったときにいうことば.

- |                          |               |
|--------------------------|---------------|
| (1) a. 안녕하십니까?           |               |
| b. 네, 안녕하십니까?            |               |
| (2) a. 오래간만입니다.          | 요즈음 어떠세요?     |
| b. 오래간만입니다.              | 그 동안 안녕하셨습니다? |
| c. 정말 오래간만입니다.           | 안녕하셨습니다?      |
| (3) a. 네, 덕분에 잘 있었습니다.   |               |
| b. 잘 지내고 있습니다.           |               |
| c. 네, 잘 있었습니다.           | 반갑습니다.        |
| d. 정말 반갑습니다.             |               |
| (4) a. 부모님께서도 편안하신지요?    |               |
| b. 부모님께서도 안녕하신지요?        |               |
| c. 부모님께서도 별고 없으신지요?      |               |
| d. 부모님도 편찮은 데 없으시지요?     |               |
| (5) a. 네, 정정하십니다.        |               |
| b. 여전하십니다.               |               |
| (6) a. 부인께서도 잘 지내세요?     |               |
| b. 자녀들도 잘 지내지요?          |               |
| c. 애들은 잘 크고요?            |               |
| d. 애들은 건강 하고요?           |               |
| e. 애들은 공부 잘 하고요?         |               |
| f. 애들은 학교 잘 다니고요?        |               |
| (7) a. 네, 덕분에 다들 잘 있습니다. |               |
| b. 네, 덕분에 다들 잘 지내고 있습니다. |               |

第 15 課    오래 기다리셨습니다.

15. 1.    対話 :

박 대철 : 오래 기다리셨습니다. 제가 박 대철입니다.

야마다 : 처음 뵙겠습니다. 저는 야마다라고 합니다.

박 대철 : 아 네, 야마다 선생이십니까?

노무라 선생한테서 말씀은 많이 들었습니다.

야마다 : 네, 그렇습니까? 잘 부탁드립니다.

박 대철 : 노무라 선생은 어떻게 아십니까?

야마다 : 학생 시절부터 압니다.

박 대철 : 네, 그러십니까? 토요일에 사십니까?

야마다 : 토요일 교외에 삽니다.

박 대철 : 우리 나라에는 처음 오셨습니까?

야마다 : 네, 처음 왔습니다.

박 대철 : 혼자 오셨습니까?

야마다 : 네, 혼자서 왔습니다.

15. 2.    練習文例 : -에 《~に》 と -에서 《~で, ~から》

- (1) 내일도 학교에 오겠습니다.
- (2) 저도 학교에 가겠습니다.
- (3) 집에 돌아 가겠습니다.
- (4) 우리 나라에는 언제 오셨습니까?
- (5) 일본에 가셨습니다.
- (6) 야마다 선생은 지금 서울에 계십니다.
- (7) 김 인수씨는 지금 댁에 안 계십니다.
- (8) 그 의자에 앉으십시오.
- (9) 오늘 시골에서 돌아 왔습니다.
- (10) 일본에서 오셨습니까?
- (11) 선생님은 아까 사무실에서 나가셨습니다.
- (12) 어제 학교에서 만났습니다.
- (13) 내일 집에서 기다리겠습니다.
- (14) 그 노래는 라디오에서 처음 들었습니다.
- (15) 그 사진은 신문에서 봤습니다.
- (16) 그 이야기는 책에서 읽었습니다.
- (17) 그 책은 도서관에서 읽었습니다.

15. 3. 練習：人間に使う -에게(서) と -한테(서) 《~に, ~から》

- (1) 그 건 저 분 모자입니다. 저 분에게 (한테) 드리십시오.
- (2) 그 이야기는 미리 선생님에게 (한테) 말씀드렸습니다.
- (3) 저는 모르겠습니다. 과장님에게 (한테) 알아 보십시오.
- (4) 이 편지는 미국 친구에게서 (한테서) 받았습니다.
- (5) 그 이야기는 우리 선생님에게서 (한테서) 어제 들었습니다.
- (6) 선생님에게 ((서), 한테(서)) 칭찬받았습니다.
- (7) 그저께 어머니에게 (한테) 편지 부쳤습니다.
- (8) 이 반지는 어머니에게서 (한테서) 물려 받았습니다.

15. 4. 練習：現在・過去 (-았/었-)・「未来」(-겠-) ——①

- (1) a. 갑니다                      b. 갔습니다                      c. 가겠습니다
- d. 가십니다                e. 가셨습니다                f. 가시겠습니다
- (2) a. 만납니다                    b. 만났습니다                c. 만나겠습니다
- d. 만나십니다               e. 만나셨습니다               f. 만나시겠습니다
- (3) a. 옵니다                        b. 왔습니다                    c. 오겠습니다
- d. 오십니다                  e. 오셨습니다                f. 오시겠습니다
- (4) a. 봅니다                        b. 봤습니다                    c. 보겠습니다
- d. 보십니다                  e. 보셨습니다                f. 보시겠습니다
- (5) a. 압니다                        b. 알았습니다                c. 알겠습니다
- d. 아십니다                  e. 아셨습니다                f. 아시겠습니다
- (6) a. 삽니다                        b. 살았습니다                c. 살겠습니다
- d. 사십니다                  e. 사셨습니다                f. 사시겠습니다
- (7) a. 읽습니다                    b. 읽었습니다                c. 읽겠습니다
- d. 읽으십니다                e. 읽으셨습니다               f. 읽으시겠습니다.
- (8) a. 앉습니다                    b. 앉았습니다                c. 앉겠습니다.
- d. 앉으십니다                e. 앉으셨습니다               f. 앉으시겠습니다

(参考：고맙습니다, 반갑습니다, e t c.)

15. 5. あいさつのことば ⑦：日常たがいにかわすことば

- (1) a. 안녕히 주무셨습니까?
- 네, 안녕히 주무셨습니까?
- b. 잘 잤니?
- c. 잘 잤어요?
- d. 편히 주무셨습니까?

- (2) a. 안녕히 주무십시오.  
 — 네, 안녕히 주무십시오.  
 b. 편히 쉬세요.  
 c. 편히 주무세요.
- (3) a. 진지 잡수셨습니까?  
 b. 식사 하셨습니까?  
 c. 네 먹었습니다.  
 d. 아뇨, 아직 안 먹었습니다.
- (4) a. 어서 잡수십시오.  
 b. 천천히 많이 드십시오  
 c. 김치 맛 좀 보세요.  
 d. 불고기 맛 좀 보세요.  
 e. 잘 먹겠습니다.  
 f. 이제 다 먹었습니다.  
 g. 이제 됐습니다.  
 h. 많이 먹었습니다.  
 i. 맛 있게 먹었습니다.
- (5) a. 어서 드십시오.  
 b. 그럼 들겠습니다.
- (6) a. 많이 드십시오.  
 b. 잘 먹었습니다.  
 c. 다 먹었습니다.
- (7) 먼저 나갑니다.
- (8) a. 먼저 나가십시오  
 b. 먼저 일어나겠습니다.  
 c. 먼저 실례하겠습니다.  
 d. 먼저 가겠습니다.

第16課 같이 식사나 하시겠습니까?

16. 1. 對話 :

박 대철 : 멀리 객지에 나오셔서 고생하십니다.

야마다 : 뭘요, 괜찮습니다.

박 대철 : 숙소는 어디십니까?

야마다 : 호텔에 있습니다.

\*\*\*

\*\*\*

\*\*\*

박 대철 : 안녕히 주무셨습니까?

야마다 : 네, 잘 잤습니다.

박 대철 : 오늘, 약속이라도 있으십니까?

야마다 : 아뇨, 없습니다. 오늘은 다 끝났습니다.

박 대철 : 그러면 천천히 쉬고 가십시오.

같이 식사나 하시겠습니까?

야마다 : 네, 좋습니다.

박 대철 : 뭘 잡수시겠습니까?

일식으로 하시겠습니까? 한식으로 하시겠습니까?

야마다 : 한식이 좋겠습니다.

16. 2. 練習 : 現在·過去 (-았/었-) · 「未來」(-겠-) —— ②

- |             |            |             |
|-------------|------------|-------------|
| (1) a. 나옵니다 | b. 나왔습니다   | c. 나오겠습니다   |
| d. 나오십니다    | e. 나오셨습니다  | f. 나오시겠습니다  |
| (2) a. 끝납니다 | b. 끝났습니다   | c. 끝나겠습니다   |
| d. 끝나십니다    | e. 끝나셨습니다  | f. 끝나시겠습니다  |
| (3) a. 합니다  | b. 했습니다    | c. 하겠습니다    |
| d. 하십니다     | e. 하셨습니다   | f. 하시겠습니다   |
| (4) a. 있습니다 | b. 있었습니다   | c. 있겠습니다    |
| d. 계십니다     | e. 계셨습니다   | f. 계시겠습니다   |
| g. 있으십니다    | h. 있으셨습니다  | i. 있으시겠습니다  |
| (5) a. 없습니다 | b. 없었습니다   | c. 없겠습니다    |
| d. 안 계십니다   | e. 안 계셨습니다 | f. 안 계시겠습니다 |
| g. 없으십니다    | h. 없으셨습니다  | i. 없으시겠습니다  |



- |              |            |             |
|--------------|------------|-------------|
| (6) a. 잡니다   | b. 잤습니다    | c. 자겠습니다    |
| d. 주무십니다     | e. 주무셨습니다  | f. 주무시겠습니다  |
| (7) a. 먹습니다  | b. 먹었습니다   | c. 먹겠습니다    |
| d. 잡수십니다     | e. 잡수셨습니다  | f. 잡수시겠습니다  |
| (8) a. 좋습니다  | b. 좋았습니다   | c. 좋겠습니다    |
| d. 좋으십니다     | e. 좋으셨습니다  | f. 좋으시겠습니다  |
| (9) a. 괜찮습니다 | b. 괜찮았습니다  | c. 괜찮겠습니다   |
| d. 괜찮으십니다    | e. 괜찮으셨습니다 | f. 괜찮으시겠습니다 |

16. 3. 整理と練習：親しみと気やすさをもつていう丁寧表現(恭親形)  
-세요 と -어요(-아요)

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| (1) a. 선생님 안녕하세요?        | ((-십니까?))        |
| b. 네, 여러분 안녕하세요?         | ((-세요?))         |
| (2) a. 선생님, 그 동안 안녕하십니까? | ((-했습니다?))       |
| b. 네, 다들 안녕하셨어요?         | ((-했어요?))        |
| (3) a. 그럼, 다들 안녕히 가세요.   | ((-세요))          |
| b. 선생님, 안녕히 계십시오.        | ((-십시오))         |
| (4) a. 선생님, 안녕히 가십시오.    | ((-십시오))         |
| b. 그럼, 가겠어요. 안녕히 계세요.    | ((-세요))          |
| (5) a. 그럼, 먼저 나 가겠습니다.   | ((-세요, -십시오))    |
| b. 네, 안녕히 가세요.           | ((-세요, -십시오))    |
| (6) a. 안녕히 주무셨어요?        | ((-했어요, -했습니다?)) |
| b. 네, 안녕히 주무셨어요?         | ((-했어요, -했습니다?)) |
| (7) a. 그럼, 안녕히 주무세요.     | ((-세요, -십시오))    |
| b. 네, 안녕히 주무세요.          | ((-세요, -십시오))    |
| (8) a. 어서 잡수세요.          | ((-세요, -십시오))    |
| b. 네, 잘 먹겠어요.            | ((-겠어요, -겠습니다))  |
| (9) a. 많이 드세요.           | ((-세요, -십시오))    |
| b. 네, 다 먹었어요.            | ((-었어요, -었습니다))  |

16. 4. あいさつのことば ⑧：日常たがいにかわすことば

- (1) 감사합니다.
- (2) 고맙습니다.
- (3) 미안합니다.

- (4) a. 천만의 말씀입니다.  
 b. 별 말씀을 다 하십니다.
- (5) a. 마음에 두지 마세요.  
 b. 고맙습니다. 알겠습니다.  
 c. 말씀하신 대로 해 보겠습니다.  
 d. 하시는 말씀 잘 알겠습니다만 힘들지도 모르겠습니다.  
 e. 제 힘에 겨운 일인 것 같습니다.  
 f. 제 힘껏 노력해 보겠습니다.  
 g. 힘 닿는대로 해 보겠습니다.
- (6) a. 마침 잘 오셨습니다.  
 b. 오셨군요. 어서 들어 오십시오.  
 c. 어머니, 웬일이세요?  
 d. 좀 들어 오십시오.  
 e. 이리 앉으세요.  
 f. 편히 앉으세요.  
 g. 차 한 잔 하시겠어요?  
 h. 차 한 잔 마실래요?  
 i. 어떤 일로 오셨어요?  
 j. 좀 의논 드릴 일이 있어서요.  
 k. 좀 여쭙 볼 일이 있어서요.  
 l. 아이구, 이 거 웬일이세요?
- (7) a. 늦어서 미안합니다.  
 b. 그 동안 찾아 뵙지 못 해서 죄송합니다.  
 c. 잘못 했습니다. 다시는 안 그러겠어요.  
 d. 니가 연희니?  
 e. 너희 집 어디니?  
 f. 너희 아버지 성함이 어떻게 되니?  
 g. 어디 사니?  
 h. 너 이름이 뭐니?  
 i. 아가야, 이름이 뭐니?  
 j. 꼬마야, 이름이 뭐니?  
 k. 학생 이름이 뭐예요?  
 l. 공부 잘 하게 생겼는데 너 이름이 뭐니?  
 m. 예쁘게 생겼는데 너 이름이 뭐니?

第17課　　좀 더 드십시오.

17. 1. 對話：

김 인수 : 진지 잡수셨습니까?  
야마다 : 아직 못 먹었습니다.  
김 인수 : 그러면 나가서 같이 식사하실까요?  
야마다 : 네, 그렇게 하겠습니다.  
김 인수 : 뭘 하시겠습니까?  
야마다 : 불고기를 먹겠습니다.  
김 인수 : 그럼 시키겠습니다. 시장하시겠습니까.  
야마다 : 괜찮습니다.

\*\*\*　　\*\*\*

김 인수 : 이제 밥상이 나옵니다.  
야마다 : 네, 아주 맛 있게 보입니다.  
김 인수 : 자, 어서 드십시오.  
야마다 : 네, 그럼 잘 먹겠습니다.  
김 인수 : 자, 좀 더 드십시오.  
야마다 : 네, 많이 먹었습니다.  
김 인수 : 다 드셨습니까?  
야마다 : 네, 잘 먹었습니다.

17. 2. 敬意表現と丁寧表現 (尊敬 : a, b, c ; 謙讓 : g, h, i)

- |     |                  |                    |                        |
|-----|------------------|--------------------|------------------------|
| (1) | a. 잡수십니다<br>잡수세요 | b. 잡수셨습니다<br>잡수셨어요 | c. 잡수시겠습니까?<br>잡수시겠어요? |
|     | d. 먹습니다<br>먹어요   | e. 먹었습니다<br>먹었어요   | f. 먹겠습니다<br>먹겠어요       |
| (2) | a. 주무십시오<br>주무세요 | b. 주무셨습니다<br>주무셨어요 | c. 주무시겠습니까?<br>주무시겠어요? |
|     | d. 잡니다<br>자요     | e. 잤습니다<br>잤어요     | f. 자겠습니다<br>자겠어요       |

- |     |                    |                      |                        |
|-----|--------------------|----------------------|------------------------|
| (3) | a. 드십니다<br>드세요     | b. 드셨습니다<br>드셨어요     | c. 드시겠습니다<br>드시겠어요     |
|     | d. 듭니다<br>들어요      | e. 들었습니다<br>들었어요     | f. 들겠습니다<br>들겠어요       |
| (4) | a. 사십니다<br>사세요     | b. 사셨습니다<br>사셨어요     | c. 사시겠습니다<br>사시겠어요     |
|     | d. 삽니다<br>사요       | e. 샀습니다<br>샀어요       | f. 사겠습니다<br>사겠어요       |
| (5) | a. 사십니다<br>사세요     | b. 사셨습니다<br>사셨어요     | c. 사시겠습니다<br>사시겠어요     |
|     | d. 삽니다<br>살아요      | e. 살았습니다<br>살았어요     | f. 살겠습니다<br>살겠어요       |
| (6) | a. 쓰십니다<br>쓰세요     | b. 쓰셨습니다<br>쓰셨어요     | c. 쓰시겠습니다<br>쓰시겠어요     |
|     | d. 씁니다<br>써요       | e. 썼습니다<br>썼어요       | f. 쓰겠습니다<br>쓰겠어요       |
| (7) | a. 말씀하십니다<br>말씀하세요 | b. 말씀하셨습니다<br>말씀하셨어요 | c. 말씀하시겠습니다<br>말씀하시겠어요 |
|     | d. 말합니다<br>말해요     | e. 말했습니다<br>말했어요     | f. 말하겠습니다<br>말하겠어요     |
|     | g. 말씀드립니다<br>말씀드려요 | h. 말씀드렸습니다<br>말씀드렸어요 | i. 말씀드리겠습니다<br>말씀드리겠어요 |
| (8) | a. 주십니다<br>주세요     | b. 주셨습니다<br>주셨어요     | c. 주시겠습니다<br>주시겠어요     |
|     | d. 줍니다<br>주어요      | e. 주었습니다<br>주었어요     | f. 주겠습니다<br>주겠어요       |
|     | g. 드립니다<br>드려요     | h. 드렸습니다<br>드렸어요     | i. 드리겠습니다<br>드리겠어요     |
| (9) | a. 만나십니다<br>만나세요   | b. 만나셨습니다<br>만나셨어요   | c. 만나시겠습니다<br>만나시겠어요   |
|     | d. 만납니다<br>만나요     | e. 만났습니다<br>만났어요     | f. 만나겠습니다<br>만나겠어요     |
|     | g. 뵙습니다<br>뵙어요     | h. 뵈셨습니다<br>뵈었어요     | i. 뵈겠습니다<br>뵈겠어요       |

- (10) a. 물어 보십니다      b. 물어 보셨습니다      c. 물어 보시겠습니까  
       물어 보세요        물어 보셨어요        물어 보시겠어요  
 d. 물어 봅니다        e. 물어 봤습니다        f. 물어 보겠습니다  
       물어 봐요        물어 봤어요        물어 보겠어요  
 g. 여쭙어 보십니다      h. 여쭙어 봤습니다      i. 여쭙어 보겠습니다  
       여쭙어 봐요        여쭙어 봤어요        여쭙어 보겠어요
- (11) a. ----                      b. ----                      c. ----  
       d. ----                      e. ----                      f. ----  
 g. 모십니다                h. 모셨습니다              i. 모시겠습니까  
       모셔요                    모셨어요                    모시겠어요

17. 3. あいさつのことば ⑨: 日常たがいにかわすことば

- (1) 점심 같이 잡수시겠습니까?  
 -- 먼저 잡수세요. 저는 이따가 먹겠습니다.  
 -- 그럼 먼저 먹겠습니다.
- (2) a. 어젯 밤은 편안히 주무셨습니까?  
 -- 네, 잘 잤습니다.  
 b. 폭 주무셨습니까?  
 -- 폭 잤더니 몸이 거뜨합니다.
- (3) 늦게 주무셨습니까?  
 a. 아닙니다. 일찍 잤습니다.  
 b. 좀 늦게 잤습니다.  
 c. 잠을 설쳤습니다.  
 d. 잠을 설쳤더니 좀 졸립습니다.  
 e. 선 잠을 잤습니다.
- (4) 아버님께서서는 주무십니까?  
 -- 네, 아버님은 잠자리에 드셨습니다.
- (5) 약주 한 잔 더 드십시오  
 a. 술은 많이 들었습니다.  
 b. 술은 많이 마셨습니다.  
 c. 술은 이제 됐습니다.
- (6) 그럼 사과라도 좀 드시겠습니까?  
 -- 네, 조금만 들겠습니다.
- (7) a. 토요일에 사십니까?  
 -- 아뇨, 교외에 삽니다.  
 b. 우리 나라에서는 어디서 사시겠습니까?  
 -- 서울에서 살겠습니다.

- (8) 한국내 주소는 어떻게 됩니까?
- (9) a. 차표는 어디서 사시겠습니까?  
 --- 여행사 대리점에서 사겠습니다.  
 b. 언제나 거기서 사십니까?  
 --- 네, 대개 거기서 삽니다.  
 c. 비행기 표는 왕복으로 사시겠습니까?  
 --- 편도로 사겠습니다.
- (6) a. 편지는 쓰셨습니까?  
 --- 아직 못 썼습니다.  
 b. 언제 쓰시겠습니까?  
 --- 오늘 밤에 쓰겠습니다.  
 c. 편지 부치셨어요?  
 --- 네, 부치고 왔습니다.
- (7) a. 누가 말했어요?  
 --- 선생님이 말씀하셨습니다.  
 b. 선생님한테 누가 말했어요?  
 --- 사실은 제가 선생님한테 말씀드렸어요.
- (8) a. 누구에게 주었어요?  
 --- 할아버지께 드렸어요.  
 b. 할아버지께서 주셨어요?  
 --- 네, 할아버지께서 주셨습니다.
- (9) a. 저희 아버지를 만나 보시겠습니까?  
 --- 내일 뵈겠습니다.  
 b. 제 동생도 만나시겠어요?  
 --- 네, 만나겠어요.
- (10) a. 누구한테 물어 봤어요?  
 --- 선생님께 여쭙어 봤습니다.  
 b. 뭐라고 말씀하셨어요?  
 --- 제가 지금 말씀드린 대로 말씀하셨습니다.  
 c. 한 번 더 여쭙어 보겠어요.
- (11) a. 선생님을 모시고 호텔로 가겠습니다.  
 b. 이 자리에 과장님을 모시고 말씀드리겠습니다.  
 c. 할아버지는 형님이 모시고 계십니다.

第18課 일부러 마중나와 주셔서 고맙습니다.

18. 1. 對話 :

노무라 : 멀리 여행오시느라고 피곤하시겠습니다.

박 대철 : 바쁘신데, 일부러 마중나와 주셔서 고맙습니다.

노무라 : 천만의 말씀입니다.

그러면, 호텔로 모시고 가겠습니다.

박 대철 : 네, 고맙습니다.

노무라 : 짐이 있으시면 맡기십시오.

\*\*\*        \*\*\*

노무라 : 이제 호텔에 다 왔습니다.

박 대철 : 네 감사합니다. 오늘은 너무 췌를 끼쳤습니다.

노무라 : 별말씀을 다 하십니다.

오늘은 이만 푹 쉬십시오. 내일 아침에 또 뵙겠습니다.

박 대철 : 그럼 기다리겠습니다. 안녕히 가십시오.

\*\*\*        \*\*\*

노무라 : 안녕히 주무셨습니까?

박 대철 : 네, 안녕히 주무셨습니까? 어제는 수고가 많으셨습니다.

노무라 : 별말씀을 다 하십니다.

18. 2. 練習文例 : —— -느라고 ; 모시다 ; 다 했다 ——

- (1) 멀리까지 여행오시느라고 피곤하시겠습니다.
- (2) 빨리 오느라고 달려 왔습니다.
- (3) 시험 준비하느라고 밤 늦게까지 공부했습니다.
- (4) 소설을 읽느라고 잠 잘 시간도 없습니다.
- (5) 전화 거느라고 이렇게 늦었습니다.
- (6) 선생님을 호텔로 모시고 가겠습니다.
- (7) 택시로 공항에서 손님을 모시고 왔습니다.
- (8) 오늘은 박물관장을 모시고, 여러 분과 같이 말씀을 듣겠습니다.

- (9) 어제는 강선생님을 모셨습니다.
- (10) 벌써 비행장에 다 왔습니다.
- (11) 토요일에 다 왔습니다.
- (12) 원고는 이제 다 썼습니다.
- (13) 시간이 다 됐습니다.
- (14) 이렇게 추우니 해수욕은 다 틀렸습니다.

18. 3. 現在・過去・未來

- |              |            |                 |
|--------------|------------|-----------------|
| (1) a. 피곤합니다 | b. 피곤했습니다  | c. 피곤하겠습니다      |
| d. 피곤하십니다    | e. 피곤하셨습니다 | f. 피곤하시겠습니다     |
| (2) a. 고생합니다 | b. 고생했습니다  | c. 고생하겠습니다      |
| d. 고생하십니다    | e. 고생하셨습니다 | f. 고생하시겠습니다     |
| (3) a. 많습니다  | b. 많았습니다   | c. 많겠습니다        |
| d. 많으십니다     | e. 많으셨습니다  | f. 많으시겠습니다      |
| (4) a. 고맙습니다 | b. 고마웠습니다  | c. 고맙겠습니다       |
| d. ----      | e. ----    | f. ----         |
| (5) a. 감사합니다 | b. 감사했습니다  | c. (-면) 감사하겠습니다 |
| d. ----      | e. ----    | f. ----         |

18. 4. あいさつのことば ⑩ : 労をねぎらってということば

- (1) a. 마중나와 주셔서 고맙습니다.
- b. 전송해 주셔서 감사합니다.
- c. 일부러 나와 주셔서 고맙습니다.
- d. 바쁘신데 나와 주셔서 고맙습니다.
- e. 잘 오셨습니다.
- f. 피곤하시겠습니다. 이제 그만 들어 가세요.
- (2) a. 수고하십니다.
- b. 수고가 많으십니다.
- c. 수고하셨습니다.
- d. 수고가 많으셨습니다.
- e. 수고하세요.
- f. 수고하십시오.



- (3) a. 고생하십니다.  
 b. 고생하셨습니다.  
 c. 고생이 많으십니다.  
 d. 고생이 많으셨습니다.  
 e. 얼마나 고생이 많으셨습니까?
- (4) 피곤하시겠습니다.
- (5) a. 시장하시겠습니다.  
 b. 시장기가 듭니다.
- (6) a. 폐 많이 끼쳤습니다.  
 b. 폐가 많았습니다.  
 c. 폐 좀 끼쳐도 괜찮습니까.  
 d. 폐만 끼치고 갑니다.  
 e. 신세 많이 졌습니다.
- (7) a. 미안합니다.  
 b. 죄송합니다.  
 c. 사과드립니다.  
 d. 약속을 못 지켜서 죄송합니다.  
 e. 잘못 했습니다. 다시는 안 그러겠습니다.
- (8) a. 천만의 말씀입니다.  
 b. 별 말씀을 다 하십니다.  
 c. 과분한 말씀입니다.
- (9) a. 잘 부탁하겠습니다.  
 b. 잘 부탁드립니다.
- (10) a. 잘 들보아 주십시오.  
 b. 시중 좀 들어 주십시오.

第19課 직업은 뭘니까?

19. 1. 對話:

김 희석: 저, 노무라선생님이십니까?

노무라: 네, 제가 노무라입니다만, 어떻게 오셨습니까?

김 희석: 처음 뵙겠습니다. 김 희석이라고 합니다.

박 대철선생님 소개로 찾아 왔습니다.

노무라: 아 네, 말씀은 많이 들었습니다. 들어 오세요.

이리 앉으십시오.

김 희석: 바쁘신데 갑자기 찾아 와서 죄송합니다.

노무라: 이야기는 대강 들었습니다. 지금 알아 보는 중인데, 그 일은 며칠만 더 기다려 주십시오.

김 희석: 알겠습니다. 잘 부탁드립니다.

노무라: 그런데 김 희석씨 직업은 무엇입니까?

김 희석: 무역회사 직원입니다.

노무라: 무슨 일을 하십니까?

김 희석: 영업과에 근무하고 있습니다.

노무라: 회사 일로 바쁘시겠습니까?

김 희석: 요새 좀 바쁩니다.

노무라: 댁에는 늦게 들어 가십니까?

김 희석: 네, 매일 늦게 들어 갑니다.

노무라: 토요일에는 시간이 있으십니까?

김 희석: 토요일 오후에는 시간이 있습니다.

노무라: 그러면 요다음 토요일에 다시 찾아 오세요.

19.2. 活用形の構造：

I.	II. 語幹接辭			III. 語尾	
活用語幹	(1) -(으)시- 《尊敬》	(2) A. -는- 《現在》			-군(요) -구나
		(2) B. -ㄴ(는)- 《現在》			-다
		(2) C. ① -았(었)- 《過去》	(2) C. ② -았(었)- 《過去》	(2) C. ③ -겠- 《未來推量》	上記以外の 活用語尾

注意： II (2) A (-는-) と、II (2) B (-ㄴ(는)-) とは動詞の現在に限り現われる形で、-는군, -는군요, -는구나, および -ㄴ다 (-는다) という結合などに現われるだけである。形容詞の場合はこれらの形は現われず、語尾 -군, -군요, -구나, -다는、I (活用語幹)、または II (1) (活用語幹 -(으)시-) の形に直接につく。現在でなく過去または未来・推量の形である場合には、動詞、形容詞の区別なく、-았군 (-었군), -았군요 (-었군요), -았구나 (-었구나), -았다 (-었다) ; -겠군, -겠군요, -겠구나, -겠다 という形をとる。

辭書などに見出し語としてとる形は、I 活用語幹に語尾 -다を接尾させた形で、「原形」などという。形容詞の場合は“原形”のまま“現在形”として使えるが、動詞の場合にはそのままでは無理で、語尾 -다の前に -ㄴ(는)- をつける必要があり、-ㄴ다、または -는다という形になってはじめて生きた表現として用いることができる。

19. 3. 動詞と形容詞の現在形

a. 原形

b. 終止形

c. 詠嘆形

d. 丁寧形

I. 形容詞の場合:

- |                  |        |         |         |
|------------------|--------|---------|---------|
| (1) a. 차다 《冷たい》  | b. 차다  | c. 차군요  | d. 참니다  |
| (2) a. 싸다 《やすい》  | b. 싸다  | c. 싸군요  | d. 싸입니다 |
| (3) a. 쓰다 《苦い》   | b. 쓰다  | c. 쓰군요  | d. 씹니다  |
| (4) a. 달다 《あまい》  | b. 달다  | c. 달군요  | d. 답니다  |
| (5) a. 길다 《長い》   | b. 길다  | c. 길군요  | d. 김니다  |
| (6) a. 가늘다 《細い》  | b. 가늘다 | c. 가늘군요 | d. 가늉니다 |
| (7) a. 좁다 《狭い》   | b. 좁다  | c. 좁군요  | d. 좁습니다 |
| (8) a. 높다 《高い》   | b. 높다  | c. 높군요  | d. 높습니다 |
| (9) a. 적다 《少い》   | b. 적다  | c. 적군요  | d. 적습니다 |
| (10) a. 늦다 《晚い》  | b. 늦다  | c. 늦군요  | d. 늦습니다 |
| (11) a. 짧다 《短い》  | b. 짧다  | c. 짧군요  | d. 짧습니다 |
| (12) a. 굵다 《太い》  | b. 굵다  | c. 굵군요  | d. 굵습니다 |
| (13) a. 젊다 《若い》  | b. 젊다  | c. 젊군요  | d. 젊습니다 |
| (14) a. 옳다 《正しい》 | b. 옳다  | c. 옳군요  | d. 옳습니다 |

II. 動詞の場合

- |                    |        |          |         |
|--------------------|--------|----------|---------|
| (1) a. 차다 《蹴る》     | b. 찬다  | c. 차는군요  | d. 참니다  |
| (2) a. 싸다 《包む》     | b. 싹다  | c. 싸는군요  | d. 싸입니다 |
| (3) a. 쓰다 《書く, 使う》 | b. 쓴다  | c. 쓰는군요  | d. 씹니다  |
| (4) a. 달다 《とりつける》  | b. 단다  | c. 다는군요  | d. 답니다  |
| (5) a. 밀다 《押す》     | b. 민다  | c. 미는군요  | d. 밍니다  |
| (6) a. 만들다 《造る》    | b. 만든다 | c. 만드는군요 | d. 만듭니다 |
| (7) a. 잡다 《捕える》    | b. 잡는다 | c. 잡는군요  | d. 잡습니다 |
| (8) a. 덮다 《覆う》     | b. 덮는다 | c. 덮는군요  | d. 덮습니다 |
| (9) a. 적다 《書きとめる》  | b. 적는다 | c. 적는군요  | d. 적습니다 |
| (10) a. 찢다 《破る》    | b. 찢는다 | c. 찢는군요  | d. 찢습니다 |
| (11) a. 밟다 《踏む》    | b. 밟는다 | c. 밟는군요  | d. 밟습니다 |
| (12) a. 긁다 《かく》    | b. 긁는다 | c. 긁는군요  | d. 긁습니다 |
| (13) a. 긁다 《食事を抜く》 | b. 긁는다 | c. 긁는군요  | d. 긁습니다 |
| (14) a. 닳다 《すり減る》  | b. 닳는다 | c. 닳는군요  | d. 닳습니다 |

19. 4. 練習文例 —— -(스)입니다만 ——

- (1) 죄송합니다만 노무라선생님 사무실이 여깁니까?
- (2) 네, 여기가 노무라선생님 사무실입니다만 누구를 찾으십니까?
- (3) 저는 김 희석이라고 합니다만 노무라선생님 계십니까?
- (4) 제가 노무라입니다만 어디서 오셨습니까?
- (5) 지금 안 계십니다만 기다리시겠습니까?
- (6) 말씀은 고맙습니다만 다시 오겠습니다.

19. 5. あいさつのことば——㉠ : 平素の無事息災を確かめることば

- (1) a. 별고 없으십니까?  
b. 별고 없으셨습니까?  
c. 별일 없이 잘 지내시겠지요?  
d. 잘 있습니다.  
e. 감기 들어서 혼났습니다.  
f. 그 동안 바빠서 혼났습니다.
- (2) a. 별고 없습니다.  
b. 별고 없었습니다.  
c. 별일 없이 잘 지냅니다.  
d. 여전히입니다.  
e. 그저 그렇지요.  
f. 그럭저럭 지내고 있습니다.  
g. 죽지 못 해 삽니다.
- (3) a. 뭐라고 말씀드려야 될지 모르겠습니다.  
b. 어떻게 말씀드려야 될지 모르겠습니다.

第20課 물건 좀 사러 나갑니다.

20. 1. 對話 :

노무라 : 오늘은 어디 나가십니까?  
박 대철 : 네, 물건 좀 사러 나갑니다.  
노무라 : 그럼 제가 안내해 드리지요. 뭘 사시겠습니까?  
박 대철 : 일용품하고 시계 하나 살까 해서요.  
노무라 : 그럼 먼저 백화점에 가 보지요.

\*\*\*      \*\*\*

백화점 안내원 : 어서 오세요. 뭘 찾으십니까?  
박 대철 : 시계 하나 사고 싶은데요. 몇 층이지요?  
안내원 : 삼층에 올라 가시면 바로 앞에 있습니다.  
노무라 : 일용품은 어디서 팝니까?  
안내원 : 오층에 일용품 파는 곳이 있습니다.  
노무라 : 그래요? 감사합니다.  
먼저 삼층에 가 보실까요?  
박 대철 : 네, 먼저 삼층에 갔다가 오층에 가 보지요.  
노무라 : 이리로 오세요. 에스카레이터는 이쪽입니다.

20. 2. 漢數詞 ① :

- |                  |              |              |
|------------------|--------------|--------------|
| (1) a. 일 《1》     | b. 이 《2》     | c. 삼 《3》     |
| d. 사 《4》         | e. 오 《5》     | f. 육(륙) 《6》  |
| g. 칠 《7》         | h. 팔 《8》     | i. 구 《9》     |
| j. 십 《10》        |              |              |
| (2) a. 십 일 《11》  | b. 십 이 《12》  | c. 십 삼 《13》  |
| d. 십 사 《14》      | e. 십 오 《15》  | f. 십 륵 《16》  |
| g. 십 칠 《17》      | h. 십 팔 《18》  | i. 십 구 《19》  |
| j. 이십 《20》       |              |              |
| (3) a. 이십 일 《21》 | b. 이십 이 《22》 | c. 이십 삼 《23》 |
| d. 이십 사 《24》     | e. 이십 오 《25》 | f. 이십 륵 《26》 |
| g. 이십 칠 《27》     | h. 이십 팔 《28》 | i. 이십 구 《29》 |
| j. 삼십 《30》       |              |              |

- (4) a. 육십 일 《61》      b. 육십 이 《62》      c.육십 삼 《63》  
 d.육십 사 《64》      e.육십 오 《65》      f.육십 륙 《66》  
 f.육십 구 《69》      h.육십 팔 《68》      i.육십 구 《69》  
 d. 칠십 《70》

20. 3. 用言の活用——語幹の形と語尾の形：

語尾の種類は、接尾する語幹の形との関係から次の2種類に大別される。

- a. 字面上の形が語幹の形に関係なく一定しているもの  
 b. 字面上の形が語幹の形によって交替するもの

bは、母音語幹とR(己)語幹につく語尾の形と、末尾が己以外の子音の子音語幹につく形とがちがう語尾の一群で、語幹末尾の形によってどちらの語尾がつくかが決まる。なお、R(己)語幹には母音語幹につくものと同じ形の語尾がつく。

語幹の形： a. 母音語幹      b. R語幹      c. 子音語幹A      d. 子音語幹B  
 語例(原形) 사다 《買う》      살다 《暮す》      잡다 《捕える》      삼다 《(に)する》

A:

- |          |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|----------|
| 1. 終止形   | a. 산다    | b. 산다    | c. 잡는다   | d. 삼는다   |
| 2. 詠嘆(現) | a. 사는군요  | b. 사는군요  | c. 잡는군요  | d. 삼는군요  |
| 3. 過去形   | a. 샀다    | b. 살았다   | c. 잡았다   | d. 삼았다   |
| 4. 予測(未) | a. 사겠다   | b. 살겠다   | c. 잡겠다   | d. 삼겠다   |
| 5. 丁寧(現) | a. 삽니다   | b. 삽니다   | c. 잡습니다  | d. 삼습니다  |
| 6. 丁寧(過) | a. 샀습니다  | b. 살았습니다 | c. 잡았습니다 | d. 삼았습니다 |
| 7. 丁寧(予) | a. 사겠습니다 | b. 살겠습니다 | c. 잡겠습니다 | d. 삼겠습니다 |

B: 尊敬形： -(의시)-

- |          |           |           |            |            |
|----------|-----------|-----------|------------|------------|
| 1. 終止形   | a. 사신다    | b. 사신다    | c. 잡으신다    | d. 삼으신다    |
| 2. 詠嘆(現) | a. 사시는군요  | b. 사시는군요  | c. 잡으시는군요  | d. 삼으시는군요  |
| 3. 過去形   | a. 사셨다    | b. 사셨다    | c. 잡으셨다    | d. 삼으셨다    |
| 4. 予測(未) | a. 사시겠다   | b. 사시겠다   | c. 잡으시겠다   | d. 삼으시겠다   |
| 5. 丁寧(現) | a. 사십니다   | b. 사십니다   | c. 잡으십니다   | d. 삼으십니다   |
| 6. 丁寧(過) | a. 사셨습니다  | b. 사셨습니다  | c. 잡으셨습니다  | d. 삼으셨습니다  |
| 7. 丁寧(予) | a. 사시겠습니다 | b. 사시겠습니다 | c. 잡으시겠습니다 | d. 삼으시겠습니다 |

20. 4. 練習文例： —— -(으)러 《~しに(目的)》

- |  |                    |
|--|--------------------|
| (1) 물건 사러 백화점에 갑니다.                        | <사·러>              |
| (2) 공부하러 학원에 다닙니다.                         | <공부하·러>            |
| (3) 박물관에 구경하러 나갑니다.                        | <구경하·러>            |
| (4) 친구를 만나러 다방에 갑니다.                       | <만나·러>             |
| (5) 선생님을 뵈러 왔습니다.                          | <뵈·러>              |
| (6) 맞춘 옷을 찾으러 왔어요.                         | <찾·으·러>            |
| (7) 돈을 찾으러 은행에 들렀습니다.                      | <찾·으·러>            |
| (8) 사진을 찍으러 교외에 나왔습니다.                     | <찍·으·러>            |
| (9) 머리를 깎으러 갔다 왔습니다.                       | <깎·으·러>            |
| (10) 장날마다 참기름 팔러 시장에 나갑니다.                 | <팔·러>              |
| (11) 도서관은 구경하러 가는 게 아니라,<br>책을 읽으러 가야 합니다. | <구경하·러><br><읽·으·러> |

20. 5. 練習文例：：建物の階層のいい方（層《階》）：

- (1) 일용품 파는 곳이 몇 층입니까? —— ~ -입니다.  
 a. 2階      b. 5階      c. 6階      d. 10階
- (2) 여기가 몇 층입니까? —— ~ -입니다.  
 a. 4階      b. 7階      c. 11階      d. 12階
- (3) 몇 층에 올라 가십니까? —— ~ -에 갑니다.  
 a. 15階      b. 16階      c. 20階      d. 26階



第21課 은행에 가서 돈을 바꾸어야 합니다.

21. 1. 對話 :

야마다 : 오늘은 은행에 가서 돈을 바꾸어야 합니다.  
 김 인수 : 호텔에서라도 바꿀 수가 있지요?  
 야마다 : 네, 바꿀 수 있습니다.  
 그렇지만 액수가 좀 많아서 은행에서 바꿀까 합니다.  
 김 인수 : 그럼, 바로 옆에 은행이 있으니까 가 보시겠어요?

\*\*\*      \*\*\*

은행 안내원 : 어서 오십시오. 어떻게 오셨습니까?  
 야마다 : 돈을 바꾸러 왔습니다.  
 안내원 : 일본 돈입니까?  
 야마다 : 아뇨, 달러인데요.  
 안내원 : 그러면 이층 십 팔 번 창구로 가세요.

\*\*\*      \*\*\*

야마다 : 여기서 환전할 수가 있습니까?  
 은행원 : 네, 됩니다. 일본 돈입니까? 달러입니까?  
 야마다 : 달러인데요.  
 은행원 : 얼마쯤 바꾸세요?  
 야마다 : 오백 달러 바꾸고 싶습니다.  
 은행원 : 현금을 가지고 오셨어요?  
 야마다 : 여행자 수표인데요.  
 은행원 : 싸인 다 하셨습니까? 여권 좀 보여 주세요.  
 야마다 : 여권 여기 있습니다.  
 은행원 : 의자에 앉아서 잠깐 기다리십시오.

21. 2. 漢數詞 ② : (百, 千, 万)

- (1) a. 백 《百》      b. 천 《千》      c. 만 《万》      d. 억 《億》  
 (2) a. 십만 《十萬》      b. 백만 《百萬》      c. 천만 《千萬》  
 (3) a. 이백 달러      b. 오백 달러      c. 천 달러  
 (4) a. 만 원      b. 이만 원      c. 사만 원  
       d. 육만 원      e. 백 육십 원      f. 육백 육십 육 원  
 (5) a. 십 육 불      b. 백 육십 불      c. 육백 육십 육 불

21. 3. 練習文例： -지요, -(으)시지요 《ですよ, しますよ; なさるのがいいですよ》 —— (確信をもって, また, 確認したくて相手に言う形)

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| (1) 그럼 제가 안내해 드리지요.       | <드리다>         |
| (2) 먼저 사층에 갔다가 오층에 가 보지요. | <보다>          |
| (3) 시내는 제가 안내하지요.         | <하다>          |
| (4) 여기서 사진을 찍지요.          | <찍다>          |
| (5) 이 의자에 앉지요.            | <앉다>          |
| (6) 먼저 백화점에 가 보시지요.       | <보다, 보시다>     |
| (7) 먼저 시장에 가시지요.          | <가다, 가시다>     |
| (8) 그럼 시장에 안내하지지요.        | <안내하다, 안내하시다> |
| (9) 여기서 기념 사진을 찍으시지요.     | <찍다, 찍으시다>    |
| (10) 이 소파에 앉으시지요.         | <앉다, 앉으시다>    |

21. 4. 練習文例： -(으)니까 《なのか; しょうか》 —— 可能性を考える言い方;  
-(으)니까요 《しますか》, -(으)실까요 《なさいますか》 —— 相手の意向をきく形

- |                         |            |
|-------------------------|------------|
| (1) 일용품하고 시계 하나 살까 해서요. | <사다>       |
| (2) 교외에서 조용이 살까 해서요.    | <살다>       |
| (3) 여기서 사진 하나 찍을까 해서요.  | <찍다>       |
| (4) 먼저 삼층에 가 보실까요?      | <보다, 보실까>  |
| (5) 여기서 사진 하나 찍으실까요?    | <찍다, 찍으시다> |
| (6) 여기 앉으실까요?           | <앉다, 앉으시다> |

21. 5. 用言の活用： —— 連体形の形(規則活用) ——

語幹：	母音語幹	R語幹	子音語幹(1)	子音語幹(2)
	a. 《買う》	b. 《暮らす》	c. 《捕える》	d. 《(に)する》

原形	a. 사다	b. 살다	c. 잡다	d. 삼다
終止形	a. 산다	b. 산다	c. 잡는다	d. 삼는다
詠嘆形	a. 사는군요	b. 사는군요	c. 잡는군요	d. 삼는군요
丁寧(現)	a. 삽니다	b. 삽니다	c. 잡습니다	d. 삼습니다
丁寧(過)	a. 샐습니다	b. 살았습니다	c. 잡았습니다	d. 삼았습니다
丁寧(予)	a. 사겠습니다	b. 살겠습니다	c. 잡겠습니다	d. 삼겠습니다

連体形：

安定狀態	a. 산	b. 산	c. 잡은	d. 삼은
可能性	a. 살	b. 살	c. 잡을	d. 삼을
進行動作	a. 사는	b. 사는	c. 잡는	d. 삼는
回想	a. 사던	b. 살던	c. 잡던	d. 삼던

21. 6. 練習文例：—— 連体形 -의ㄴ と -는 ——

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| (1) 서울에는 시골에서 올라 온 사람이 많이 삽니다. | <올라 오다> |
| (2) 여기서 작년에 산 시계가 고장났습니다.      | <사다>    |
| (3) 이 건 우리 가게서 판 시계가 아닙니다.     | <팔다>    |
| (4) 그 사진을 만든 사람이 누구인지 아세요?     | <만들다>   |
| (5) 이 건 어머니한테서 물려 받은 반지입니다.    | <물려 받다> |
| (6) 유토피아를 찾은 사람은 하나도 없습니다.     | <찾다>    |
| (7) 이 건 작년 봄에 찍은 사진입니다.        | <찍다>    |
| (8) 불일 보러 서울에 오는 사람이 많습니다.     | <오다>    |
| (9) 시계를 사는 손님은 요새 적습니다.        | <사다>    |
| (10) 이 건 파는 시계가 아니고, 전시하는 겁니다. | <팔다>    |
| (11) 이 집에 사는 분은 유명한 작가입니다.     | <살다>    |
| (12) 예수를 믿는 사람들이 예배를 봅니다.      | <믿다>    |
| (13) 여기서 기념 사진을 찍는 관광객도 많습니다.  | <찍다>    |
| (14) 글씨를 그렇게 잘 쓰는 사람도 드물어요.    | <쓰다>    |

21. 7. 活用練習——規則活用：母音語幹 ① (ㅏ ㅑ)

語幹：

- |            |                |             |
|------------|----------------|-------------|
| a. 原形      | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在    |
| d. 丁寧形現在   | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」  |
| g. 尊敬(現在)  | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -의니까 |
| j. 假定形 -의면 | k. 連体形 -의ㄴ     | l. 連体形 -는   |

가- 《行く》：

- |         |         |          |
|---------|---------|----------|
| a. 가다   | b. 간다   | c. 가는군요  |
| d. 갑니다  | e. 갔습니다 | f. 가겠습니다 |
| g. 가십니다 | h. 가서   | i. 가니까   |
| j. 가면   | k. 간    | l. 가는    |

語例：[動] 자다 《ねむる》 차다 《ける》 짜다 《しぼる》 싸다 《つつむ》  
 타다 《乗る》 만나다 《会う》  
 [形] 차다 《冷たい》 짜다 《しおからい》 싸다 《安い》

펴- 《広げる》：

- |         |         |          |
|---------|---------|----------|
| a. 펴다   | b. 편다   | c. 펴는군요  |
| d. 펍니다  | e. 폼습니다 | f. 펴겠습니다 |
| g. 펴십니다 | h. 펴서   | i. 펴니까   |
| j. 펴면   | k. 편    | l. 펴는    |

語例：[動] 켜다 《(あかりなど)つける》 서다 《立つ》 건너다 《渡る》

第22課 오늘이 며칠이지요?

22. 1. 對話 :

- 야마다 : 오늘이 며칠이지요?  
김 인수 : 오늘은 팔월 오일이 아니에요?  
야마다 : 그렇습니까? 벌써 오일이군요.  
김 인수 : 무슨 일이라도 있으세요?  
야마다 : 아닙니다. 별일 없습니다.  
김 인수 : 이 번에는 언제 들어 오셨어요?  
야마다 : 유월 이십 사일에 도착했습니다.  
김 인수 : 유월이었나요? 그 날은 월요일이었지요?  
야마다 : 네, 월요일이었는데요.  
김 인수 : 오늘이 월요일이니까 나오신지가 꼭 육주일이 되셨군요.  
야마다 : 네, 한 달 반쯤 됩니다.  
김 인수 : 앞으로 한 달쯤 더 계시겠어요?  
야마다 : 두 달 정도는 더 있다가 들어 갈 생각입니다.  
김 인수 : 몇월 며칠경이 되지요?  
야마다 : 유월 육일에 돌아 가야 됩니다.  
김 인수 : 무슨 요일이지요?  
야마다 : 일요일인 줄 아는데요.  
김 인수 : 일요일이에요? 그러면 공항까지 전송나갈 수 있습니다.  
야마다 : 괜찮습니다. 나오시지 않아도 됩니다.

22. 2. 練習文例 —— 慣用表現 : 人に應對することば

- (1) a. 뭘 찾으십니까?  
b. 뭘 구하십니까?  
c. 어떤 일로 오셨습니까?  
(2) 어떻게 오셨습니까?  
(3) 여기서 환전이 됩니까?  
a. 네 됩니다.  
b. 여기서는 안 됩니다.  
(4) 여기 앉아도 됩니까?  
a. 사람이 옵니다.  
b. 괜찮습니다.  
c. 자리 있는데요.  
d. 앉을 사람이 있습니다.

- e. 자리가 다 찼어요.
- (5) 담배 피워도 됩니까?  
 a. 네, 피워도 됩니다.  
 b. 아뇨, 여기서 담배 피워서는 안 됩니다.  
 c. 아뇨, 여기서는 못 피웁니다.
- (6) 내일까지 사진이 됩니까?  
 a. 됩니다.  
 b. 안 되겠는데요. 시간이 좀 걸리겠습니다.
- (7) 괜찮습니다. 나오시지 않아도 됩니다.
- (8) 싸인 다 하셨어요?  
 -- 네, 했습니다.  
 -- 아이 감사합니다. 됐습니다.
- (9) a. 마감 시간이 다 됐습니다. 미안합니다. 내일 또 오세요.  
 b. 진찰 시간이 끝났습니다. 미안합니다. 내일 다시 오세요.  
 c. 벌써 마감했습니다. 안 됐습니다.

22. 3. 日付 (날짜) のいい方 :

- A. (1) a. 일일 《1日》      b. 십 일일 《11日》      c. 이십 일일 《21日》  
 (2) a. 이일 《2日》      b. 십 이일 《12日》      c. 이십 이일 《22日》  
 (3) a. 삼일 《3日》      b. 십 삼일 《13日》      c. 이십 삼일 《23日》  
 (4) a. 사일 《4日》      b. 십 사일 《14日》      c. 이십 사일 《24日》  
 (5) a. 오일 《5日》      b. 십 오일 《15日》      c. 이십 오일 《25日》  
 (6) a. 육일 《6日》      b. 십 륙일 《16日》      c. 이십 육일 《26日》  
 (7) a. 칠일 《7日》      b. 십 칠일 《17日》      c. 이십 칠일 《27日》  
 (8) a. 팔일 《8日》      b. 십 팔일 《18日》      c. 이십 팔일 《28日》  
 (9) a. 구일 《9日》      b. 십 구일 《19日》      c. 이십 구일 《29日》  
 (10) a. 십일 《10日》      b. 이십일 《20日》      c. 삼십일 《30日》

- B. a. 일월 《1月》      b. 이월 《2月》      c. 삼월 《3月》  
 d. 사월 《4月》      e. 오월 《5月》      f. 유월 《6月》  
 g. 시월 《10月》      h. 십일월 《11月》      i. 십이월 《12月》

- C. (1) 몇월 몇일입니까?      ----      ~~-입니다.  
 (2) 몇월 며칠였습니까?      ----      ~~-이었습니다.  
 a. 1月15日      b. 1月16日      c. 1月26日      d. 1月31日  
 e. 6月 6日      f. 6月16日      g. 6月26日      h. 6月30日  
 i. 10月10日      j. 10月11日      k. 10月12日      l. 10月16日  
 m. 11月10日      n. 11月11日      o. 12月12日      p. 12月26日

22. 4. 曜日 (요일) のいい方 ——

- (1) 무슨 요일입니까? —— ~~ -입니다.  
 (2) 무슨 요일이었습니까? —— ~~ -이었습니다  
 a. 일요일 《日曜日》      b. 월요일 《月曜日》      c. 화요일 《火曜日》  
 d. 수요일 《水曜日》      e. 목요일 《木曜日》      f. 금요일 《金曜日》  
 g. 토요일 《土曜日》

22. 5. 練習文例: ——

A. -ㄴ 수 있다(없다) 《することができる (できない)》

- (1) 돈은 호텔에서든 바꿀 수가 있지요? <바꾸다>  
 (2) 네, 바꿀 수 있습니다. <바꾸다>  
 (3) 내일 다시 올 수는 없습니다. <오다>  
 (4) 여기서 환전할 수가 있습니까? —— 네, 됩니다. <~하다>  
 (5) 사람은 공기 없이는 살 수 없습니다. <살다>  
 (6) 필름이 없어서 사진 찍을 수도 없습니다. <찍다>  
 (7) 어두워서 글자를 읽을 수가 없습니다. <읽다>

B. -고 싶다 《~したい》

- (1) 얼마쯤 바꾸세요? —— 2백 달러 바꾸고 싶습니다. <바꾸다>  
 (2) 박물관을 구경하고 싶습니다. <~하다>  
 (3) 직장 가까운 데에 살고 싶습니다. <살다>  
 (4) 여기서 기념 사진 찍고 싶습니다. <찍다>  
 (5) 재미 있는 소설을 읽고 싶습니다. <읽다>  
 (6) 이 근처에서 잠깐 쉬고 싶어요. <쉬다>

22.6. 活用練習——規則活用：母音語幹 ② (ㅏ ㅓ)

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

오- 《来る》：

- |         |         |          |
|---------|---------|----------|
| a. 오다   | b. 온다   | c. 오는군요  |
| d. 옵니다  | e. 왔습니다 | f. 오겠습니다 |
| g. 오십니다 | h. 와서   | i. 오니까   |
| j. 오면   | k. 온    | l. 오는    |

語例：

[動] 보다 《見る》    쏘다 《射る, 撃つ》    싸우다 《争う, 闘う》  
배우다 《習う, 學ぶ》

주- 《やる》：

- |         |          |          |
|---------|----------|----------|
| a. 주다   | b. 준다    | c. 주는군요  |
| d. 줍니다  | e. 주었습니다 | f. 주겠습니다 |
| g. 주십니다 | h. 주어서   | i. 주니까   |
| j. 주면   | k. 준     | l. 주는    |

語例：

[動] 두다 《置く》    쪄다 《粥を煮る》    꾸다 《夢をみる》 《借りる》  
나누다 《分配する》    바꾸다 《交換する》  
(注意) 푸다 《そそぐ, すくう》 (뒀습니다, 퍼서, ...)

第23課 몇 년생이시지요?

23. 1. 對話 :

- 야마다 : 김 선생님은 몇 년생이시지요?  
 김 인수 : 저는 1941년생인데요.  
 야마다 : 1941년이면 뱀 띠가 아닙니까?  
 김 인수 : 그렇지요. 저는 뱀 띠입니다.  
 야마다 : 그러면 홍선생님과 동갑이시군요.  
 김 인수 : 네, 그런데 그 분은 7월생이고 저는 10월생입니다.  
 야마다 : 저는 닭 띠입니다.  
 김 인수 : 네, 연령이 거의 비슷하다고는 생각했는데요.  
 닭띠라면 1944년생이시지요?  
 야마다 : 아닙니다. 1945년입니다.  
 김 인수 : 그래요? 생일은 몇월 며칠이십니까?  
 야마다 : 6월 6일입니다.  
 김 인수 : 지금 생각했는데 박 대철선생님도 닭 띠이지요?  
 야마다 : 그렇습니까? 그러시다면 1933년생이 되시겠군요.

23. 2. 否定のいい方 (用言の場合) : 副詞 안 と 補助用言 -지 않다

- (1) 저는 내일 학교에 가지 않습니다. <가다>  
 —— 저는 내일 학교에 안 갑니다.  
 (2) a. 모래도 학교에 오시지 않겠습니까? <오다, 오시다>  
 b. 모래도 학교에 오지 않으시겠습니까?  
 —— 모래도 학교에 안 오시겠습니까?  
 (3) 이 번에는 답장을 쓰지 않습니다. <쓰다>  
 —— 이 번에는 답장을 안 쓰겠습니다.  
 (4) 거기는 비로 쓸지 않습니다. <쓸다>  
 —— 거기는 비로 안 씁니다.  
 (5) 그 애는 좀처럼 울지 않았습니다. <울다>  
 —— 그 애는 좀처럼 안 울었습니다.  
 (6) 어제 밤에는 불을 끄지 않았습니다. <끄다>  
 —— 어제 밤에는 불을 안 껐습니다.  
 (7) a. 어제 밤에는 왜 불을 끄지 않으셨습니까? <끄다>  
 b. 어제 밤에는 왜 불을 끄시지 않았습니까?  
 —— 어제 밤에는 왜 불을 안 껐습니까?



- (8) a. 어제 여기서 사진을 찍지 않으셨습니까? <찍다>  
 b. 어제 여기서 사진을 찍으시지 않았습니까?  
 —— 어제 여기서 사진을 안 찍으셨습니까?
- (9) 여기서 사진은 찍지 않았습니다. <찍다>  
 —— 여기서 사진은 안 찍었습니다.
- (10) 방석은 깔지 않았습니다. <깔다>  
 —— 방석은 안 깔았습니다.
- (11) 왜 방석을 깔지 않으셨어요. <깔다>  
 왜 방석을 까시지 않았어요?  
 —— 왜 방석을 안 까셨어요.
- (12) 그 학생은 만화를 읽지 않습니다. <읽다>  
 —— 그 학생은 만화를 안 읽습니다.

23. 3. 曆年のいい方:

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 1941年 | b. 1935年 | c. 1945年 |
| d. 1950年 | e. 1966年 | f. 1977年 |
| g. 1985年 | h. 1986年 | i. 1988年 |

23. 4. 띠: えと ——

— 띠 《生まれ年などを十二支を象徴する動物と結びつけていう語》

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| (1) 子: 쥐 《ねずみ》     | (2) 丑: 소 《うし》       |
| (3) 寅: 호랑이, 범 《とら》 | (4) 卯: 토끼 《うさぎ》     |
| (5) 辰: 용 《たつ(龍)》   | (6) 巳: 뱀 《へび》       |
| (7) 午: 말 《うま》      | (8) 未: 양 (염소) 《ひつじ》 |
| (9) 申: 원숭이 《さる》    | (10) 酉: 닭 《にわとり》    |
| (11) 戌: 개 《いぬ》     | (12) 亥: 돼지 《ぶた》     |

参考: 갑자 [甲子] 《十干十二支》

(1) 十干 ——

- |          |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|----------|
| a. 갑 (甲) | b. 을 (乙) | c. 병 (丙) | d. 정 (丁) | e. 무 (戊) |
| f. 기 (己) | g. 경 (庚) | h. 신 (辛) | i. 임 (壬) | j. 계 (癸) |

(2) 十二支 ——

- |          |          |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| a. 자 (子) | b. 축 (丑) | c. 인 (寅) | d. 묘 (卯) | e. 진 (辰) | f. 사 (巳) |
| g. 오 (午) | h. 미 (未) | i. 신 (辛) | j. 유 (酉) | k. 술 (戌) | l. 해 (亥) |

23. 5. 練習文例：-아야(어야) 하다 (~~ 되다) 《しなければならぬ》

- (1) 내일은 아침 일찍 회사에 나와야 합니다. <나오다>
- (2) 은행에 가서 돈을 바꾸어야 합니다. <바꾸다>
- (3) 시월 육일에는 돌아 가야 합니다. <돌아 가다>
- (4) 그런 짓은 말아야 됩니다. <말다>
- (5) 세금을 물어야 됩니까? <물다>
- (6) 원고를 많이 써야 됩니다. <쓰다>
- (7) 책을 많이 읽어야 했습니다. <읽다>

23. 6. 練習文例：-이 (가) 되다 《(に)なる》 -----

- (1) 우리 딸이 대학생이 됐습니다.
- (2) 조카가 의사가 됐습니다.
- (3) 일본에 돌아 가시는 날이 무슨 요일이 되지요?
- (4) 일본에서 나오신지가 벌써 3년이 되셨군요.
- (5) 이 번에는 박 계장님이 과장이 되셨습니다.
- (6) 이 아이는 앞으로 우주 비행사가 되겠다고 합니다.

23. 7. 活用練習——規則活用：母音語幹 ③ ( - )

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未来」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

쓰- 《書く, 使う》：

- |         |         |          |
|---------|---------|----------|
| a. 쓰다   | b. 쓴다   | c. 쓰는군요  |
| d. 씁니다  | e. 썼습니다 | f. 쓰겠습니다 |
| g. 쓰십니다 | h. 써서   | i. 쓰니까   |
| j. 쓰면   | k. 쓴    | l. 쓰는    |

語例：

- [動] 끄다 《(火, あかり)を消す》 뜨다 《浮く》 《目をあける》  
 치르다 《支拂う》  
 [形] 쓰다 《(に)가이》 예쁘다 《かわいい》

모으다 《集める》 :

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| a. 모으다   | b. 모은다   | c. 모으는군요  |
| d. 모읍니다  | e. 모았습니다 | f. 모으겠습니다 |
| g. 모으십니다 | h. 모아서   | i. 모으니까   |
| j. 모으면   | k. 모은    | l. 모으는    |

語例 :

[動] 따르다 《從がう》 《注ぐ》

[形] 아프다 《痛い》 바쁘다 《いそがしい》

다치다 《けがをする》 :

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| a. 다치다   | b. 다친다   | c. 다치는군요  |
| d. 다칩니다  | e. 다쳤습니다 | f. 다치겠습니다 |
| g. 다치십니다 | h. 다쳐서   | i. 다치니까   |
| j. 다치면   | k. 다친    | l. 다치는    |

語例 :

[動] 끼다 《はめる》 마치다 《終える》 맡기다 《まかせる》 갈리다 《かわる》

시키다 《させる》 붙이다 《張りつける》 이기다 《勝つ》 흘러다 《流す》

느끼다 《感じる》

[形] 시리다 《冷えている》

第24課 부인도 같이 오셨어요?

24. 1. 対話:

- 김 인수 : 이 번에는 부인도 같이 오셨어요?  
 야마다 : 아뇨, 저 혼자 왔습니다.  
 김 인수 : 두 분이 같이 오시지 그랬어요.  
 야마다 : 애들만 남기고 올 수도 없어서 혼자 온 겁니다.  
 김 인수 : 자녀분은 어떻게 되십니까?  
 야마다 : 삼남 이녀입니다.  
 김 인수 : 그럼 식구가 모두 몇이시지요?  
 야마다 : 집사람하고 다 합해서 일곱 식구입니다.  
 김 인수 : 자녀분들은 몇 살 몇 살이시지요?  
 야마다 : 큰 아들은 열 여섯 살이고, 큰 딸이 열 두 살,  
 그 밑의 둘째 아들은 여덟 살, 둘째 딸은 여섯 살,  
 그리고 막내 아들이 네 살입니다.  
 김 인수 : 아이고, 한창 손이 많이 가지겠어요. . .  
 부모님께서서는 건강하세요?  
 야마다 : 네, 시골에서 형님 내외가 모시고 계십니다.  
 김 인수 : 부모님 연세가 어떻게 되시나요?  
 야마다 : 아버님은 예순 여섯이시고,  
 어머님은 올해 환갑이십니다.

24. 2. 数をいう単語 (固有の数詞) :

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| (1) a. 하나 (한) 《ひとつ(の)》  | b. 둘 (두) 《ふたつ(の)》  |
| c. 셋 (세) 《みっつ(の)》       | d. 넷 (네) 《よっつ(の)》  |
| e. 다섯 《いつつ(の)》          | f. 여섯 《むっつ(の)》     |
| g. 일곱 《ななつ(の)》          | h. 여덟 《やっつ(の)》     |
| i. 아홉 《ここのつ(の)》         | j. 열 《とお(の)》       |
| (2) a. 열 하나 (한) 《11(の)》 | b. 열 둘 (두) 《12(の)》 |
| c. 열 셋 (세) 《13(の)》      | d. 열 넷 (네) 《14(の)》 |
| e. 열 다섯 《15(の)》         | f. 열 여섯 《16(の)》    |
| g. 열 일곱 《17(の)》         | h. 열 여덟 《18(の)》    |
| i. 열 아홉 《19(の)》         | j. 스물(스무) 《20(の)》  |
| k. 스물 하나 《21》           | l. 스물 둘 《22(の)》    |
| m. 스물 셋 《23(の)》         | m. 스물 넷 《24(の)》    |

24. 3. 順序をいう単語： -째 《番め(の)》

- (1) a. 첫째 《最初(の)》                      b. 둘째 《2番め(の)》  
 c. 셋째 《3番め(の)》                      d. 넷째 《4番め(의)》  
 e. 다섯째 《5番め(의)》                    f. 여섯째 《6番め(의)》  
 g. 일곱째 《7番め(의)》                   h. 여덟째 《8番め(의)》  
 i. 아홉째 《9番め(의)》
- (2) a. 열째 《10番め(의)》                    b. 열 한째 《11番め(의)》  
 c. 열 두째 《12番め(의)》                   d. 열 넷째 《14番め(의)》
- (3) a. 스무째 《20番め(의)》                   b. 스물 한째 《21番め(의)》  
 c. 스물 두째 《22番め(의)》                   d. 스물 넷째 《24番め(의)》

24. 4. 年齢, 人数, 個数のいい方 —— (살, 사람, 분, 개) :

- (1) 살 《才》 :
- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| a. 한 살    | b. 두 살    | c. 세 살    |
| d. 네 살    | e. 다섯 살   | f. 여섯 살   |
| g. 일곱 살   | h. 여덟 살   | i. 아홉 살   |
| j. 열 살    | k. 열 한 살  | l. 열 네 살  |
| m. 열 다섯 살 | n. 열 일곱 살 | o. 열 아홉 살 |
| p. 스무살    | q. 스물 한 살 |           |
- (2) 사람 《人》, 분 《方》
- |          |            |            |
|----------|------------|------------|
| a. 한 사람  | b. 두 사람    | c. 세 사람    |
| d. 네 사람  | e. 다섯 사람   | f. 여섯 사람   |
| g. 일곱 사람 | h. 여덟 사람   | i. 아홉 사람   |
| j. 열 사람  | k. 열 한 사람  | l. 열 일곱 사람 |
| m. 스무 사람 | n. 스물 한 사람 | o. 스물 네 사람 |
- (3) 개 《個》
- |         |           |           |
|---------|-----------|-----------|
| a. 한 개  | b. 두 개    | c. 세 개    |
| d. 네 개  | e. 다섯 개   | f. 여섯 개   |
| g. 일곱 개 | h. 여덟 개   | i. 아홉 개   |
| m. 스무개  | n. 스물 한 개 | o. 스물 네 개 |

24. 5. 数の練習 :

- (1) a. 아이들이 몇 남매지요?  
 b. 아들이 둘이고 딸이 셋입니다.

- c. 아들 둘, 딸 둘입니다.
- d. 아들 딸 모두 네 남매입니다.
- (2) a. 따님은 몇 살입니까?
- b. 큰 딸이 열 네 살이고 둘째가 여덟 살입니다.
- c. 큰 딸이 스무살이고, 둘째가 열 이곱 살,  
그리고 막내가 열 네 살입니다.
- (3) a. 학생들이 몇 사람 나왔습니까?
- b. 남학생이 열 여섯, 여학생이 열 넷입니다.
- c. 남학생과 여학생 다 합해서 스물 다섯 사람입니다.
- d. 남학생과 여학생, 아홉 사람씩입니다.
- (4) a. 손님 일행이 몇 분이십니까?
- b. 남자가 넷, 여자가 셋인데요.
- c. 여자 남자 네 사람씩입니다.

24. 6. 練習文例: -(으)시지 그랬어요 《なさればよかったのに》

- (1) 부인도 같이 오시지 그랬어요. <오다, 오시다>
- (2) 다방에서 기다리시지 그랬어요. <기다리다, 기다리시다>
- (3) 서울에 오셨으면 전화 거시지 그랬어요. <걸다, 거시다>
- (4) 그 가수를 만났으면 기념 사진이나 찍으시지 그랬어요.  
<찍다, 찍으시다>
- (5) 안내판은 다 읽으시지 그랬어요. <읽다, 읽으시다>
- (6) 추운데 문을 닫으시지 그랬어요. <닫다, 닫으시다>
- (7) 미리 사정을 들으시지 그랬어요. <듣다, 들으시다>

24. 7. 練習文例: -(으)십시오 겍니다 《したものです, したのです》

- (1) 애들만 남기고 올 수도 없어서 혼자 나온 겍니다. <오다>
- (2) 협조를 부탁하고 싶어서 미리 말씀드린 겍니다. <말씀드리다>
- (3) 이 시계는 아버님이 주신 겍니다. <주다, 주시다>
- (4) 이 반지는 어머님께에서 물려 받은 겍니다. <물려 받다>
- (5) 그 책은 1년 전에 산 겍니다. <사다>

24.8. 活用練習——規則活用：母音語幹 ④ (H 게 니 귀)

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未来」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

내- 《出す》：

- |         |         |          |
|---------|---------|----------|
| a. 내다   | b. 낸다   | c. 내는군요  |
| d. 냅니다  | e. 냈습니다 | f. 내겠습니다 |
| g. 내십니다 | h. 내서   | i. 내니까   |
| j. 내면   | k. 낸    | l. 내는    |

語例：

- [動] 캐다 《掘り出す》    깨다 《めざめる》    때다 《燃やす》    빼다 《抜く》  
 매다 《結ぶ》  
 데다 《つまる》    베다 《切る》 《枕にする》    떼다 《やけどする》  
 떼다 《はなす, はがす》

죄- 《祝ってすごす》：

- |         |        |          |
|---------|--------|----------|
| a. 죄다   | b. 원다  | c. 죄는군요  |
| d. 쉽니다  | e. 쉽니다 | f. 죄겠습니다 |
| g. 죄십니다 | h. 죄서  | i. 죄니까   |
| j. 죄면   | k. 원   | l. 죄는    |

語例：

- [動] 괴다 《たまる》  
 쉬다 《休む》    휘다 《反る, たわむ, まがる》  
 (注意) 되다 《できる, (に)なる》 (되었습니다/됐습니다), 되어서(돼서)...  
 [形] 되다 《(水氣が乏しくて)かたい》

第25課 지금 몇 시예요?

25. 1. 對話 :

김 영희 : 오늘은 비가 올 모양이에요.  
 야마다 : 네, 그렇군요.  
 김 영희 : 오후에는 시간이 있으세요?  
 야마다 : 오늘은 오후에도 좀 바쁩니다.  
 김 영희 : 무슨 약속이라도 있으세요?  
 야마다 : 네, 친구와 만나기로 했어요.  
 죄송합니다만 지금 몇 시예요?  
 김 영희 : 두 시 이십 분입니다.  
 야마다 : 그래요? 그럼 이만 실례해야겠습니다.  
 김 영희 : 어디서 몇 시에 만나기로 하셨는데요?  
 야마다 : 세 시 정각에 학교에서 만날 약속을 했습니다.  
 김 영희 : 그럼 시간은 넉넉합니다.  
 야마다 : 여기서 학교까지 몇 분쯤 걸립니까?  
 김 영희 : 한 삼십 분이면 갈 수가 있습니다.  
 야마다 : 그렇게 빨리 갈 수 있어요?  
 김 영희 : 지하철 타고 가시면 됩니다.  
 야마다 : 그럼, 택시보다 지하철이 더 빠릅니까?  
 김 영희 : 차 타고 가는 시간은 거의 같은데,  
 택시를 잡는 데 시간이 걸립니다.

25. 2. 時刻のいい方 :

- |            |       |          |       |
|------------|-------|----------|-------|
| (1) a. 한 시 | 《1時》  | b. 두 시   | 《2時》  |
| c. 세 시     | 《3時》  | d. 네 시   | 《4時》  |
| e. 다섯 시    | 《5時》  | f. 여섯 시  | 《6時》  |
| g. 일곱 시    | 《7時》  | h. 여덟 시  | 《8時》  |
| i. 아홉 시    | 《9時》  | j. 열 시   | 《10時》 |
| k. 열 한 시   | 《11時》 | l. 열 두 시 | 《12時》 |
- (2) a. 한 시 일 분 《1時1分》  
 b. 세 시 십 오 분 《3時15分》  
 c. 열 두 시 십 이 분 《10時12分》  
 d. 열 한 시 삼십 분 《11時30分》



- (3) a. 세 시 정각 《3時ちょうど》  
 b. 두 시 정각 《2時ちょうど》  
 c. 정각 세 시 《3時ちょうど》  
 c. 열 두 시 반 《12時半》
- (4) a. 오전 《午前》 b. 오후 《午後》
- (5) a. 상오 《午前》 b. 하오 《午後》
- (6) a. 정오 《正午》 b. 자정 《眞夜中(子正)》
- (7) a. 아침 《朝》 b. 새벽 《明け方》  
 c. 저녁 《夕方》 d. 밤 《夜》

25. 3. 練習文例——時刻のいい方 :

- (1) 지금 몇 시입니까? —— ~~시 ~~입니다.  
 a. 5時20分 b. 8時50分  
 c. 10時45分 d. 12時5分  
 e. 午前8時20分 f. 午前7時ちょうど  
 g. 午前6時ちょうど
- (2) 몇 시에 만날 약속을 하셨어요  
 —— ~~시에 만나기로 했습니다.  
 a. 3時半 b. 6時ちょうど c. 5時45分  
 d. 10時10分 e. 明日朝7時半 e. 今日夜8時ちょうど
- (3) 몇 시에 떠나기로 하셨어요?  
 —— ~~시에 떠나기로 했습니다.  
 a. 明け方5時 b. 夕方5時ちょうど  
 c. 明日朝6時半 d. 明日午後1時半

25. 4. 十位数の数え方 :

- (1) a. 열 《10》 b. 스물 《20》 c. 서른 《30》  
 d. 마흔 《40》 e. 쉰 《50》 f. 예순 《60》  
 g. 일흔 《70》 h. 여든 《80》 i. 아흔 《90》
- (2) a. 스물 하나 《21》 b. 스물 넷 《24》  
 c. 서른 둘 《32》 d. 일흔 일곱 《77》  
 e. 여든 여덟 《88》 f. 아흔 아홉 《99》  
 g. 마흔 넷 《44》 h. 쉰 다섯 《55》  
 i. 예순 여섯 《66》

25. 5. 練習文例： -고 《~であり；~し》 《~してから》

- (1) a. 아들이 셋이고, 딸이 둘입니다. <이다>  
 b. 이 건 책이고, 그 건 공책입니다. <이다>  
 c. 아침 공기는 맑고 깨끗합니다. <맑다>  
 d. 오늘은 놀고 내일은 일합니다. <놀다>
- (2) e. 애들만 남기고 올 수는 없었습니다. <남기다>  
 f. 나 혼자만 쉬고 갈 수는 없습니다. <쉬다>  
 g. 손님이 지갑을 놓고 가셨습니다. <놓다>  
 h. 불을 끄고 주무세요. <끄다>  
 i. 여기에다 성함을 쓰시고 들어 가세요. <쓰다, 쓰시다>  
 j. 문 닫고 들어 오세요. <닫다>  
 k. 이 논문을 읽고 다시 생각해 보세요. <읽다>  
 l. 방석을 깔고 편히 앉으세요. <깔다>
- (3) m. 애들을 데리고 오세요. <데리고 오다>  
 n. 손님을 모시고 왔습니다. <모시고 오다>  
 o. 택시를 타고 갔습니다. <타고 가다>

25. 6. 練習文例： 敬語の助辞 -께서(는) 《は》と -께 《に》 ——

- (1) 부모님께서는 안녕하십니까?  
 (2) 어머니께서 놀러 오라고 하셨습니다.  
 (3) 부인께서는 별일 없으시지요?  
 (4) 부인께 안부 전해 주십시오.  
 (5) 사장님께서는 지금 회의 중이십니다.  
 (6) 과장님께 여쭙워 볼 게 있습니다.

25. 7. 活用練習——規則活用：己 語幹

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으면) | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

살- 《暮す, 生きる》

- |         |          |          |
|---------|----------|----------|
| a. 살다   | b. 산다    | c. 사는군요  |
| d. 삽니다  | e. 살았습니다 | f. 살겠습니다 |
| g. 사십니다 | h. 살아서   | i. 사니까   |
| j. 살면   | k. 산     | l. 사는    |

語例：

[動] 달다 《つるす》 갈다 《耕やす》 빨다 《吸う》 말다 《卷く》

[形] 달다 《甘い》 작다 《小さい》

울- 《泣く》

- |         |          |          |
|---------|----------|----------|
| a. 울다   | b. 운다    | c. 우는군요  |
| d. 읍니다  | e. 울었습니다 | f. 울겠습니다 |
| g. 우십니다 | h. 울어서   | i. 우니까   |
| j. 울면   | k. 운     | l. 우는    |

語例：

[動] 물다 《かむ》 줄다 《減る》 풀다 《ほどく》 불다 《吹く》；

들다 《入る》 늘다 《増える》 쓸다 《掃く, こする》 틀다 《ひねる》

끌다 《ひきずる》 만들다 《つくる》；

밀다 《押す》 걸다 《掛ける》 열다 《開ける》 벌다 《かせぐ》

헐다 《こわす》 떨다 《拂う, 震える》 털다 《はたく》 썰다 《同じ

厚さ・形に切る》 널다 《干す》 질다 《びっこをひく

[形] 멀다 《遠い》 길다 《長い》 질다 《水っぽい》

第26課 며칠 동안 갔다 오셨어요?

26. 1. 對話 :

- 김 영희 : 한 동안 못 뵈웠었는데요, .  
그 동안 어디 다녀 오셨어요?  
야마다 : 네, 그 동안 지방에 좀 다녀 왔습니다.  
김 영희 : 어느 지방에 다녀 오셨는데요?  
영남입니까? 호남입니까?  
야마다 : 영남 쪽인데요, 마산에 다녀 왔습니다.  
김 영희 : 네, 먼 데까지 다녀 오셨군요.  
며칠 동안 다녀 오셨어요?  
야마다 : 사흘만에 다녀 왔습니다.  
김 영희 : 어떻게 가셨어요?  
야마다 : 갈 때에는 부산을 거쳐서 고속 버스 타고 갔습니다.  
김 영희 : 부산에서 하루 밤 주무셨습니까?  
야마다 : 네, 하루 밤 자고, 다음 날 아침에 마산으로 떠났습니다.  
김 영희 : 경주는 구경 못 하셨겠군요.  
야마다 : 네, 이 번에는 바빠서 못 가 봤습니다.  
김 영희 : 다음에는 한 번 시간 내서 꼭 가 보세요.  
야마다 : 네, 다음에는 한가한 시기를 골라서 가 보겠습니다.  
김 영희 : 올라 오실 때에는 어떻게 오셨어요?  
야마다 : 구마 고속 도로를 타고 대구로 나왔습니다.  
김 영희 : 네, 영남 지방을 한 바퀴 돌아 보신 셈이군요.

26. 2. 日数をかぞえる数詞 :

- |                |             |             |
|----------------|-------------|-------------|
| (1) a. 하루 《1日》 | b. 이틀 《2日》  | c. 사흘 《3日》  |
| d. 나흘 《4日》     | e.닷새 《5日》   | f.엿새 《6日》   |
| g. 이레 《7日》     | h. 여드레 《8日》 | i. 아흐레 《9日》 |
- (2) a. 열흘 《10日》                      b. 열 하루 《11日》  
c. 열 이틀 《12日》                    d. 열 나흘 《14日》  
e. 보름 《15日》                        f. 열 아흐레 《19日》
- (3) a. 스무날 《20日》                    b. 스무 하루 《21日》  
c. 스무 닷새 《25日》

- (4) 며칠 동안 여행 갔다 오셨어요.  
 ----- ~~ 동안 갔다 왔습니다.  
 a. 3日      b. 6日      c. 10日      d. 11日      e. 14일
- (5) 며칠만에 서울에 올라 오셨습니까?  
 ----- ~~만에 나왔습니다.  
 a. 15日      b. 16日      c. 20日      d. 21日      e. 22日

26. 3. あいさつのことば ㉔: 送り迎えにいうことば

- (1) 다녀 오겠습니다.  
 --- 안녕히 다녀 오십시오.
- (2) 다녀 왔습니다.  
 --- 안녕히 다녀 오셨습니까?
- (3) 다녀 오겠습니다. 부디 건강하십시오.
- (4) 아무쪼록 건강하시기 바랍니다.
- (5) 다시 뵈올 때까지 건강하세요.
- (6) 제가 다시 올 때까지 정정하셔야 돼요.
- (7) 부디 건강하기 바란다.
- (8) 집안 일을 잘 부탁드립니다.
- (9) 부모님 일은 잘 부탁드립니다.
- (10) 아이들 좀 잘 돌봐 주세요.
- (11) 뒷일을 잘 부탁드립니다.
- (12) 잘들 다녀 오세요.
- (13) 잘 다녀들 오세요.
- (14) 뒷일은 잘 처리할 테니까 걱정하지 마십시오.
- (15) 갔다 올 테니까 부모님 말씀 잘 들어라.
- (16) 갔다 올 테니까 동생하고 잘 놀아 줘라.
- (17) 싸우지 말고 같이 잘 놀아라.
- (18) 공부 열심히 하고 학교 잘 다녀라.
- (19) 그 동안 별고 없으셨습니까?
- (20) 변함이 없으시군요.
- (21) 혈색이 좋아지셨네요.
- (22) 얼굴이 좋아지셨어요. 사업이 잘 되시는가 보지요?
- (23) 좀 야위신 것 같아요. 회사 일이 바쁘시나 보지요?
- (24) 애, 네가 영순이지? 몰라 보게 많이 컸구나.

26. 4. 練習文例: -(으)ㄴ데 (形容詞の現在など), -는데 (動詞ほか)

《~なのだが》: 前半の内容に対して, 後半にのべようとする内容を附加したり, 対比させたりする時に用いる形だが, 後半の部分を明言するのをやめて余韻をのこす,

という意味で文を結ぶのにも盛んに用いられる。丁寧形として、-요をつけた形、-(으)는데요, -는데요, も頻繁に用いられる形である。

- (1) 차 타고 가는 시간은 거의 같은데,  
택시 잡는 데 시간이 걸립니다. <같다>
- (2) 지금 생각났는데, 박 대철 선생님도 닭띠 이시지요? <생각나다>
- (3) 연령이 비슷하다고는 했는데요. <하다, 했다>
- (4) 어디서 몇 시에 만나기로 하셨는데요? <하다, 하셨다>
- (5) a. 머리는 좋은데, 공부를 안 하는 모양입니다. <좋다>  
b. 여기는 조용한데, 분위기가 좋지 않습니다. <조용하다>  
c. 방은 넓은데 창문이 작아서 어둡습니다. <넓다>  
d. 손님이 많지도 않은데 왜 바쁘지요? <않다>
- (6) e. 오늘은 수요일인데 왜 문을 닫았을까? <이다>  
f. 오늘은 일요일도 아닌데 왜 손님이 많지요? <아니다>
- (7) g. 그 학생은 운동은 잘 하는데 공부는 못 합니다. <하다>  
h. 오늘 박 선생을 만나는데 전해 드릴 게 있습니까? <만나다>  
i. 지금은 잘 사는데, 옛날에 아주 고생한 모양이다. <살다>  
j. 그 사람은 책은 많이 읽는데, 그만큼 성과가 없다. <읽다>  
k. 그 학생은 책을 많이 읽지도 않는데 논문을 잘 쓴다. <않다>  
l. 김 선생님이 토요일에 오셨는데 아세요? <오다, 오시다, 오셨다>  
m. 편지 했는데 받으셨는지요? <하다, 했다>
- (8) n. 김 선생님이 토요일에 오셨는데요. <오다, 오시다, 오셨다>  
o. 편지 했는데요. <하다, 했다>

26. 5. 練習文例：不可能の副詞 못 と補助動詞 (-지) 못하다 《できない》

- (1) a. 경주는 구경 못 하셨군요.  
b. 경주는 구경하지 못하셨군요. <구경하다>
- (2) a. 이 번에는 못 가 봤어요.  
b. 이 번에는 가 보지 못했어요. <가 보다>
- (3) a. 내일 학교에는 못 나오십니까?  
b. 내일 학교에는 나오시지 못하십니까? <나오다, 나오시다>
- (4) a. 죄송합니다만 비행장에는 못 나갑니다.  
b. 죄송합니다만 비행장에는 나가지 못합니다. <나가다>
- (5) a. 담배는 이 번에도 못 끊었습니다.  
b. 담배는 이 번에도 끊지 못했습니다. <끊다>
- (6) a. 사람은 물 없이는 못 삽니다.  
b. 사람은 물 없이는 살지 못합니다. <살다>

- (7) a. 필름이 떨어져서 사진은 못 찍었습니다.  
 b. 필름이 떨어져서 사진은 찍지 못했습니다. <찍다>
- (8) a. 그 사람은 술을 많이는 못 먹습니다.  
 b. 그 사람은 술은 많이는 먹지 못합니다. <먹다>
- (9) 오랫동안 뵈지 못했습니다.  
 — 그래, 오래간만이다. 잘 있었느냐? <뵈다>

26. 6. 活用練習——規則活用：子音語幹 ① (히 ㄷ ㄱ)

語幹：

- |              |                 |               |
|--------------|-----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形          | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去        | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬 (現在)   | h. 連用形 -아서 (어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으면) | k. 連体形 -(으)ㄴ    | l. 連体形 -는     |

입- 《着る》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 입다    | b. 입는다   | c. 입는군요  |
| d. 입습니다  | e. 입었습니다 | f. 입겠습니다 |
| g. 입으십니다 | h. 입어서   | i. 입으니까  |
| j. 입으면   | k. 입은    | l. 입는    |

語例：

- [動] 잡다 《捕える》    갠다 《報いる, 返えす》    뽑다 《抜きとる》 ;  
 엮다 《かむ》    덮다 《覆う》    접다 《折りたたむ》  
 씹다 《しゃぶる》    뒤집다 《裏返えす》
- [形] 좁다 《狭まい》    굵다 《(手足が)かじかんだ状態である》  
 높다 《高い》    깊다 《深い》

묻- 《埋める》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 묻다    | b. 묻는다   | c. 묻는군요  |
| d. 묻습니다  | e. 묻었습니다 | f. 묻겠습니다 |
| g. 묻으십니다 | h. 묻어서   | i. 묻으니까  |
| j. 묻으면   | k. 묻은    | l. 묻는    |

語例：

- [動] 받다 《受ける》    쏟다 《そそぐ, あける》    든다 《のぼる》    닫다 《閉じる》  
 맡다 《ひきうける》 ;  
 얻다 《もらう》    믿다 《信じる》    번다 《(枝など)のびる, のぼす》  
 뜯다 《むしる》    붙다 《はりつく》 ;
- [形] 같다 《同じだ》    얕다 《浅い》 ;    굳다 《固い》

먹- 《食べる》

a. 먹다

b. 먹는다

c. 먹는군요

d. 먹습니다

e. 먹었습니다

f. 먹겠습니다

g. 먹으십니다

h. 먹어서

i. 먹으니까

j. 먹으면

k. 먹은

l. 먹는

語例:

[動] 막다 《妨げる》    삭다 《朽ちる》    녹다 《融ける》    닦다 《磨く》

      깎다 《けずる》 ;

      묵다 《泊る》

      묶다 《縛る》

      죽다 《死ぬ》

      격다 《折る》

      썩다 《腐る》    섞다 《混ぜる》

[形] 작다 《小さい》 ;    적다 《少ない》



第27課 며칠 전에 강 선생님을 만났어요.

27. 1. 對話:

- 김 영희 : 며칠 전에 강 선생님을 만났어요.  
 야마다 : 네, 강 선생님 소식은 오래간만에 듣는군요.  
 김 영희 : 외국에 다녀 오셨다고 하시던데요.  
 야마다 : 처음 듣는 이야기입니다. 얼마 동안 가 계셨는데요?  
 김 영희 : 한 3년 동안 계셨다던데요.  
 야마다 : 오랫동안 계셨군요.  
 김 영희씨는 외국에 가 보신 일이 있으세요?  
 김 영희 : 저는 아직 가 본 일이 없습니다.  
 선생님은 어디, 가 보셨어요?  
 야마다 : 몇 년 전에 처음으로 미국을 다녀 왔습니다.  
 김 영희 : 좋으셨겠습시다. 얼마 동안 가 계셨는데요?  
 야마다 : 석 달 동안 있었습시다.  
 김 영희 : 저도 한 번은 가 보고 싶어요.  
 야마다 : 네, 꼭 한 번 가 보십시오. 정말 좋습니다.  
 미국으로 가셨다가 구라파로 해서 돌아 오시는 것도 좋습니다.  
 김 영희 : 다른 나라에도 가 보셨나요?  
 야마다 : 구라파는 아직 못 가 봤는데,  
 올해는 동남아를 처음으로 다녀 왔습니다.

27. 2. 月数のかぞえ方 —— 附: 年数 ——

- (1) a. 한 달 《ひと月》 b. 두 달 《ふた月》 c. 석 달 《3か月》  
 d. 넷 달 《4か月》 e. 다섯 달 《5か月》 f. 여섯 달 《6か月》  
 g. 일곱 달 《7か月》 h. 여덟 달 《8か月》 i. 아홉 달 《9か月》  
 j. 열 달 《10か月》 k. 열 한 달 《11か月》
- (2) a. 일개월 《ひと月》 b. 이개월 《ふた月》 c. 삼개월 《3か月》  
 d. 사개월 《4か月》 e. 오개월 《5か月》 f. 십개월 《10か月》
- (3) 몇 달 동안 외국에 계셨습니까?  
 —— ～～ 동안 있었습시다.  
 a. ひと月 b. 4か月 c. み月 d. 10か月  
 e. 6か月 f. 5か月 g. 8か月 h. 9か月

- (4) 얼마 동안 외국에 다녀 오셨습니까?  
 --- ~~만에 돌아 왔습니다.  
 a. 7か月      b. 4か月      c. 2か月      d. 3か月
- (5) 몇 년 동안 외국에 사셨습니까?  
 --- ~~ 동안 살았습니다.  
 a. 7年      b. 10年      c. 16年
- (6) 몇 년만에 돌아 오셨습니까?  
 --- 나간지가 ~년이 됩니다.  
 a.      b. 3年      c. 5年      d. 2年

27. 3. 枚数 (장), 杯数 (잔) のかぞえ方 ---

- (1) a. 한 장      b. 두 장      c. 석 장  
 d. 넷 장      e. 다섯 장      f. 여섯 장  
 g. 일곱 장      h. 여덟 장      i. 아홉 장  
 j. 열 장      k. 열 두 장      l. 열 석 장  
 m. 열 넷 장      n. 열 다섯 장      o. 스무 장
- (2) a. 한 잔      b. 두 잔      c. 석 잔  
 d. 넷 잔      e. 다섯 잔      f. 열 잔
- (3) 몇 장쯤 구하세요? --- ~장만 주세요.  
 a. 8枚      b. 14枚      c. 3枚      d. 5枚      e. 20枚  
 f. 30枚      g. 35枚      h. 50枚      i. 百枚      j. 百20枚
- (4) 몇 컵 드릴까요?  
 --- 홍차를 한 잔씩, 합해서 ~~ 잔 주세요.  
 a. 5杯      b. 3杯      c. 4杯      d. 6杯
- (5) 몇 시키세요? --- ~~ 주세요.  
 a. コーヒーと紅茶を3杯ずつ      b. コーヒー3杯と紅茶4杯.

27. 4. 練習文例: 連体形 -(으)ㄴ (可能性·未確定の表現) ---

- (1) 노래 부를 사람은 앞으로 나오세요.      <부르다>  
 (2) 노래 부르지 않을 분은 뒤로 물러 서세요.      <않다>  
 (3) 헤어질 시간이 다 됐습니다.      <헤어지다>  
 (4) 공원은 넓은데, 앉을 데가 없습니다.      <앉다>  
 (5) 너무 바빠서 책을 읽을 시간도 없습니다.      <없다>

- (6) 전근와서 서울에서 살 집을 구하고 있다고 합니다. <살다>  
 (7) 응접실에 깔 음단을 주문하려 왔는데요. <깔다>

27. 5. 練習文例: -(으)ㄴ 일이 있다 (없다) 《したことがある (ない)》

- (1) a. 외국에 가 보신 일이 있으세요? <가 보시다>  
 b. 아직 가 본 일이 없습니다. <가 보다>  
 (2) 그 이야기는 어디서 들은 일이 있습니다. <듣다>  
 (3) 그 신문 기사는 읽은 일이 없습니다. <읽다>  
 (4) 몇 년 전에 한 번 뵈은 일이 있습니다. <뵈다, 뵈다>  
 (5) 성적이 좋아서 선생님한테서 칭찬받은 일이 있습니다. <칭찬받다>  
 (6) 장난치다가 선생님한테서 꾸지람을 들은 일이 생각납니다. <듣다>

27. 6. 練習文例 —— 引用の仕方: -고 하다 《と、思う》の形

- (1) 외국에 갔다 오셨다고 하시던데요. <오셨다·고>  
 (2) 한 3년 동안 계셨다던데요. <계셨다-(고 하시)-던데요>  
 (3) 연령이 비슷하다고는 했는데요. <비슷하다·고>  
 (4) 처음 뵈겠습니다. 김 희석이라고 합니다. <이라·고>  
 (5) 닭띠라면 1944년생이지요? <이라(고) 하면>  
 (6) 어디서 몇 시에 만났다고 하셨지요? <만나다·고>  
 (7) 그 사람은 술을 못 먹는다고 했어요? <못 먹는다·고>

27. 7. 活用練習——規則活用: 子音語幹 ② 人スエ

語幹:

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未来」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

벗- 《脱ぐ》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 벗다    | b. 벗는다   | c. 벗는군요  |
| d. 벗습니다  | e. 벗었습니다 | f. 벗겠습니다 |
| g. 벗으십니다 | h. 벗어서   | i. 벗으니까  |
| j. 벗으면   | k. 벗은    | l. 벗는    |

語例:

- [動] 솟다 《立ちのぼる》 빼앗다 《奪う》  
웃다 《笑う》 빗다 《髪にくしをいれる》 씻다 《水で洗う》  
있다 《在る, 居る》

맞- 《あたる》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 맞다    | b. 맞는다   | c. 맞는군요  |
| d. 맞습니다  | e. 맞었습니다 | f. 맞겠습니다 |
| g. 맞으십니다 | h. 맞아서   | i. 맞으니까  |
| j. 맞으면   | k. 맞은    | l. 맞는    |

語例:

- [動] 찾다 《探す》 꽂다 《插す》; 쫓다 《逐う》  
빚다 《手でまるめてこしらえる》 짓다 《ほえる》 찢다 《破る》
- [形] 낮다 《低い》;  
젖다 《濡れている》 늦다 《晚い》

第28課 11시경에 기다리겠습니다.

28. 1. 對話:

김 영희 : 이 번 일요일은 21일이지요?  
 야마다 : 아닙니다. 21일이 아니고, 22일입니다.  
 김 영희 : 네? 오늘이 17일이 아닌가요?  
 야마다 : 오늘은 17일이 아니고, 18일이에요.  
 김 영희 : 아 네, 제가 잘못 알았군요.  
 이 번 일요일에는 시간이 있으세요?  
 야마다 : 별로 바쁘지는 않습니다.  
 김 영희 : 동물원에 갈까 하는데 같이 가지겠어요?  
 야마다 : 네, 가 보고 싶습니다. 어디서 만날까요?  
 김 영희 : 우리 회사 옆에 우체국이 있는데 아십니까?  
 야마다 : 네거리 못 미처에 있지요?  
 김 영희 : 그 우체국 건너편에 다방이 있는데요.  
 거기서 일요일 11시경에 만납시다.  
 야마다 : 동물원에는 어떻게 갑니까?  
 김 영희 : 그 다방 앞에서 버스를 타고 갑니다.  
 야마다 : 버스로 몇 분쯤 걸립니까?  
 김 영희 : 한 30분밖에 걸리지 않습니다.  
 야마다 : 동물원 근처에도 식당이 있겠지요?  
 김 영희 : 네, 동물원 안에도 식당이 여러 군데 있습니다.

28. 2. 練習文例: 잘못 《まちがえて(する)》, 《やりそこなう》の意の副詞

- |                             |          |
|-----------------------------|----------|
| (1) 제가 날짜를 잘못 알았군요.         | <잘못 알다>  |
| (2) 서류에 도장을 잘못 찍었습니다.       | <잘못 찍다>  |
| (3) 편지에 주소를 잘못 썼습니다.        | <잘못 쓰다>  |
| (4) 전화가 잘못 걸려 왔습니다.         | <잘못 걸리다> |
| (5) 단추를 잘못 끼었어요.            | <잘못 끼다>  |
| (6) 선생님께서 그 학생을 잘못 보고 계십니다. | <잘못 보다>  |
| (7) 지난 번 시험은 잘못 봤습니다.       | <잘못 보다>  |

28. 3. 練習文例：-고 있다(계시다) 《しつづある(しておいでになる)》

- (1) a. 지금 눈이 내리고 있습니다. <내리다>  
b. (밤중에 눈이 내렸습니다.)
- (2) 선생님은 지금 서류를 보고 계십니다. <보다>
- (3) 오빠는 지금 전화걸고 있습니다. <전화걸다>
- (4) 그 때 저는 2층에서 공부하고 있었습니다. <공부하다>
- (5) 네 말을 듣고 선생님은 웃고 계셨잖아? <웃다>
- (6) 교과서를 소리를 내서 읽고 있습니다. <읽다>
- (7) a. 그 가게는 마침 문을 열고 있었습니다. <열다>  
b. 그 가게는 벌써 문이 열려 있었습니다.
- (8) 아버지는 응접실에서 손님과 이야기 나누고 계십니다. <나누다>
- (9) a. 그 때는 편지를 쓰고 있었습니다. <쓰다>  
b. 그 때 편지는 이미 썼습니다.
- (10) a. 마당에는 눈이 조금씩 쌓이고 있었습니다. <쌓이다>  
b. 마당에는 눈이 쌓여 있었습니다.
- (11) 어머니는 지금 비로 마당을 쓸고 계십니다. <쓸다>
- (12) 아까는 총채로 먼지를 털고 계시던데요. <털다>

28. 4. 位置關係を表わす単語：(앞, 옆, 뒤, 건너편, 못 미처, 근처, 안, 밖)

- (1) 앞 《前》 ——
  - a. 역 앞에 파출소가 있습니다.
  - b. 문 앞에 사람이 서 있습니다.
  - c. 저기 은행 앞에서 차를 세워 주세요.
  - d. 저 주유소 앞이 우리 회사입니다.
  - e. 제비 뽑을 사람은 앞으로 나오세요.
  - f. 차 앞을 가로 지르면 위험합니다.
  - g. 다방 앞에서 기다리십시오.
- (2) 옆 《よこ, そば》
  - a. 파출소 옆에 공중전화가 있습니다.
  - b. 학교 옆에 문방구 가게가 있습니다.
  - c. 문방구 가게 옆엿 골목에 들어 가세요.
  - d. 옆에 와서 앉으시지요.
- (3) 뒤 《うしろ》
  - a. 영화관에서 우리 뒤에 계시던 분이 누구인지 아세요?
  - b. 그 다방은 책방 뒤에 있어요.

- c. 초안종은 문기등 뒤에 달려 있습니다.
- d. 아이가 어머니 뒤를 따라 갑니다.
- (4) 건너편 《向こう側, 向い側》
  - a. 역 건너편에 책방이 있습니다.
  - b. 학교 건너편 다방에서 기다리겠습니다.
  - c. 길 건너편에 있는 안내판을 보고 왔습니다.
  - d. 그 은행 건너편에 또 다른 은행이 있습니다.
- (5) 못 미쳐 《手前》
  - a. 네거리 못 미처에 버스 정류장이 있습니다.
  - b. 다리 못 미처에 우체통이 뵙니다.
  - c. 500 미터쯤 더 가시면 길모퉁이 못 미처에 소방서가 있습니다.
- (6) 근처 《あたり, 近く》
  - a. 우리 학교 근처에는 식당이 없습니다.
  - b. 우리 집 근처에는 이발소가 없습니다.
  - c. 역 근처에는 음식점도 많습니다.
- (7) 안 《なか, 内部》
  - a. 5시 지나면 학교 안에는 들어 가지 못 합니다.
  - b. 방 안에서 노래 부르는 소리가 들려 옵니다.
  - c. 호텔 안에는 다방도 레스토랑도 있습니다.
  - d. 교실 안에서는 뛰어 다니지 마세요.
  - e. 우리 안에는 호랑이가 누워 있습니다.
  - f. 번호를 부르면 카텐 안으로 들어 오십시오.
- (8) 밖 《そと》
  - a. 수업 시간 중에 교실 밖으로 나가서는 안 됩니다.
  - b. 진찰실 밖에서 기다리십시오.
  - c. 창문 밖으로 손을 내밀어 흔들었습니다.
  - d. 뒤주 밖으로 쌀이 쏟아졌습니다.

28. 5. 練習文例: -밖에 (否定) 《しか(ない, しない)》

- (1) 학교까지는 한 30분밖에 걸리지 않습니다.
- (2) 교실에는 학생이 들밖에 없습니다.
- (3) 시간은 한 시간밖에 안 남았습니다.

28. 6. 活用練習——規則活用：子音語幹 ③ □ L

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未来」    |
| g. 尊敬（現在）    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

심- 《植える》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 심다    | b. 심는다   | c. 심는군요  |
| d. 심습니다  | e. 심었습니다 | f. 심겠습니다 |
| g. 심으십니다 | h. 심어서   | i. 심으니까  |
| j. 심으면   | k. 심은    | l. 심는    |

語例：

- [動] 감다 《卷く, 洗髪する》 담다 《盛る》 남다 《残る》 삼다 《(に)する》  
 넘다 《越える》 숨다 《隠れる》 뿜다 《漬出する》  
 안다 《だく》 신다 《履く》 ;  
 [形] 검다 《黒い》 ;



第29課 말씀 좀 여쭙어 보겠습니다.

29. 1. 對話:

야마다: 실례합니다만 말씀 좀 여쭙어 보겠습니다.  
지하철 역이 어디 있습니까?  
가게 주인: 저기 교통신호가 있지 않아요?  
그 신호 못 미쳐서 오른쪽으로 가세요.  
야마다: 네, 그냥 곧장 가면 됩니까?  
가게 주인: 비탈길을 올라 가시면요, 표시판이 보여요.  
그 표시판 바로 밑에 계단이 있어요.  
야마다: 그 계단이 바로 지하철 입구인가요?  
가게 주인: 네, 내려 가시면 매표소가 나옵니다.  
야마다: 감사합니다.

\*\*\*

\*\*\*

야마다: 미안합니다. 좀 여쭙어 보겠는데요,  
지하철 역이 어디입니까?  
길 가는 사람: 저 우체국 앞에 골목이 있지 않아요?  
거기서 왼쪽으로 꼬부라지세요.  
야마다: 꼬부라지면 금방 알 수 있습니까?  
길 가는 사람: 건너편에 큰 은행이 있으니까,  
금방 눈에 띌 거예요.  
야마다: 알겠습니다. 감사합니다.

29. 2. 練習文例: -지 않아요? (-잖아요?): 強調表現 ——

- (1) 저기 교통신호가 있지 않아요? <있다>
- (2) 저기 간판이 보이지 않아요? 거기서 기다리세요. <보이다>
- (3) 저기 택시가 오지 않아요? 그 앞이 저희 회사입니다. <오다>
- (4) 이제 곧 방학이 되지 않아요? 우리 시골에 놀러 오세요. <되다>
- (5) 비가 오면 우산을 받지 않아요? <받다>
- (6) 사무실에는 아무도 없지 않아요? <없다>
- (7) 네 말을 듣고 선생님은 웃고 계셨잖아? <계시다>

29. 3. 練習文例: -(으면(요)) 《ならば, すれば》 (仮定形) -----

- (1) 비탈길을 올라 가시면(요), 표시판이 보여요. <올라 가다>
- (2) 이 길을 따라 가면(요), 버스 정류장이 나와요. <따라 가다>
- (3) 박 선생님을 만나시면(요), 안부를 전해 주십시오. <만나다>
- (4) 그러면요, 내일 또 연락해 주세요. <그렇다>
- (5) 그 사실을 알면 누구나 놀랄 겁니다. <알다>
- (6) 문을 열면 눈 앞에 우뚝 산이 솟아 있습니다. <열다>
- (7) 이 사건의 경위는 기록을 읽으면 다 알 수 있습니다. <읽다>
- (8) 갈 데가 없으면 내일 놀러 오세요. <없다>
- (9) 괜찮으시면 내일 찾아 뵙고 싶은데요. <괜찮다>
- (10) 차 앞을 가로 지르면 위험합니다. <가로 지르다>
- (11) 열이 높으면 얼음으로 머리를 식히세요. <높다>
- (12) 이 길을 곧장 가면 어디가 나오니까? <가다>

29. 4. 練習文例: -(으로) 《~で》 (道具, 手段), 《~へ》 (方向) -----

- A. (1) a. 이 모양을 가위로 오려 내세요. <가위>  
 b. 포장지로 깨끗이 싸 주세요. <포장지>  
 c. 자로 길이를 정확히 재어 보세요. <자>  
 d. 국물은 국자로 그릇에 뜨셔야지요. <국자>  
 e. 장작은 도끼로 뺏니다. <도끼>  
 f. 괄이로 발을 갑니다. <괄이>  
 g. 행주로 상을 닦으세요. <행주>
- (2) a. 애들이 발로 차며 싸웠어요. <발>  
 b. 말로만 하시지 말고 몸소 실천하세요. <말>  
 c. 이 애가 식빵을 칼로 잘 썰었어요. <칼>  
 d. 줄로 쓸어서 고르게 만드세요. <줄>  
 e. 줄로 묶어서 짐을 꾸려 놓았습니다. <줄>  
 f. 끌로 파서 무궁화를 새겼습니다. <끌>

- (3) a. 길이를 맞추어 이 판자를 톱으로 썬다. <톱>  
 b. 냇으로 풀을 뺏는다. <냇>  
 c. 두 손으로 옷자락을 잡고 놓지 않습니다. <손>  
 d. 책은 한 묶음씩 끈으로 묶어 주세요. <끈>  
 e. 여기에다 송곳으로 구멍을 뚫어 주세요. <송곳>  
 f. 삽으로 자갈을 퍼 내세요. <삽>  
 g. 이 공기에 주걱으로 밥을 퍼 주세요. <주걱>  
 h. 서명은 붓으로 해야 됩니까? <붓>  
 i. 열이 높으면 얼음으로 머리를 식히세요. <얼음>
- B. (1) a. 이 번에는 어디로 출장가시나요? <어디>  
 b. 기차 타고 경주로 여행가셨어요. <경주>  
 c. 그 고양이는 우리 집을 지나 길 모퉁이로 갔어요. <모퉁이>  
 d. 차도로 걸어 가지 말라는 주의를 받았습니다. <차도>
- (2) a. 서류를 가지고 선생님 사무실로 갔는데요. <사무실>  
 b. 손님을 모시고 호텔로 갔습니다. <호텔>
- (3) a. 아버님을 마중하러 역으로 나갔는데요. <역>  
 b. 애를 데리고 공원으로 갔습니다. <공원>  
 c. 물건 사러 시장으로 가 봤습니다. <시장>  
 d. 회사 일을 끝내고 집으로 들어 가셨습니다. <집>  
 e. 담을 넘어 안으로 들어 갔어요. <안>  
 f. 문 밖으로 나갔는데 아직 안 돌아 왔습니다. <밖>  
 g. 동굴 속으로 들어 가면 위험합니다. <속>  
 h. 저 은행 못 미처에 있는 길을 왼쪽으로 가세요. <왼쪽>  
 i. 이 길을 남쪽으로 가세요. <남쪽>



第30課 경주에 가 볼 생각입니다.

30. 1. 對話:

야마다: 다음 주일에 경주에 가 볼 생각입니다.  
 김 인숙: 좋으시겠네요. 혼자서 가세요?  
 야마다: 대구에 있는 친구하고 같이 갑니다.  
 김 인숙: 잘 됐군요. 재미 있을 것 같은데요.  
 가시는 김에 광주 목포로 해서 돌아 오시지요.  
 야마다: 이 번에는 시간 여유가 있을지 모르겠어요.  
 김 인숙: 고속 도로가 생겨서 쉽게 갈 수가 있어요.  
 대구 가시면 친구 분하고 의논해 보세요.  
 야마다: 그러지요.  
 이 번에는 경주하고 해인사를 가 볼 계획인데,  
 시간이 있으면 부산 부근을 안내해 주겠다는데요.  
 김 인숙: 네, 부산 부근에도 가 볼 만한 곳이 많지요.  
 다른 지방은 다음 기회로 미루시는 게 나을지도 모르겠네요.  
 야마다: 가고 싶은 데는 많습니다.  
 기회를 보아서 조금씩 구경하기로 하지요.  
 김 인숙: 욕심이 많으시나 본데요.  
 야마다: 경주는 신라 문화의 본고장이고, 전주 공주는 백제 문화의  
 본고장이어서, 많은 유적을 볼 수 있다 그러지요?  
 김 인숙: 네, 잘 아시네요.  
 야마다: 기회가 닿으면 제주도에도 가 보고 싶고, 동해안에도 가  
 보고 싶습니다.

30. 2. 練習文例: -네(요) —— 印象などを率直にいう語尾 ——

- |                               |             |
|-------------------------------|-------------|
| (1) 좋으시겠네요.                   | <좋다, 좋으시다>  |
| (2) 우리 말을 잘 하시네요.             | <하다, 하시다>   |
| (3) 우리도 좀처럼 못 보는데, 마침 잘 보셨네요. | <보다, 보시다>   |
| (4) 오늘 따라 바람이 심하게 부네요.        | <불다>        |
| (5) 설명해 드릴까 했는데, 벌써 다 아시네요.   | <알다, 아시다>   |
| (6) 애가 어려운 책을 잘 읽네요.          | <읽다>        |
| (7) 멀지 않아 꽃 피는 봄이 오겠네요.       | <오다>        |
| (8) 다음 기회로 미루시는 게 나을지도 모르겠네요. | <모르다>       |
| (9) 펍 바쁘셨겠네요.                 | <바쁘다, 바쁘시다> |

30. 3. 練習文例： ~지 《かどうか》 (半信半疑の様子)

30. 3. A. -(으)는지 :

- (1) 이 번에는 시간 여유가  
있을지 (없을지) 모르겠습니다. <있다, 없다>
- (2) 다른 지방은 다음 기회로 미루시는 게  
나을지도 모르겠네요. <낫다>
- (3) 물어야 할지 웃어야 할지 몰랐습니다. <하다>
- (4) 그 분이 오실지 안 오실지 누가 알겠습니까? <오다, 오시다>
- (5) 그 분이 내일 참석하실지 알아 보세요. <하다, 하시다>
- (6) 할아버지가 실망하시지 않을지 걱정이 됩니다. <않다>
- (7) 아들을 데리고 가야 될지 말아야 될지 알 수가 없습니다. <되다>

30. 3. B. -(으)는지 :

- (1) 그 사람이 누군지 아는 사람이 하나도 없습니다. <(이)다>
- (2) 가격이 얼마인지 짐작도 안 갑니다. <이다>
- (3) 이 게 내 건지 아닌지 알 수가 없습니다. <이다, 아니다>
- (4) 그 게 물인지 기름인지 분명하지 않습니다. <이다>
- (5) 방이 좁은지 넓은지는 가 봐야 알겠지요? <좁다, 넓다>
- (6) 거기가 얼마나 먼지, 가 본 사람만 압니다. <멀다>
- (7) 얼마나 무거운지 저울에 달아 보세요. <무겁다>

30. 3. C. -는지 :

- (1) 구하시는 물건이 있는지 창고 속에서 찾아 보지요. <있다>
- (2) 마음 속으로 뭘 생각하는지, 가만히 앉아 있었습니까 <하다>
- (3) 지금 어디서 사는지, 소식이 통 없어요. <살다>
- (4) 언제 책을 읽는지, 새 학설을 잘 알아요. <읽다>
- (5) 그 사람 앞으로 무슨 편지를 쓰시는지,  
한 마디만 말해 주십시오. <쓰다, 쓰시다>
- (6) 이 사진에 찍힌 사람을 아시는지요? <알다, 아시다>

30. 3. D. -았(었)는지 ; -겠는지 :

- (1) 그런 편지를 언제 부쳤는지 기억이 안 납니다. <부치다>
- (2) 사진을 몇 장 찍었는지 세어 보세요. <찍다>
- (3) 사진은 몇 장쯤 찍으셨는지요? <찍다>
- (4) 보고서는 다 읽으셨는지요? <읽다>
- (5) 사건의 경위는 다 아셨는지요? <알다>
- (6) 어제 회의에 참석하셨는지요? <참석하다>

- (7) 편지 초안은 손수 쓰시겠는지요? <쓰다>  
 (8) 마당은 할아버지 당신이 쓰시겠는지요? <쓸다>

30. 4. 練習文例: 助辞 와(과) 《と》と, 口語的な表現 하고 《と》 ———

- (1) 문방구에 가서 봉투와 편지지 좀 사 와요. <봉투·하고>  
 (2) 연필과 지우개도 같이 사 와요. <연필·하고>  
 (3) 이 신문과 그 잡지를 읽어 보세요. <신문·하고>  
 (4) 역사와 수학, 어느 쪽을 좋아 하세요? <역사·하고 수학·하고>  
 (5) 빵집 가서 빵과 우유를 사와요. <빵·하고>  
 (6) 닭과 개를 같이 기르는 건 힘듭니다. <닭·하고>

30. 5. 練習文例: 動詞と形容詞——終止形と詠嘆形:

- A. (1) a. 거리에는 차가 많다. <많다>  
       b. 오늘은 차가 많군요. <많다>  
 (2) a. 값이 굉장히 비싸다. <비싸다>  
       b. 생각보다 비싸군요. <비싸다>  
 (3) 역시 비행기는 참 빠르군요. <빠르다>  
 (4) 이 김치는 굉장히 맵군요. <맵다>
- B. (5) a. 아, 우체통이 여기 있군요. <있다>  
       b. 아 (어머나), 우체통이 이런 데 있군요. <있다>  
 (6) a. 지금 사무실에는 아무도 없다. <없다>  
       b. 근무 시간인데, 사무실에는 아무도 없군요. <없다>
- C. (7) a. 반소매 차림이 눈에 띈다. <띄다>  
       b. 치마 저고리를 입은 여자들이 눈에 띄는군요. <띄다>  
 (8) 노래를 잘 부르는군요. <부르다>  
 (9) a. 이 구두는 잘 맞는다. <맞다>  
       b. 좀 클까 봐 걱정했는데 잘 맞는군요. <맞다>  
 (10) 어려운 책을 잘 읽는군요. <읽다>

30. 6. 活用練習——規則活用：子音語幹 ⑤ (ㄹ 以)

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

활다 《なめる》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 활다    | b. 활는다   | c. 활는군요  |
| d. 활습니다  | e. 활았습니다 | f. 활겠습니까 |
| g. 활으십니다 | h. 활아서   | i. 활으니까  |
| j. 활으면   | k. 활은    | l. 활는    |

語例：

[動] 훑다 《しごく》；

앉- 《坐る》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 앉다    | b. 앉는다   | c. 앉는군요  |
| d. 앉습니다  | e. 앉았습니다 | f. 앉겠습니까 |
| g. 앉으십니다 | h. 앉아서   | i. 앉으니까  |
| j. 앉으면   | k. 앉은    | l. 앉는    |

語例：

[動] 엮다 《のせる》；



第31課 제주도 가려면 비행기를 타고 가야지요?

31. 1. 對話 :

- 야마다 : 제주도에 가려면 비행기를 타고 가야지요?  
 김 인숙 : 네, 비행기 타고 가시면 빠릅니다.  
 서울에서 한 1 시간밖에 안 걸립니다.  
 야마다 : 타기 전에 수속을 봐야지요?  
 김 인숙 : 그렇지요. 하지만 비행기가 떠나기 삼 사십 분 전에 가면  
 돼요. 그 걸 감안해도 두 시간이면 넉넉해요.  
 야마다 : 비행기편은 부산이나 광주에서도 있습니까?  
 김 인숙 : 제주도 가는 비행기편은 많습니다.  
 부산 광주는 물론이고, 그 밖에도 몇 군데 더 있어요.  
 야마다 : 시간만 있으면 배 타고 가는 것도 좋을 것 같은데요.  
 김 인숙 : 배 타고 가는 것도 좋지만 고생은 좀 감수해야 할 겁니다.  
 야마다 : 그렇게 고생해야 됩니까?  
 김 인숙 : 날씨에 따라 다르겠지만, 배멀미가 나서 고생하는 사람이  
 많은 것 같습니다.  
 야마다 : 파도가 세다는 말씀이군요.  
 김 인숙 : 네, 부산에서는 한 12 시간 정도,  
 목포에서는 한 6 시간 정도로 갈 수가 있어요.  
 한 번은 타 보시는 것도 좋을지도 모르겠는데요.

31. 2. 練習文例 :

-아야지(요) ( -어야지(요) ) 《しなければならぬ(でしょう)》  
 ( -아야(어야) 하지(요)의弱まり形)

- |                              |            |
|------------------------------|------------|
| (1) 제주도에 가려면 비행기를 타고 가야지요?   | <가다>       |
| (2) 비행기를 타기 전에 수속을 봐야지요?     | <보다>       |
| (3) 은행이라면 아침 열 시에는 문을 열어야지요? | <열다>       |
| (4) 선생님께 꼭 답장을 써야지.          | <쓰다>       |
| (5) 남매끼리 골고루 나누어야지.          | <나누다>      |
| (6) 외국어도 열심히 공부해야지.          | <공부하다>     |
| (7) 방에 들어 가려면 구두를 벗어야지요.     | <벗다>       |
| (8) 바깥에 나갈 때에는 신을 신어야지.      | <신다>       |
| (9) 시험 문제는 깨끗하게 쓰셔야지요.       | <쓰다, 쓰시다>  |
| (10) 그 일은 선생님이 맡으셔야지요.       | <맡다, 맡으시다> |

- (11) 노래는 소리를 맞추어서 불러야지요. <부르다>
- (12) 텔레비전은 자기 전에 꺼야지요. <끄다>
- (13) 거기에 도장을 찍어야지요. <찍다>
- (14) 하루에 두 번 정도는 이를 닦아야지요. <닦다>

31. 3. 練習文例：-(으)ㄴ 것 같다 《しそうだ, するらしい》

- A. (1) 회의가 있어서 늦어질 것 같군. <늦어지다>
- (2) 오늘은 바빠서 점심을 못 먹을 것 같습니다. <먹다>
- (3) 영어는 잘 하는데, 우리 말은 발음이 어려워서 못 하실 것 같습니다. <못 하다>
- (4) 이 담이 무너질 것 같은데요. <무너지다>
- (5) 이 책은 별로 재미 있을 것 같지도 않습니다. <있다>
- (6) 내일은 회사에 나올 것 같습니다. <나 오다>
- B. (7) 그 사람은 변호사인 것 같습니다. <이다>
- (8) 저거가 내 우산인 것 같습니다. <이다>
- (9) 저기 계신 분이 교장 선생님인 것 같습니다. <이다>
- (10) 아버지는 지금 막 집에 들어 오신 것 같습니다. <오다, 오시다>
- (11) 김 사장은 오늘 아침에 여행간 것 같습니다. <여행가다>
- (12) 그 시계는 아주 비싼 것 같습니다. <비싸다>
- (13) 요즈음 백화점에는 손님이 많은 것 같습니다. <많다>
- (14) 상인들은 돈을 많이 번 것 같습니다. <벌다>
- C. (15) 지금은 안방에서 바느질 하시는 것 같은데요. <하시다>
- (16) 요새 집에는 안 돌아 오는 것 같아요. <돌아 오다>
- (17) 요새 백화점에서는 묘목도 파는 것 같습니다. <팔다>
- (18) 신문을 읽을 때는 안경을 쓰는 것 같습니다. <쓰다>
- (19) 그 학생은 집에 들어가지 않고 밖에서 노는 것 같아요. <놀다>
- (20) 애들은 만화 책만 읽는 것 같은데요. <읽다>
- (21) 그 이야기는 아직 모르시는 것 같은데요. <모르다, 모르시다>

31. 4. 練習文例： 用言の名詞形：-기 《すること》

- (1) 비행기 타기 전에 수속을 밟아야지요? <타다>
- (2) 비행기가 떠나기 3, 40 분 전에 가면 돼요. <떠나다>
- (3) 해가 뜨기 전에 일어났습니다. <뜨다>
- (4) 해가 지기도 전에 달이 떴습니다. <지다>

- (5) 날이 저물기 전에 들어 오십시오. <저물다>  
 (6) 무사히 도착하기를 바랍니다. <하다, 하시다>  
 (7) 꼭 참석하시기 바랍니다. <하다, 하시다>  
 (8) 문을 열기는 열었는데 손님이 하나도 안 와요. <열다>  
 (9) 집에서 일찍 나오기는 나왔는데 도착이 늦었습니다. <나오다>  
 (10) 전에 명함을 받기는 받았는데... <받다>  
 (11) 회의 나가기가 싫어서 나가신 것 같습니다. <나가다>  
 (12) 해엄치기를 좋아 하는 사람이 많습니다. <해엄치다>  
 (13) 지금 막 비가 오기 시작했습니다. <오다>  
 (14) 어제부터 이 책을 읽기 시작했는데요. <읽다>  
 (15) 시험에 붙기 위해서 밤 늦게까지 공부합니다. <붙다>  
 (16) 손님을 모시기 위해 비행장에 갑니다. <모시다>  
 (17) 아침 늦게 일어나기 때문에 날이 빨리 저뭉니다. <일어나다>  
 (18) 어제 밤 늦게 잤기 때문에  
 일찍 일어나지 못 했습니다. <자다, 잤다>  
 (19) 공부를 너무 했기 때문에 병이 났습니다. <하다, 했다>  
 (20) 책을 못 읽었기 때문에 이해가 안 갑니다. <읽다, 읽었다>  
 (21) 너무 바빴기 때문에 신문도 못 읽었습니다. <바쁘다, 바빴다>

3 1 . 5 . 活用練習 —— 規則活用：子音語幹 ⑥ (ㄹ ㄹ ㅍ)

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

밟- 《ふむ》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 밟다    | b. 밟는다   | c. 밟는군요  |
| d. 밟습니다  | e. 밟았습니다 | f. 밟겠습니다 |
| g. 밟으십니다 | h. 밟아서   | i. 밟으니까  |
| j. 밟으면   | k. 밟은    | l. 밟는    |

語例：

- [動] 굶다 《化膿する》 옮다 《傳染する》 닮다 《似ている》 삶다 《煮る》  
 굶다 《食事をぬく》； (끓어지다 《かつぐ》)  
 읊다 《詠む》；  
 [形] 짧다 《短い》 얇다 《薄い》； 넓다 《廣い》 뛰다 《しぶい》；  
 젊다 《若い》

第32課 방을 예약했는데요.

32. 1. 對話:

야마다 : 저, 방을 예약했는데요.  
 종업원 : 어디서 오셨습니까?  
 야마다 : 서울에서 온 야마다입니다.  
 종업원 : 일본 분이세요? 연락은 언제 하셨습니까?  
 야마다 : 전화로 그저께 연락했습니다.  
 종업원 : 네, 예약 받았습니다. 싱글 하나이지요?  
 며칠 동안 계시겠습니까?  
 야마다 : 오늘부터 사흘 밤 묵을 생각인데요.  
 종업원 : 알겠습니다. 여기에다 성함과 주소를 쓰십시오.  
 국적과 여권 번호도 쓰시기 바랍니다.  
 야마다 : 이렇게 쓰면 됩니까?  
 종업원 : 다 쓰셨습니까? 네, 됐습니다.  
 제가 방으로 안내해 드리겠습니다. 짐은 이리 주십시오.  
 야마다 : 방이 몇 호실이지요?  
 종업원 : 706 호실입니다.  
 야마다 : 식당은 어디지요?  
 종업원 : 호텔 식당은 2 층에 있습니다.  
 1 층에는 레스토랑이 있고, 12 층에는 다방과 스카이라운지, 그리고 한식 일식 요리점이 있습니다.  
 야마다 : 알았습니다. 고맙습니다.

32. 2. 練習文例 : 連用形語尾 -아(서) (-어(서)) 《~して, ~くて》

- A. (1) 놀아서 손이 안 닿습니다. <놀다>  
 (2) 너무 달아서 못 먹습니다. <달다>  
 (3) 불 난 집이 가까워서 아주 걱정했습니다. <가깝다>  
 (4) 거기 앉아서 잠깐 기다려 주십시오. <앉다>  
 (5) 5 층에 올라 가 보세요. <오르다>  
 (6) 어떻게 해야 될지 몰라서 그냥 보고만 있었습니다. <모르다>  
 (7) 제일 가는 제품만 모아서 파는 가게입니다. <모으다>  
 (8) 그럼 나가서 같이 식사하실까요? <나가다>  
 (9) 아무리 기다려도 오시지 않아 그냥 돌아 왔습니다. <않다>

- B. (10) 어제는 늦어서 연락을 못 했습니다. <늦다>  
 (11) 멀어서 고생했습니다. <멀다>  
 (12) 무거워서 들고 갈 수는 없습니다. <무겁다>  
 (13) 신문을 안 읽어서 그 소식은 모릅니다. <읽다>  
 (14) 햄살로 밥을 짓고 송편을 빚어 차례를 지냅니다. <빚다>  
 (15) 좀 알아 볼 게 있는데, 그 사람을 불러 오세요. <부르다>  
 (16) 짐이 많으니 가방에다 눌러서 넣으세요. <누르다>  
 (17) 다리를 건너서 반대쪽에서 기다리겠습니다. <건너다>  
 (18) 가시는 길에 약방에 들러서  
 치약과 칫솔을 사 오세요. <들르다>
- C. (19) 발을 다쳐서 걷지를 못 하겠습니다. <다치다>  
 (20) 뜨거운 물에 데어서 오른 손을 못 씹니다. <데다>  
 (21) 개의 목을 매서 덤벼 들지 못 하게 했습니다. <매우다>
- D. (22) 열심히 공부해서 시험에 붙어야지. <하다>

32. 3. 練習文例：丁寧な命令 (-의십시오) と丁寧でない命令 (-아라(-어라))

32. 3. A. -의십시오：——

- (1) 많이 잡수십시오. (먹어라) <잡수시다, 먹다>  
 (2) 오늘은 꼭 주무십시오. (자라) <주무시다, 자다>  
 (3) 여기 가만히 계십시오. (있어라) <계시다, 있다>  
 (4) 여기서 잠깐 기다리십시오. (기다려라) <기다리다>  
 (5) 교과서 31 페이지를 펴십시오. (펴라) <펴다>  
 (6) 내일은 좀 일찍 나오십시오. (나와라) <나오다>  
 (7) 어항 물을 가십시오. (갈아라) <갈다>  
 (8) 전화를 다시 거십시오. (걸어라) <걸다>  
 (9) 서류는 책상 위에 놓아 두십시오. (두어라) <두다>  
 (10) 그 일을 말으십시오. (말아라) <말다>  
 (11) 신을 벗으십시오. (벗어라) <벗다>  
 (12) 문을 닫으십시오. (닫아라) <닫다>  
 (13) 땅을 파서 묻으십시오. (묻어라) <묻다>  
 (14) 거기 앉으십시오. (앉아라) <앉다>  
 (15) 이 통지서를 읽으십시오. (읽어라) <읽다>  
 (16) 답장을 쓰십시오. (써라) <쓰다>  
 (17) 외투를 입으십시오. (입어라) <입다>  
 (18) 슬리퍼를 신으십시오. (신어라) <신다>  
 (19) 비에 젖은 옷을 불에 말리십시오. (말려라) <말리다>

- (20) 그 집 전화 번호를 돌려십시오. (돌려라) <돌리다>  
 (21) 용무가 있으면 부르십시오. (불러라) <부르다>  
 (22) 가장 좋은 것을 고르십시오. (골라라) <고르다>

3 2 . 3 . B . 特に身近かな目下のものという命令：-거라 ( -너라)

- (1) 잘들 다녀 오너라. (와라) (오십시오) <오다>  
 (2) 빨리 학교에 가거라. (가라) (가십시오) <가다>  
 (3) 불을 끄고 자거라. (자라) (주무십시오) <자다>  
 (4) 가만히 여기 있거라. (있어라) (계십시오) <있다>  
 (5) 빨리 일어나거라. (일어나라) (일어나십시오) <일어나다>  
 (6) 빨리 하거라. <하다>  
 (7) 잊어 먹지 말고 꼭 소포를 부치거라. <부치다>  
 (8) 너희들 싸우지 말거라. <말다>

3 2 . 4 . 練習文例：動詞と形容詞 ——— 連体形 -(으)고 -는 -

- A. (1) 그렇게 비싼 물건을 왜 사셨어요? <비싸다>  
 (2) 음악회에는 아침부터 많은 사람들이 줄을 섰습니다. <많다>  
 B. (3) 추석 날에는 다들 산소 있는 데로 갑니다. <있다>  
 (4) 토요일에는 전화가 없는 집은 거의 없습니다. <없다>  
 C. (5) a. 시골에서 올라 온 학생도 많습니다. <올라 오다>  
       b. 추석 날에는 서울에 올라 오는 사람도 있습니다. <올라 오다>  
 (6) a. 주간지에서 읽은 내용과는 좀 다릅니다. <읽다>  
       b. 운동장에서 노는 학생보다 교실에서 책을 읽는 학생이 더 많습니다. <읽다>

3 2 . 5 . 活用練習 —— 規則活用：子音語幹 ㉞ 리(읽) ㅁ(없)

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)은   | l. 連体形 -는     |

읽- 《読む》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 읽다    | b. 읽는다   | c. 읽는군요  |
| d. 읽습니다  | e. 읽었습니다 | f. 읽겠습니다 |
| g. 읽으십니다 | h. 읽아서   | i. 읽으니까  |
| j. 읽으면   | k. 읽은    | l. 읽는    |

語例:

- [動] 읽다 《囓じる》    읊다 《くくる, わなにかける》  
 굶다 《かく》    엮다 《縛る, からげる》
- [形] 밝다 《明るい》    맑다 《すんでいる》    낡다 《古ぼけている》  
 붉다 《赤い》    굵다 《太い》    몹다 《水氣が多くてやわらかい》

없- 《ない》

- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| a. 없다    | b. 없다    | c. 없군요  |
| d. 없습니다  | e. 없었습니다 | f. 없습니다 |
| g. 없으십니다 | h. 없어서   | i. 없으니까 |
| j. 없으면   | k. (없은)  | l. 없는   |

語例:

- [形] 가없다 《かわいそうだ》

第33課 일본에서 아는 분이 오셔서...

33. 1. 對話:

김 영희: 요즈음 좀 바쁘신가 봐요.  
 야마다: 네, 일본에서 아는 분이 오셔서...  
 김 영희: 친한 분이세요?  
 야마다: 학생 시절에 신세 진 분이예요.  
 김 영희: 그런 분이시라면 잘 모셔 드리셔야지요.  
 야마다: 물론 다 보살펴 드렸어요.  
 김 영희: 벌써 돌아 가셨군요. 관광 여행으로 오셨나 보지요?  
 야마다: 회사 일로 오셨는데, 닷새 동안 계셨다가  
 어제 돌아 가셨습니다.  
 김 영희: 그렇다면 시간이 없어서 구경은 많이 못 하셨겠네요?  
 야마다: 시내 구경은 볼일 보시는 틈틈에 안내해 드렸는데,  
 관광은 거의 못 하셨어요.  
 김 영희: 모처럼 서울까지 오셨는데 안 됐군요.  
 야마다: 비교적 한가한 날은 닷새 동안에 이틀밖에 없어서,  
 남산하고 박물관, 그리고 비원을 안내해 드렸지요.  
 김 영희: 네, 그 거, 참 잘 하셨습니다.  
 야마다: 교외에 나갈 시간도 없었고, 그 정도밖에 못 해 드렸어요.  
 김 영희: 딱 바쁘셨겠네요. 또 오시겠지요.  
 야마다: 공항까지 전송해 드렸는데, 다음에는 시간 여유를 두고  
 오시겠다고 그러셨어요.

33. 2. 練習文例: 밖에 《~しかない》

- |                                      |        |
|--------------------------------------|--------|
| (1) 한가한 날은 닷새 동안에 이틀밖에 없었습니다.        | <이틀>   |
| (2) 교외 나갈 시간도 없고, 그 정도밖에 구경할 수 없었어요. | <정도>   |
| (3) 저희 집에는 지금 아이들밖에 없습니다.            | <아이들>  |
| (4) 교실에는 학생이 들밖에 없습니다.               | <학생 들> |
| (5) 손님은 두 분밖에 안 오셨습니다.               | <두 분>  |
| (6) 불길이 세서 금고밖에 가지고 나오질 못 했습니다.      | <금고>   |
| (7) 그런 경우에는 달아날 수밖에 방법이 없습니다.        | <수>    |
| (8) 학교까지는 한 30분밖에 걸리지 않습니다.          | <30분>  |



- (9) 시간은 한 시간밖에 안 남았습니다. <한 시간>  
 (10) 올해도 며칠밖에 안 남았군요. <며칠>

33.3. 練習文例：《行動・狀態の繼續を中斷する》

ことを表わす連用形語尾 -다가 —— 附： -았(었)다가 ——

- A. (1) 즐거운 꿈을 꾸다가 잠이 잤습니다. <꾸다>  
 (2) 말을 하다가 문득 생각이 난 게 있어서  
 입을 다물었습니다. <하다>  
 (3) 오늘 길을 가다가 친구를 만났습니다. <가다>  
 (4) 전화 걸다가 초인종이 울려서 끊었습니다. <걸다>  
 (5) 갓난애가 울다가 잠이 들었습니다. <울다>  
 (6) 한눈 팔다가 차에 칠 뻔했습니다. <팔다>  
 (7) 책을 읽다가 책장 사이에서 천 원짜리 녀  
 장이 나왔습니다. <읽다>  
 (8) 물이 끓다가 넘쳐 흘러서 불이 꺼진 모양입니다. <끓다>  
 (9) 노래 부르다가 갑자기 기침이 났습니다. <부르다>  
 (10) 연필을 꺾다가 손가락을 베었습니다. <꺾다>  
 (11) 너희들은 왜 잘 놀다가 싸우니? <놀다>  
 (12) 좀 더 계시다가 가지지 그러세요. <계시다>
- B. (1) 서울 갔다가 돌아 올 때는 금반지 사다 주세요. <가다>  
 (2) 미국에 가신다면 일본에 들렀다가 가세요. <들르다>  
 (3) 한 달 전에 왔다가 그저께 돌아 갔습니다. <오다>  
 (4) 슈퍼마켓에 들렀다(가) 가실까요? <들르다>  
 (5) 애가 비둘기를 잡았다가 오늘 놓아 주었습니다. <잡다>  
 (6) 다방에서 좀 쉬었다가 가실까요? <쉬다>  
 (7) 명함을 받았다가 어디 놓고 온 것 같습니다. <받다>

33.4. 練習文例：「過去」と「未來」の連続, 「過去」の重複——

- A. (1) 시간이 없어서 구경은 많이 못 하셨겠군요.  
 (2) 펍 바쁘셨겠군요.  
 (3) 제가 모르는데 왜 그런 소리를 했겠어요?
- B. (4) 오빠는 수학 여행 어디로 갔었어요?  
 (5) 그 사람은 고등학교 때 말을 탔었어요.  
 (6) 자네 어저께는 왜 그렇게 늦게까지 잤었나?  
 (7) 서울에는 언제 갔었니?

33. 5. 練習文例：行動の同時進行を表わす連用形 -(으)면서 《ながら》

- A. (1) 노래를 부르면서 눈물을 흘렸습니다. <부르다>  
 (2) 이야기를 나누면서 밤을 새웠습니다. <나누다>  
 (3) 텔레비전 보면서 어떻게 공부할 수 있습니까? <보다>  
 (4) 시장 후보자는 차 타고 지나 가면서  
 손을 흔들었습니다. <지나가다>
- B. (5) 코를 골면서 자고 있습니다. <골다>  
 (6) 울면서 사정을 말했습니다. <울다>
- C. (7) 웃으면서 그 이유를 설명해 주었습니다. <웃다>  
 (8) 밥을 먹으면서는 떠들지 말아야지. <먹다>  
 (9) 부엌에서 라디오를 들으면서 설거지를 합니다. <듣다>  
 (10) 책을 읽으면서 웃고 있습니다. <읽다>
- D. (11) 달아나면서 욕설을 마구 퍼 부었습니다. <퍼 붓다>  
 (12) 누가 큰 소리를 치면서 뒤 쫓아 옵니다. <치다>  
 (13) 낮에 일을 하면서 밤에는 학교 다닙니다. <하다>  
 (14) 그 학생은 잘 읽으면서도 읽지 않으려 합니다. <읽다>  
 (15) 그 사람은 일을 맡았으면서도 실은  
 아무 일도 안 하는데요. <맡다, 맡았다>

33. 6. 活用練習——不規則活用：① 르 變格, 러 變格

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

부르-《呼ぶ》

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| a. 부르다   | b. 부른다   | c. 부르는군요  |
| d. 부릅니다  | e. 불렀습니다 | f. 부르겠습니다 |
| g. 부르십니다 | h. 불러서   | i. 부르니까   |
| j. 부르면   | k. 부른    | l. 부르는    |

語例：

- [動] 가르다 《分ける》 오르다 《上がる》 모르다 《知らない》  
 흐르다 《流れる》 이르다 《告げ知らせる》 구르다 《ころがる》  
 누르다 《おさえる》
- [形] 마르다 《乾いている》 다르다 《異なっている》 빠르다 《速い》

이르-《至る》

a. 이르다

d. 이룹니다

g. 이르십니다

j. 이르면

b. 이른다

e. 이르렀습니다

h. 이르러서

k. 이른

c. 이르는군요

f. 이르겠습니다

i. 이르니까

l. 이르는

語例:

[形] 푸르다 《青い》 누르다 《黄色い》

第34課 추석 날은 9월 29일이군요.

34. 1. 對話:

김 영희: 올해 추석 날은 9월 29일이군요.

야마다: 추석은 뭘 하는 날입니까?

김 영희: 음력 8월 15일이 추석인데, 우리 나라에서는  
정월 초하루와 함께 가장 크게 치는 명절이에요.

야마다: 네, 주로 뭘 하며 지냅니까?

김 영희: 조상의 산소에 가서 성묘하는 날입니다.

야마다: 그러면 다들 고향에 갑니까?

김 영희: 산소 있는 데로 가야 되지요.

시골에 가는 사람도 있고, 시골에서  
올라 오는 사람도 있습니다.

야마다: 교통도 아주 복잡해지겠군요.

김 영희: 네, 기차도 버스도, 그리고 비행기 예매표도 다 팔립니다.  
추석 대목에는 해마다 어디나 붐빉니다.

야마다: 추석 날에는 성묘만 합니까?

김 영희: 추석은 원래 가을 추수를 감사하는 날이지요.

그 날은 햅쌀로 밥을 짓고, 송편을 빚어 차례를 지냅니다.

34. 2. 参考文例: 대목《正月や秋夕を間近にした大事な時期》

— 附: 고비《最もきびしく困難な時期》と한창《そのものの最盛期》 —

- (1) 추석 대목에는 누구나 바쁩니다.
- (2) 설 대목에는 물가가 좀 오릅니다.
- (3) a. 그 환자는 지금 가장 위험한 고비에 들어 섰습니다.  
b. 더위도 지금 한창 고비입니다.  
c. 병세는 이제 겨우 한 고비 넘었습니다.  
d. 농촌에서는 지금 모내기가 한창입니다.  
e. 애들이 공원에서 한창 노는 중입니다.

34. 3. 練習文例：-(으)는 만하다 《する値うちがある，するに十分である》

- |                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| (1) 부산 근처에도 볼 만한 곳이 많지요.          | 〈보다〉  |
| (2) 이 근처에 실 만한 공원이 없습니까?          | 〈취다〉  |
| (3) 그 사람에게는 아들을 유학 보낼 만한 재력이 있어요. | 〈보내다〉 |
| (4) 특매장에서 맬 만한 넥타이를 사셨습니까?        | 〈매다〉  |
| (5) 이 번에 발표한 소설은 읽을 만합니다.         | 〈읽다〉  |
| (6) 전 번에 쓴 수필은 읽을 만한 것이 못 됩니다.    | 〈읽다〉  |
| (7) 이 번에 온 영화는 볼 만한 게 못 됩니다.      | 〈보다〉  |

34. 4. 練習文例：疑問を表わす活用形：

- |               |                |
|---------------|----------------|
| A. -(으)냐, -느냐 | B. -(으)는가, -는가 |
| C. -니         | D. -나          |

A. -(으)냐 (形容詞現在), -느냐 (動詞など)：

—— 事實としてどうなのかをたずねる疑問形 ——

- |                            |           |
|----------------------------|-----------|
| (1) 영호야, 학교 공부하는 어떠냐?      | 〈어떻다〉     |
| (2) 감기가 들어 학교를 쉬는 학생이 많으냐? | 〈많다〉      |
| (3) 아직 3시 반인데 벌써 배가 고프냐?   | 〈고프다〉     |
| (4) 어디가 아프냐? 말해 봐라.        | 〈아프다〉     |
| (5) 방이 좀 좁지 않으냐?           | 〈좁지 않다〉   |
| (6) 이 건 누가 찍은 사진이냐?        | 〈-이다〉     |
| (7) 밤중에 어디로 나가느냐?          | 〈나가다〉     |
| (8) 뭘 그렇게 좋아 하느냐?          | 〈하다〉      |
| (9) 뭐 때문에 그렇게 우느냐?         | 〈울다〉      |
| (10) 누구한테 전화 거느냐?          | 〈걸다〉      |
| (11) 뭘 그렇게 서두르느냐?          | 〈서두르다〉    |
| (12) 왜 이렇게 일찍 일어 나느냐?      | 〈일어 나다〉   |
| (13) 밤 늦게까지 뭘 찾느냐?         | 〈찾다〉      |
| (14) 밤 새도록 무슨 책을 읽느냐?      | 〈읽다〉      |
| (15) 너, 지금 뭘 깔고 앉느냐?       | 〈앉다〉      |
| (16) 잠자리에 누워야지, 어디 눕느냐?    | 〈눕다〉      |
| (17) 어느 사이에 파마하고 왔느냐?      | 〈오다, 왔다〉  |
| (18) 언제 머리 깎으러 가겠느냐?       | 〈가다, 가겠다〉 |
| (19) 술을 그렇게 많이 먹었느냐?       | 〈먹다, 먹었다〉 |
| (20) 선생님께는 뭘 여쭙어 봤느냐?      | 〈보다, 봤다〉  |

B. -(으)ㄴ가 (形容詞現在), -는가 (動詞など) :

—— 事實はそうなのか, という意味の疑問を表わす疑問形 ——

- (1) 제주도는 겨울에도 그렇게 따뜻한가? <따뜻하다>
- (2) 이 작은 소포가 그렇게 무거운가? <무겁다>
- (3) 더 가볍지 않은가? 다시 한 번 달아 보라. <않다>
- (4) 선생님은 과연 내일 참석하시는가? <하다, 하시다>
- (5) 김 선생은 미국에서 벌써 돌아 오셨는가? <오다, 오시다, 오셨다>
- (6) 편지는 그저께 부쳤는데 벌써 닿았는가? <닿다, 닿았다>

C. -니 : —— 直接的な質問形 ——

- (1) 오늘은 왜 일찍 문 닫니? <닫다>
- (2) 비가 오는데 창문은 닫았니? <닫다, 닫았다>
- (3) 일요일도 아닌데 왜 문을 안 여니? <열다>
- (4) 더운데 왜 여기만 창문을 안 열었니? <열다, 열었다>
- (5) 남 모르게 이런 곳에서 뭘 하니? <하다>
- (6) 선생님께 답장은 언제 쓰니? <쓰다>
- (7) 불 끄고 잤었니? <자다, 잤다, 잤었다>

D. -나 :

—— 浮んだ疑念や懸念していることをそのまま表わす疑問形 ——

- (1) 그 분은 연세가 얼마쯤 되시나요? <되다, 되시다>
- (2) 요새 어떤 작업을 하시나요? <하다, 하시다>
- (3) 혼자 도회지에 살아서 고생하지 않나 걱정이 됩니다. <않다>
- (4) 아버지는 늦게 들어 오시나? <오다, 오시다>
- (5) 그렇게 예쁜 저고리 누가 입나 했는데 어머니가 입으세요? <입다>
- (6) 여기 있는 서류를 내가 혼자서 다 정리해야 되나? <되다>
- (7) 누가 내 신을 신고 갔나? <가다, 갔다>

34. 5. 活用練習 —— 不規則活用 : ② 하다系 變格

語幹 :

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

하- 《する》

- |         |                 |          |
|---------|-----------------|----------|
| a. 하다   | b. 한다           | c. 하는군요  |
| d. 합니다  | e. 하였습니다 (했습니다) | f. 하겠습니까 |
| g. 하십니다 | h. 하여서 (해서)     | i. 하니까   |
| j. 하면   | k. 한            | l. 하는    |

語例：

(하다との合成動詞, 合形成容詞など多數)

[動] 공부하다 《勉強する》, など

[形] 따뜻하다 《暖かい》, など.

[参考] 되다 《(に)なる》 : 되었습니다 (됐습니다), 되어서 (돼서).

第35課 추석 날에는 어떻게 지냅니까?

35. 1. 對話:

- 야마다: 김 영희씨도 추석 날에는 성묘 갔다 오시겠군요.  
 김 영희: 네, 해마다 가족하고 아침나절에 다녀 옵니다.  
 야마다: 산소는 가깝습니까?  
 김 인수: 네, 차로 가면 얼마 안 걸립니다.  
 야마다: 서울에는 지방에서 올라 온 분이 많다고 하지요?  
 김 영희: 서울 토백이는 10분의 일 정도도 안 될 겁니다.  
 그래서 시내는 딱 조용해지지요.  
 야마다: 사람이 줄어서 조용해진다는 말씀이에요?  
 김 영희: 네, 그리고 그 때는 차도 별로 많지 않지요.  
 길거리에는 차마 저고리 입은 여자들이 눈에 띕니다.  
 야마다: 추석 날에는 어떻게 지냅니까?  
 김 영희: 큰집에 일가 친척들이 모여서 떠들썩하게 지냅니다.  
 또 저녁에는 보름달 달맞이를 합니다.  
 야마다: 즐겁게 지내시는군요.  
 김 영희: 또, 여러가지 민속놀이도 벌어집니다.  
 야마다: 어떤 행사가 있어요?  
 김 영희: 활쏘기도 하고 씨름 대회도 열립니다. 그리고, 지방마다  
 특색 있는 민속놀이도 합니다.

35. 2. 練習文例 —— 引用文末尾の活用形 ①:

- A. 終止形表現の場合      B. 疑問形表現 -냐, -느냐 (는) の場合  
 C. 疑問形表現 -나 の場合      D. 伝聞の内容をいう形

A. 終止形表現の場合——

- (1) 사람이 줄어서 길거리가 조용해진다는  
 말씀이에요?      <조용해진다(고) 하는>  
 (2) 박 선생한테서 전화가 왔는데 이제부터  
 찾아 오신다는 말씀이던데요.      <찾아 오신다(고) 하는>  
 (3) 아까 전화 연락이 있었는데, 오늘은 바빠서  
 못 온다는 말씀입니다.      <못 온다(고) 하는>  
 (4) 김 선생님께서 상을 타신다는 말이  
 있는데 정말이에요?      <타신다(고) 하는>



- (5) 이 번에 백화점이 하나 또 새로  
문을 연다는 소문을 들으셨어요? <연다(고) 하는>
- (6) 내일은 이 백화점도 문을  
닫는다는 안내문이 붙어 있습니다. <닫는다(고) 하는>
- (7) 며칠 전에 소포로 부쳤다는 편지가 왔는데요. <부쳤다(고) 하는>
- (8) 작년에는 예년보다 일찍 얼음이  
얼었다는 보도가 신문에 났습니다. <얼었다(고) 하는>
- (9) 내가 알고 있다는 말씀이에요? 난 모릅니다. 정말이에요.
- (10) 지금은 일년 중에서 가장 덥다는 8월입니다. <덥다(고) 하는>
- (11) 여기는 국내에서 경치가  
가장 좋다는 관광지입니다. <좋다(고) 하는>
- (12) 파도가 세다는 말씀이군요. <세다(고) 하는>
- (13) 그러면 저기 보이는 양지라는 다방에서  
기다리겠습니다. <(-이다, 입니다) = -(이)라(고) 하는>
- (14) 박 영철이라는 대학생을  
아십니까? <(-이다, 입니다) = -(이)라(고) 하는>
- (15) 어떤 사람이 이 수첩이 제 거라고 갖다  
주었습니다. <(-이다, 입니다) = -(이)라(고) 하고는>

B. 疑問形表現—— -냐 (는), (-았/었-, -겠-) -느냐 (는) の場合——

- (1) 며칠 전에 부친 편지를 아직도 안 봤느냐고 야단치셨어요.
- (2) 선생님이 영순이를 언제 만났느냐고 물으시던데 저도 요즈음  
통 못 만나 봤어요.
- (3) 어떤 책을 읽으면 되냐는 (되느냐는) 질문인데 뭐라고 대답해야  
됩니까?
- (4) 김 선생님한테서 내일 몇 시 경에 오시겠느냐는 전화가 있었어요.
- (5) 어떤 책을 보고 싶는데 갖고 있는 사람 누구 없느냐고 물으셨습니다.
- (6) 누가 알고 있느냐는 말씀이세요?
- (7) 그 사람한테 가서 누구를 찾느냐고 물어 보세요.
- (8) 어떤 사람이 이 사전이 네 거냐고 하면서 갖다 주었어요.

C. 疑問形表現—— (-았/었-, -겠-) -나 (는) の場合 ——

- (1) 혼자 도회지에 나가 살아서 고생하지 않나 걱정이 됩니다. <않다>
- (2) 그렇게 예쁜 저고리 누가 입나 했는데 어머니가 입으세요? <입다>

D. 伝聞の内容をいう形 ——

- (1) a. 홍 선생은 내일 외국으로 떠나신답니다. <떠나신다(고) 합니다>  
b. 홍 선생은 내일 외국으로 떠나신대요. <떠나신다(고) 해요>

- (2) a. 그 가게는 아침 10시에 문을 연답니다. <연다(고) 합니다>  
 b. 그 가게는 아침 10시에 문을 연대요. <연다(고) 해요>
- (3) a. 오후 5시에는 문을 닫는답니다. <닫는다(고) 합니다>  
 b. 오후 5시에는 문을 닫는대요. <닫는다(고) 해요>
- (4) a. 아버지는 식사를 이따가 잡수시겠답니다. <잡수시겠다(고) 합니다>  
 b. 아버지는 식사를 이따가 잡수시겠대요. <잡수시겠다(고) 해요>
- (5) a. 그 사람은 술이 세답니다. <세다(고) 합니다>  
 b. 그 사람은 술이 세대요. <세다(고) 해요>
- (6) a. 소문에 의하면 그 가게는 번창하답니다. <번창하다(고) 합니다>  
 b. 소문에 의하면 그 가게는 번창하대요. <번창하다(고) 해요>
- (7) a. 요다음에는 시간 여유를 두고 오겠답니다. <오겠다(고) 합니다>  
 b. 요다음에는 시간 여유를 두고 오겠대요. <오겠다(고) 해요>

### 35. 3. 活用練習——不規則活用：③ ㄷ 變格

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連體形 -(으)ㄴ   | l. 連體形 -는     |

듣 《聞く》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 듣다    | b. 듣는다   | c. 듣는군요  |
| d. 들었습니다 | e. 들었습니다 | f. 들겠습니다 |
| g. 들으십니다 | h. 들어서   | i. 들으니까  |
| j. 들으면   | k. 들은    | l. 듣는    |

語例：

[動] 묻다 《問う》 신다 《積みこむ》 깨닫다 《悟る》 일컫다 《称える》  
 (規則活用：子音語幹①(ㄷ語幹)と比較せよ)

第36課 박 대철 선생님 댁이시지요?

36. 1. 對話:

야마다: 여보세요, 박 대철 선생님 댁이시지요?

부인: 네, 그렇습니다. 어디십니까?

야마다: 저, 야마다라고 하는데요, 박 대철 선생님 계십니까?

부인: 네, 계십니다. 잠깐 기다리세요.

\*\*\* \*\*

박 대철: 여보세요, 전화 바꿨습니다.

야마다: 안녕하세요? 야마다입니다.

박 대철: 아 네, 야마다 선생님이세요?

오래간만입니다. 그 동안 안녕하셨습니까?

야마다: 덕분에 잘 있었습니다. 요즘 사업은 잘 되십니까?  
한 번 뵙고 싶은데요.

박 대철: 네, 그러시다면 내일 저희 사무실로 오세요.

야마다: 바쁘신데 죄송합니다. 몇 시경에 가면 되겠습니까?

박 대철: 글썄요, 점심이나 같이 하실까요?

야마다: 네, 좋습니다. 그럼 12 시경에 사무실에 들르겠습니다.

박 대철: 그럼 내일 뵙겠습니다.

36. 2. 電話番号の言い方:

(1) 2백 7십 6국의 4천 5십 8번입니다.

a. 470국의 8531번.

b. 107국의 6761번.

c. 263국의 1111번.

d. 433국의 2822번.

(2) 2, 7, 6의 4, 0, 5, 8입니다.

a. 470의 8531.

b. 342의 4989.

c. 426의 8949.

d. 263의 1111.

e. 263의 하나, 하나, 하나, 하나.

(3) 263의 하나가 넷.

그러니까, 다시 말해서 263국의 하나가 넷.

36. 3. 練習文例： 住所と電話番号についての問答

A. (1) a. 김 선생님 댁 주소 아세요?

b. 김 선생님 주소 모르세요?

c. 김 선생님 댁이 어디지요?

(2) a. 잘 모르겠는데요.

b. 글썄요, 아직 못 들었는데요.

c. 회사 주소는 알 수가 있는데요.

d. 모르겠는데요, 나중에 알아 보지요.

e. 나중에 알아 봐서 알려 드리겠습니다.

B. (1) a. 김 선생님 전화 번호 아세요?

b. 김 선생님 전화가 몇 번이지요?

c. 전화 번호가 몇 번이지요?

(2) a. 주소록을 찾아 보지요. 잠깐 기다리세요.

b. 회사에 걸어서 문의해 보세요.

c. 모르겠는데요, 아는 사람한테 알아 보지요.

d. 전화 번호부를 찾아 보지요.

e. 누군가 아시는 분이 안 계실까요?

f. 누군가 짐작이 가시는 분이 없으십니까?

(3) a. 여기 있습니다. 어디 적으시겠어요?

b. 전화 번호 불러 드리겠으니까 적을 것 준비하세요.

c. 전화 번호 부를 테니까 어디다 적으세요.

d. 전화 번호를 말씀드리겠습니다. 메모는 준비되셨는지요?

e. 전화 번호를 말씀드릴 테니까 적으세요.

(4) a. 김 선생님 전화는 276국의 4058번입니다.

b. 전화 번호는 276국의 4058입니다.

c. 전화 번호는 2, 7, 6의 4, 0, 5, 8입니다.

(5) a. 몇 번이라 하셨지요? 다시 한 번 말씀해 주십시오.

b. 네? 몇 번이지요? 좀 천천히 다시 말씀해 주십시오.

c. 잘 못 들었는데요, 다시 한 번 말씀해 주시겠습니까?

d. 잘 안 들리는데요, 큰 소리로 다시 한 번 말씀해 주십시오.

36. 4. 練習文例： 電話の受け答えの言葉

- (1) 여보세요, 김 인수 선생님 댁이시지요?
  - a. 네, 그렇습니다. 실례지만 어디십니까?
  - b. 네, 그렇습니다. 실례지만 성함이 어떻게 되십니까?
  - c. 아닙니다. 전화 잘 못 거셨어요.
  - d. 아닙니다. 몇 번에 거셨어요?
- (2) 거기는 326국의 5031번이 아닙니까?
  - a. 아닙니다. 번호가 틀리는데요.
  - b. 네, 번호는 맞는데요. 누구를 찾으세요?
- (3) 거기 김 인수씨라는 분 안 계십니까?
  - a. 네, 계시는데요, 전화 바꾸어 드리겠습니다.
  - b. 네, 전화 바꿔 드리겠습니다. 잠깐만 기다리세요.
  - c. 우리 집에는 그런 분이 안 계시는데요.  
번호를 다시 알아 보세요. —— 네, 미안합니다.
- (4) a. 여보세요, 거기가 신당동이지요?  
b. 네, 그런데요. 실례지만 어디세요?
- (5) a. 여보세요, 연철이네 집이에요? 연철이 있어요?  
b. 여보세요, 연철이네 집이에요? 아주머니 계세요?

36. 5. 練習文例： 電話にかかわる言い方

- (1) a. 이 전화는 어떻게 겁니다?  
b. 시내니까, 그냥 하나 하나 돌리시면 됩니다.  
c. 시내니까, 그냥 하나 하나 누르시면 됩니다.
- (2) a. 호텔에서라도 밖으로 전화할 수 있지요?  
b. 물론입니다. 먼저 몇 번을 돌리는지 교환을 불러서 알아 보세요.
- (3) a. 교환이에요? 외부로 전화하고 싶은데요.  
b. 번호를 말씀하세요. 대어 드리겠습니다.
- (4) a. 외부로 전화하고 싶은데 먼저 몇 번을 돌리지요?  
b. 9번을 돌리시고, 다음에 번호를 그냥 돌리시면 됩니다.
- (5) a. 교환이에요? 시외 전화 부탁해요.  
b. 이 전화로 직접 시외 전화 할 수 있어요?  
c. 장거리 전화는 자동으로 하실 수 있습니다.  
d. 국제 전화는 우리가 대어 드립니다.  
e. 여기서 대어 드릴 테니까 전화번호를 말씀하세요.

- (6) a. 시외 통화인데요, 수원, 367국의 4989번을 대어 주세요.  
b. 알겠습니다. 수화기를 놓고 기다리세요.  
c. 그러면 끊고 기다리지요.
- (7) a. 장거리 전화인데, 서울, 307국의 5078 부탁드립니다.  
b. 알겠습니다. 끊고 기다리세요.
- (8) a. 여보세요. 교환입니다. 어느 분을 대어 드릴까요?  
b. 박 대철 선생님을 대어 주세요.  
c. 어디십니까? 네, 잠깐 기다리세요. 말씀하세요.  
d. 잠깐 기다리세요. 말씀 나누세요.  
e. 지금 통화중인데요. 기다리시겠습니까?  
f. 안 받으십니다. 신호는 가는데 방에는 안 계신가 본데요.

第37課 매운 것을 좋아 하세요?

37. 1. 對話:

박 대철 : 자, 나가서 식사하실까요?  
야마다 : 네, 이 근처에 잘 하는 음식점이 있나요?  
박 대철 : 있습니다. 설렁탕으로 하시겠습니까?  
짜장면으로 하시겠습니까?  
야마다 : 설렁탕으로 하지요  
박 대철 : 그럼 안내해 드리지요.

\*\*\*

\*\*\*

박 대철 : 식당이 여기 있는데, 맥주 한 잔 하시겠습니까?  
야마다 : 저는 괜찮습니다. 설렁탕만 한 그릇 먹겠습니다.  
박 대철 : 이 집은 불고기가 맛이 있다는 소문이에요.  
야마다 : 다음에 와서 먹어 보지요.  
박 대철 : 저도 설렁탕으로 하겠습니다.  
매운 것을 좋아 하세요?  
야마다 : 좋아 합니다. 김치도 잘 먹어요.  
박 대철 : 그럼 시키지요. 여보세요, 여기 설렁탕 들, 그리고  
각두기 하나 더 주세요.

\*\*\*

\*\*\*

박 대철 : 자, 드십시오.  
설렁탕은 간을 맞추어 드셔야 합니다.  
각두기도 국에 넣어서 잡수어 보세요.  
야마다 : 네, 참 맛이 있습니다.  
박 대철 : 많이 드십시오.

37. 2. 練習文例 : 좋아 하다 《好きだ》, 싫어 하다 《嫌いだ》

- (1) a. 매운 것을 좋아 하세요?  
b. 네, 좋아 합니다.

- (2) a. 매운 것은 싫어 하세요?  
b. 아뇨, 좋아 합니다. 김치도 잘 먹어요.
- (3) a. 맥주 좋아 하세요?  
b. 술이라면 뭐든지 좋아 합니다.
- (4) a. 소주는 싫어 하십니까?  
b. 아뇨, 좋아 해요.  
c. 정종을 더 좋아 하시지요?  
d. 정종이면 더욱 좋습니다.
- (5) a. 축구보다 야구를 좋아 하세요?  
b. 아뇨, 나는 야구보다 축구를 더 좋아 합니다.

37.3. 練習文例: -게 《結果としてそうなるように》

- (1) 추석 날에는 어떻게 지냅니까?
- (2) 일가 친척들이 모여서 떠들썩하게 지냅니다.
- (3) 머리는 좀 짧게 깎아 주세요.
- (4) 파마는 굵게 해 주세요.
- (5) 너무 머리를 곱슬곱슬하게 하지 마세요.
- (6) 국물이 식었는데 뜨겁게 해 주세요.
- (7) 할머니가 주무신다. 시끄럽게 떠들지 말아라.
- (8) 서울에서는 그 분하고 친하게 사귀었습니다.
- (9) 덕분에 일을 쉽게 끝낼 수가 있었습니다.
- (10) 아버지는 늦게 들어 오세요?
- (11) 할아버지는 고향에서 건강하게 살고 계십니다.
- (12) 역사에 관심을 갖게 됐습니다.
- (13) 아무도 모르게 회의실에서 빠져 나 왔습니다.
- (14) 복잡한 사정은 차차 아시게 될 겁니다.
- (15) 그 영화는 재미나게 보았습니다.
- (16) 스스로 사전을 찾게 되면 공부에도 재미가 나겠는데요.
- (17) 우리들이 모두 잘 알아 듣게 좀 더 큰 소리로 말씀하세요.
- (18) 여기서의 춤을 못 추게 합니다.
- (19) 그 학생에게는 좀 더 책을 읽게 하십시오.
- (20) 환자가 침대에 가만히 누워 있게 보살펴 주세요.
- (21) 귀중품을 도난 당하지 않게 조심하세요.
- (22) 돈을 빼앗기지 않게 주의하셔야 됩니다.



37. 4. 練習文例： 意図する行動を表す活用形 -의려, -의ㄴ려 (口語形)

- (1) 부탁받은 물건을 사려고 (살려고) 시장으로 갔습니다.
- (2) 그 책은 읽으려고 사 놓았는데 아직 못 읽었습니다.
- (3) 문을 열려고 했는데 빗장이 벗겨지지 않습니다.
- (4) 회사 가까운 데 살려고 셋집을 구하고 있대요.
- (5) 문을 닫으려고 하는데 꼭 끼여져서 닫혀지지 않습니다.
- (6) 냉면을 먹으려고 왔는데 문이 닫혀 있습니다.
- (7) 그 사람은 나를 만나려 하지 않습니다.
- (8) 오래간만에 뵈우려 했는데 안 계셨습니다.
- (9) 비행장에는 외국에서 돌아 온 선수단을 환영하려고 많은 사람들이 나 왔습니다.
- (10) 언제쯤 출발하시렵니까 (하시려고 합니까) ?
- (11) 내일 떠나시려고요?
- (12) 미국에 유학가려고 신청을 했습니다.
- (13) 허가 받으시려는 서류는 어디에 내놓으셨지요?
- (14) 선생님께 인사 드리려 합니다.

37. 5. 練習文例： -의ㄴ래 《そのつもりである》を示す意志形

- |                          |           |
|--------------------------|-----------|
| (1) 난 여기서 잠깐 쉬었다가 갈래요.   | (가다)      |
| (2) 다음에는 몇 년 후에 오실래요?    | (오다, 오시다) |
| (3) 난 오늘 목욕탕에는 안 갈래요.    | (가다)      |
| (4) 다음에는 무슨 책을 읽을래?      | (읽다)      |
| (5) 지금 전화 걸래? 이따가 걸래?    | (걸다)      |
| (6) 여기서 기념 사진을 몇 장 찍을래요. | (찍다)      |
| (7) 축구 시합 중계 방송 안 볼래?    | (보다)      |

37. 6. 活用練習——不規則活用：④ 人 變格

語幹：

- |            |                |             |
|------------|----------------|-------------|
| a. 原形      | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在    |
| d. 丁寧形現在   | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」  |
| g. 尊敬(現在)  | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -의니까 |
| j. 假定形 -의면 | k. 連体形 -의ㄴ     | l. 連体形 -는   |

짓- 《つくる》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. 짓다    | b. 짓는다   | c. 짓는군요  |
| d. 짓습니다  | e. 지었습니다 | f. 짓겠습니다 |
| g. 지으십니다 | h. 지어서   | i. 지으니까  |
| j. 지으면   | k. 지은    | l. 짓는    |

語例：

[動] 낫다 《癒る》；

      짓다 《かきまぜる》    잇다 《つなぐ》    긋다 《線を画く》

[形] 낫다 《(より)よい》

(規則活用：子音語幹② (入語幹)と比較せよ)

第38課 아버지, 안녕히 주무셨습니까?

38. 1. 對話:

- 영호: 아버지, 안녕히 주무셨습니까?  
아버지: 그래, 잘 잤니?  
영호: 어머니도 안녕히 주무셨습니까?  
어머니: 영호냐? 오늘은 일찍 일어 났구나.  
세수 다 했니?  
영호: 다 했어요. 누나 불러 올까요?  
어머니: 누나는 곧 올 거야.  
영철 아버지, 식사하세요.  
아버지: 너희들도 어서 밥 먹어라.  
학교 갈 준비는 다 됐느냐?  
영호: 잘 먹었습니다.  
영순: 잘 먹었습니다. 어머니, 제 도시락 주세요.  
아버지: 영철이는 아직 안 먹었지?  
어머니: 오늘은 아침 강의가 휴강이라고 늦게 나 갈 모양이에요.  
영순·영호: 아버지, 어머니, 학교에 다녀 오겠습니다.  
아버지: 잘들 다녀 오너라. 자, 나도 슬슬 나가 볼까?  
어머니: 여보, 오늘 일찍 들어 오시나요?  
아버지: 회의가 있으니까 좀 늦어질 것 같군.

38. 2. 練習文例: 次の状況へと導く事実, 行為を表す活用形: -(으)니, -(으)니까  
《~だから, ~するから; ~であると, ~してみると》

- (1) 회의가 있으니까 늦어질 것 같군.
- (2) 비가 오니까 우산을 가지고 가세요.
- (3) 창문을 여니까 시원한 바람이 들어 오는데요.
- (4) 10년만에 만나니까 몰라 보겠더군.
- (5) 시간이 나는 대로 가겠으니(까) 며칠만 더 기다려라.
- (6) 시간이 얼마 없으니(까) 빨리 일을 끝내야지요.

38. 3. 家族, 親戚, あるいは親近者相互の呼び方

(1) こどもや目下の者はその名前で呼ぶ.

- |    |       |   |     |     |     |     |
|----|-------|---|-----|-----|-----|-----|
| a. | 名前    | : | 영철  | 영순  | 영호  | 영희  |
| b. | 親近感表現 | : | 영철이 | 영순이 | 영호  | 영희  |
| c. | 呼びかけ  | : | 영철아 | 영순아 | 영호야 | 영희야 |

(2) 一家の主人・主婦などの呼び方.

最初に生まれたこどもの名前に続けて, 아버지《父親》(または아빠《父親をいう幼児語》), あるいは어머니《母親》(または엄마《母親をいう幼児語》)をつけて呼ぶ. この場合, そのこどもの兄弟(姉妹)で共通にもっている世代の字(항렬자: 行列字)があればその字の音は省略してもよい.

- |    |        |        |
|----|--------|--------|
| a. | 영철 아버지 | 영철 어머니 |
| b. | 철이 아빠  | 철이 엄마  |

なお, 아빠, 엄마は, 本来幼児語だが, 親しい間柄では大人どうしでもつかわれる.

(3) 親族の「おじ」「おば(父親の兄弟の妻)」は 아버지, 어머니 で, 長兄の場合「큰 아버지, 큰 어머니」といい他は「작은 아버지, 작은 어머니」で, 詳しく言うには順番を付けて区別したりするが, この言い方は既婚の場合に限られ, 未婚の「おじ」は「삼촌」(〔三寸〕《三親等》の意)とよぶ. 母方の「おじ」は「외삼촌」(《外戚の三親等》)である. 「おば」は既婚・未婚を問わず「고모」(〔姑母〕《父親の姉妹》), 「이모」(〔姨母〕《母親の姉妹》)とよぶ.

同じ呼称でよばれるものが複数在って区別するには, 큰《上の》, 작은《下の》, 막내《末の》, 꼬마《小さな》など, あるいは順番を示す数詞を, 冠して区別するという.

- |    |       |       |       |
|----|-------|-------|-------|
| a. | 큰 삼촌  | 큰 고모  | 큰 이모  |
| b. | 작은 삼촌 | 작은 고모 | 작은 이모 |
| c. | 막내 삼촌 | 막내 고모 | 막내 이모 |
| d. | 셋째 삼촌 | 셋째 고모 | 셋째 이모 |

(4) 親族で, おじやおば, 大おじや大おばなど, 別の場所に住む者をいう場合には, その場所の名前に続けて, 큰아버지(または작은아버지)《父親の兄弟》や, 큰어머니(または작은어머니)《父親の兄弟の妻》をつけていうことが多い. 할아버지《祖父の兄弟》や할머니《祖父の兄弟の妻》の場合もこれに準じて場所の名前に続けていう.

- |    |           |          |
|----|-----------|----------|
| a. | 동대문 작은아버지 | 동대문 큰어머니 |
| b. | 신촌 할아버지   | 신촌 할머니   |
| c. | 한남동 아저씨   | 한남동 아주머니 |

38. 4. あいさつのことば ㉓ : 年長者と少年少女・若者との場合

- (1) a. 아버지, 안녕히 주무셨습니까?  
 --- 그래, 잘 잤니?  
 b. 아버지, 안녕히 주무셨습니까?  
 --- 그래, 푹 잤니?  
 c. 아버지, 안녕히 주무셨습니까?  
 --- 그래, 벌써 일어 났구나. 푹 잤니?  
 d. 선생님, 안녕히 주무셨습니까?  
 --- 그래, 잘 잤어?  
 e. 선생님, 안녕히 주무셨습니까?  
 --- 그래, 잘 잤어요?
- (2) a. 아버지, 안녕히 주무십시오.  
 --- 그래, 잘 자거라.  
 b. 선생님, 안녕히 주무십시오.  
 --- 그래, 잘 자.  
 c. 선생님, 안녕히 주무십시오.  
 --- 잘 자요.
- (3) a. 아버지 어머니, 학교에 다녀 오겠습니다.  
 --- 잘들 다녀 오너라.  
 b. 아버지 어머니, 학교에 다녀 오겠습니다.  
 --- 조심해 다녀 오너라.  
 c. 아버지 어머니, 학교에 다녀 오겠습니다.  
 --- 빨리 들어 오너라.  
 d. 아버지 어머니, 학교에 다녀 오겠습니다.  
 --- 한눈 팔지 말고 곧장 들어 오너라.  
 e. 선생님, 저희 수학 여행 다녀 오겠습니다.  
 --- 그래, 잘 다녀들 와요.  
 f. 선생님, 저희 수학 여행 다녀 오겠습니다.  
 --- 그래, 구경들 많이 하고 와요.
- (4) 안녕히 다녀 오십시오.  
 a. --- 그래, 다녀 올께, 싸우지들 말고 잘 있거라.  
 b. --- 응, 그럼 잘들 있어요.  
 c. --- 응, 그럼 가요.  
 d. --- 그래, 공부 열심히들 하고 잘 지내.
- (5) 할아버지, 안녕히 다녀 오십시오.  
 --- 응, 곧 다녀 오마.

- (6) 안녕히 다녀 오셨습니까?  
 a. --- 그래, 너희들도 잘 있었지?  
 b. --- 네, 잘 다녀 왔어요. 잘들 있었어요?  
 c. --- 그래, 잘들 있었니?
- (7) a. 다녀 왔습니다.  
 --- 잘 다녀들 왔어?  
 b. 다녀 왔습니다.  
 --- 구경들 많이 했니?  
 c. 다녀 왔습니다. 다들 안녕하시더군요.  
 --- 그래? 다 잘들 있었어?  
 d. 저녁 잠수셨습니까?  
 --- 잘 왔어. 이리 들어 오너라.  
 e. 저녁 드셨습니까?  
 --- 어서 오세요. 다들 기다렸어요.
- (8) 친지 잠수십시오.  
 --- 곧 가마.
- (9) a. 어서 잠수십시오.  
 --- 그럼 들겠습니다.  
 b. 어서 잠수십시오.  
 --- 그럼 먹겠어요.  
 c. 어서 드십시오.  
 --- 잘 먹겠습니다.
- (10) 저녁 잠수셨습니까?  
 a. --- 그래, 먹었다.  
 b. --- 응, 나는 먹었는데 . . . . .  
 c. --- 지금 먹으려고 그래.
- (11) a. 어서 밥 먹어라.  
 --- 네, 금방 갈께요.  
 b. 어서 밥 먹어라.  
 --- 저는 아직 배 고프지 않습니다.  
 c. 어서 밥 먹어라.  
 --- 전 벌써 먹었습니다.  
 d. 어서 먹어라.  
 --- 네, 그럼 들겠습니다.  
 e. 어서 들거라.  
 --- 잘 먹겠습니다.  
 f. 식기 전에 어서 들게.  
 --- 네, 그럼 들겠습니다.

- (12) 안녕하십니까?
- a. --- 응, 잘 있었니?
  - b. --- 그래, 잘 있었어요?
  - c. --- 그래, 잘 지냈어요?
- (13) 오랫동안 찾아 뵙지 못 했습니다. 그 동안 안녕하셨습니까?
- a. --- 그래, 오래간만이네. 잘 있었나?
  - b. --- 응 오래간만인데... 별고 없었나?
  - c. --- 그래, 오랫동안이군. 잘 지냈나?
- (14) 안녕히 계십시오. 몸 조리 잘 하십시오.
- a. --- 응, 고맙다. 너희들도 잘 가거라.
  - b. --- 그래, 잘 가요.
- (15) 안녕히 가십시오.
- a. --- 응, 잘 있거라. 공부 열심히 해라.
  - b. --- 그래, 잘 있어요. 공부도 열심히 해요.
  - c. --- 부모님 말씀 잘 들어라.

第39課 장 좀 보고 오는 길이에요.

39. 1. 對 話 :

생선 가게 주인 : 어서 오세요. 오늘은 생선이 물이 좋습니다.  
어머니 : 이 조기 한 마리 얼마예요. ?  
가게 주인 : 천 원에 여섯 마리 가져 가세요.  
어머니 : 너무 비싼데요. 좀 싸게 해 주세요.  
가게 주인 : 비싸지는 않은데요. 그럼, 덤으로 한 마리 더 드리겠습니다.  
어머니 : 그럼 그렇게 주세요. 돈 여기 있어요.  
가게 주인 : 아주머니는 잘 사시는 겁니다.  
찌개를 끓이면 맛이 있을 겁니다. 또 오세요.

\*\*\*

\*\*\*

어머니 : 아저씨, 콩나물 3백 원어치 주세요.  
채소 가게 주인 : 아주머니, 오늘은 시금치도 싸입니다.  
많이 드릴 테니까 사세요.  
어머니 : 그럼, 두 단만 주세요.  
동네 아주머니 : 영철 어머니, 어디 갔다 오세요?  
어머니 : 장 좀 보고 오는 길이에요.  
동네 아주머니 : 마침 잘 됐네요. 내일 낮에 저희 집에서 요리 강습이 있으니, 꼭 나오세요.  
어머니 : 네, 가겠어요.

39. 2. 助數詞 : 마리 《匹》, 단 《束》

- (1) 그 조기는 천 원에 여섯 마리 가져 가세요.  
(2) a. 생선 한 마리                      b. 소 열 마리  
c. 개 세 마리                            d. 강아지 다섯 마리  
e. 닭 네 마리                            f. 고양이 새끼 여섯 마리  
(3) 시금치 두 단만 주세요.  
a. 열무 한 단                            b. 미나리 석 단  
c. 파 두 단                                d. 장작 두 단



39. 3. その値段・価値の「品物」と「分量」： 一짜리 と 一어치  
 (注意： 一짜리はその額面の貨幣，切手などについてもいう)

- (1) 이 시계는 4만 원짜리입니다.
- (2) 그 시계는 얼마짜리지요?
- (3) 500원짜리 공책 2권 주십시오.
- (4) 400원짜리 담배 하나 주세요.
- (5) 다 나가서 지금 560원짜리밖에 없는데요.
- (6) 지금 잔돈이 없는데, 만원짜리 좀 거슬러 주세요.
- (7) 천 원짜리가 모자라서 거슬러 드릴 수가 없겠네요.
- (8) 거스름돈은 500원짜리나 100원짜리만으로 주셔도 괜찮은데요.
- (9) 어디 가서 만 원짜리를 천 원짜리로 헐어 오세요.
- (10) 콩나물 300원어치 주세요.
- (11) a. 멸치 500원어치                      b. 고추가루 5천 원어치  
       c. 계란 백 원어치                     d. 새우젓 400원어치
- (12) a. 우표 850원어치 주세요.  
       b. 500원짜리 우표 한 장 하고, 100원짜리 석 장,  
       그리고 50원짜리 한 장 드리지요.

39. 4. 練習文例： 次の状況へと導いた事実・行為を，思い返しつという活用形  
 -더니 《>思ったら，してみたところ》

- (1) 비가 오더니 좀 시원해졌습니다.
- (2) 날이 흐리더니 굉장히 무더워졌습니다.
- (3) 머리를 가웃하고 생각하더니 시험삼아 먹으라고 약을 주었습니다.
- (4) 문을 열었더니 그 사람이 와 있었습니다.
- (5) 차도로 걸어 갔더니 인도로 걸으라고 주의를 받았습니다.
- (6) 얼굴을 쳐다 보더니 겨우 기억 난 모양이었습니다.
- (7) 알아 봤더니 이사 간지가 벌써 3년이 된답니다.
- (8) 30분쯤 쉬었더니 기운이 나는 것 같습니다.
- (9) 이발소에 가 봤더니 손님이 하나도 없더라.
- (10) 이발소에서 머리 감았더니 아주 비싸게 받더라.
- (11) 선생님께 여쭙어 봤더니 내일이면 참석할 수 있다고 말씀하시더라.
- (12) 짐을 끌렀더니 속에서 손가락이 굴러 나 왔습니다.

39. 5. 練習文例： 위 《上》， 밑 《下》

- (1) 서류는 책상 위에 두세요.
- (2) 그 산봉우리는 구름 위에 솟아 있습니다.
- (3) 달이 벌써 산 위에 떠 올랐습니다.
- (4) 전망대 위에서 내려다 보는 경치가 참 좋더라.
- (5) 비행기 한 대가 하늘 위로 높이 날아 갑니다.
- (6) 나무 위에 피꼬리가 앉아서 울고 있습니다.
- (7) 지붕 위에서 기와가 떨어져서 다쳤다고 하는데요.
- (8) 위하고 밑을 거꾸로 놓지 마세요.
- (9) 계단 밑에서 올라 오는 사람과 스쳤습니다.
- (10) 그 가게 처마 밑에서 비를 피하다가 왔습니다.
- (11) 그 나무 밑에서 쉬었다가 가지요.
- (12) 그 봉투는 방석 밑에 깔려 있습니다.
- (13) 저는 박 대철 선생님 밑에서 일하고 있습니다.
- (14) 과장은 그 사람을 아래 위로 훑어 본 다음에 말했습니다.
- (15) 술잔 위로 술이 넘쳤습니다.

39. 6. 活用練習——不規則活用：㉔ ㅅ 變格

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連体形 -(으)ㄴ   | l. 連体形 -는     |

ㅅ- 《援助する》

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| a. ㅅ다    | b. ㅅ는다   | c. ㅅ는군요  |
| d. ㅅ습니다  | e. 도웠습니다 | f. ㅅ겠습니다 |
| g. 도우십니다 | h. 도우서   | i. 도우니까  |
| j. 도우면   | k. ㄴ     | l. ㅅ는    |

語例：

[動] ㅅ다 《拾う》 ㅅ다 《横になる》 ㅅ다 《焼く》；  
 ㅅ다 《繕う》

[形] ㅅ다 《寒い》 ㅅ다 《暑い》 ㅅ다 《憎い》 무ㅅ다 《重い》  
 ㅅ다 《美しい》 가ㅅ다 《近い》

(規則活用：子音語幹① (ㅅ語幹)と比較せよ)

第40課 영순아, 상 좀 차려라.

40. 1. 對話:

영호: 어머니, 다녀 왔습니다.  
어머니: 오늘은 좀 이르구나. 시험은 잘 봤니?  
영호: 국어 시험은 쉬웠는데, 수학이 어려웠어요.  
어머니: 배 고프겠다. 저녁 빨리 해 줄께.

\*\*\*

\*\*\*

어머니: 영순아, 상 좀 차려라.  
그리고 오빠하고 영호보고 이리 오라 그래.  
영철: 오늘 아버지는 늦으시나요?  
어머니: 그래. 우리끼리 먼저 먹자.  
영순: 엄마, 이 조기 찌개 아주 맛이 있는데요.  
영호: 나는 좀 싱거운데. 간장 좀 주세요.  
영철: 애, 잠자코 먹어. 어머니가 애써 만들어 주신 건데.  
영호: 형은 언제나 나만 야단쳐.

(따르릉 따르릉 . . .)

어머니: 영철아, 전화 받아라.  
영철: 여보세요. 네, 아버지 말씀입니까?  
지금 안 계신데요. 잠깐 기다리세요.  
어머니, 전화 좀 받아 보세요.  
어머니: 아 네, 안녕하셨어요?  
곧 들어 오실 텐데요. 네, 네, 말씀 전해 드리죠.

40. 2. 練習文例: 勸誘形 -자 《しよう》

- (1) 저녁은 우리끼리 먼저 먹자.
- (2) 쓰레기는 쓰레기 통에 버리자.
- (3) 여기에다 돛자리를 깔고 앉자.
- (4) 다음에는 더 재미 나는 책을 읽자.

- (5) 내일 아침 7시에 역 앞에서 만나자.
- (6) 모레 저녁 6시에 모두 모이자.
- (7) 바람이 들어 오게 문을 활짝 열자.

40. 3. 練習文例： 文末用言の -아 (어) [반말]

(前後のつながりの中からそれだけをとりだして簡単に言う活用形)

- (1) 야 (애), 잠자코 먹어.
- (2) 형은 (오빠는) 맨날 나만 야단쳐.
- (3) 그런 사람이 어디 있어.
- (4) 아침 일찍 학교 나 가서 뭘 해?
- (5) 여기 좀 봐.
- (6) 가만히 있어. 좀 생각해 보자.
- (7) a. 다 부쳤어. 가자.
- b. 좀 기다려. 아직 물어 볼 일이 있어.
- c. 뭘 물어 보니?
- d. 미국에 있는 누나한테 축전도 쳐야겠어.
- e. 미국으로 축전을 쳐?
- f. 응, 이 번에 누나가 시집가.
- g. 그래? 신랑이 미국 사람인가?
- h. 아냐, 미국에 사는 교포야.

40. 4. 練習文例： 食べ物に關係する用言――

- (1) a. 이 김치가 좀 싱겁지 않아요?
- b. 이 김치 좀 싱겁지 않으세요?
- c. 이 김치가 좀 싱거운 것 같지 않으세요?
- d. 이 김치가 좀 짜진 않아요?
- e. 이 김치가 너무 맵지 않아요?
- f. 이 김치가 좀 시지 않아요?
- (2) a. 싱거우면 소금을 좀 치세요.
- b. 예, 좀 싱거운 것 같군요.
- c. 제 입맛에는 딱 맞는데요.
- d. 시어진 김치는 물에 씻어서 기름을 둘러서 볶아 먹습니다.
- e. 신 김치는 김치 찌개를 끓여 먹습니다.

- (3) a. 국이 좀 짜지 않아요?  
 b. 그래요? 제게는 간이 맞는데요.  
 c. 너무 짜면 물을 타서 드세요.
- (4) a. 설렁탕은 간을 맞춰 드셔야 합니다.  
 b. 설렁탕은 간을 맞춰서 다대기를 넣어서 드셔야 합니다.
- (5) 밥과 국이 따로 따로 나오니까, 국에 밥을 말아서 잡수어 보세요.
- (6) 풋고추는 고추장에 찍어서 먹습니다.
- (7) 상추쌈은 상추에다 밥을 떠 놓고, 고추장을 넣어서 싸 먹습니다.
- (8) a. 동짓날에는 팔죽을 쑤어서 먹습니다.  
 b. 팔죽에는 자기 나잇수 만큼 새알을 넣어서 먹습니다.
- (9) a. 여느 때에는 매일 세 끼 다 밥을 지어 먹습니다.  
 b. 휴일에는 외식을 하기도 합니다.  
 c. 바쁠 때에는 라면을 끓여서 먹기도 하고, 때로는 끼니를 거르기도 합니다.
- (10) a. 점심 때에는 국수를 삶아서 먹는 집도 많습니다.  
 b. 점심 때에는 라면을 끓여서 먹는 집도 많습니다.  
 c. 점심 때에는 수제비를 끓여서 먹는 집도 있습니다.
- (11) a. 아침에는 빵을 구워서 버터나 잼을 발라서 먹습니다.  
 b. 아침에는 간단하게 빵을 구워서 우유와 함께 먹습니다.
- (12) a. 고구마는 찌 먹기도 하고, 구워 먹기도 합니다.  
 b. 고구마는 날로 먹기도 하고, 튀겨 먹기도 합니다.
- (13) a. 만두국을 끓여 놓았는데 잡수시겠어요?  
 b. 떡국을 끓여 놓았는데 드시겠어요?
- (14) 메주를 쑤어서 된장을 빻습니다.
- (15) 누룩을 쑤어서 술을 빻습니다.

40. 5. 練習文例: -(으)ㄴ 채 《したままで》

- (1) 어제 밤은 하도 더워서 창문을 열어 놓은 채 잤습니다.
- (2) 전등을 켜 놓은 채 잠 들었습니다.
- (3) 비를 맞아 젖은 채로 갔습니다.
- (4) 구두는 신은 채 올라 가십시오.
- (5) 서랍 속에 넣은 채 오랫동안 잊어 버렸습니다.
- (6) 누운 채 신문을 읽고 있습니다.

40. 6. 練習文例： 《予定のこと，当然そうなること》  
を表す (-의ㄴ) 테 (터)

- (1) 이 집일 텐데, 아무도 없습니다.
- (2) 같이 온 사람이 곧 올 테니 가까운 방을 비워 주십시오.
- (3) 선생님이 곧 오실 텐데 너는 놀러 가니?
- (4) 내일은 아버지가 돌아 오실 테니 직접 말씀드려 봐라.
- (5) 이맘때에는 예년이면 벼가 여물 시기일 텐데요.
- (6) 그 애가 살아 있으면 올해 스무 살이 됐을 텐데.

第41課 아버지, 안녕히 다녀 오셨습니까?

41. 1. 對話:

어머니: 애들아, 아버지 오셨다.  
애들: 아버지, 안녕히 다녀 오셨습니까?  
아버지: 그래. 저녁들은 다 먹었니?  
어머니: 네, 다들 먹었어요. 당신은요?  
아버지: 나도 먹고 왔소.

\*\*\*

\*\*\*

아버지: 영호야, 학교 공부는 어떠냐?  
어머니: 진학 지도 때문에 오늘 학교에 갔다 왔어요.  
선생님 말씀이 수학이 좀 약하대요.  
아버지: 서두르지 말고, 꾸준히 복습을 해라.  
영호: 아니에요. 지난 번 시험을 잘못 봤을 뿐이에요.  
영순: 아버지, 저, 이 번에 수학 여행 가는 거 아시죠?  
아버지: 그래. 어디로 가지?  
영순: 공주에 갔다가, 경주로 해서 해인사도 갔다 와요.  
아버지: 이맘때라면 단풍도 좋을 거다.  
영호: 누나는 참 좋겠다.  
영순: 너희도 고등학교 들어 가면 갈 텐데 뭐.  
오빠는 수학 여행 어디로 갔었어?  
영철: 그 때 우리도 경주에 갔었는데 참 좋더라.  
영호: 아아, 나도 시험이 끝나면 신나게 놀아야지.

41. 2. 練習文例: 述語のなかの《だけ》: 뿐

- (1) 지난 번 시험을 잘못 봤을 뿐이에요.
- (2) 그 사람으로서는 해야 할 일을 다 했을 뿐이에요.
- (3) 시험에 붙을 때까지 공부만 할 뿐입니다.
- (4) 서울에서 내가 아는 사람은 자네 뿐이다.
- (5) 남은 문제는 하나 뿐입니다.
- (6) 영어뿐(만) 아니라 중국어도 잘 하십니다.

41.3. 練習文例： 付加挿入句の 말 , 말씀

- (1) 여보세요. 아버지 말씀입니까? 지금 안 계신데요.
- (2) 누구 말씀입니까?
- (3) 아니, 저 말씀입니까?
- (4) 선생님 말씀입니까? 오늘 늦으실 것 같은데요.
- (5) 선생님 말씀은 말이에요, 옳은 말씀입니다만 우리 입장도 좀 생각해 주십시오.
- (6) 이 번 토요일은 말씀이에요, 시골에서 오시는 할아버지를 모시러 가야 돼요.

41.4. 練習文例： 逆説の -지만 《けれども》と  
力説並結文の -지 《なので, あって》

- A.
- (1) 차린 건 없지만 많이 드세요.
  - (2) 가고 싶지만 시간이 없습니다.
  - (3) 값은 싸지만 물건이 거칩니다.
  - (4) 값은 비싸지만 물건이 좋습니다
  - (5) 신문은 봤지만 그런 뉴스는 못 봤습니다.
  - (6) 시간만 있으면 가겠지만 바빠서 못 갈 것 같습니다.
  - (7) 그 사람은 오기야 오게지만 우리를 도와 줄지 모르겠다.
  - (8) 차리긴 별것 없지만 많이 드세요.
- B.
- (1) 오늘은 토요일이지, 금요일이 아닙니다.
  - (2) 이 건 휘발유 (이) 지 , 석유가 아닙니다.
  - (3) 그 분은 은행원이지, 변호사가 아닙니다.
  - (4) 그 건 당신이 할 일이지, 내가 할 일이 아닙니다.
  - (5) 그 건 선생님이 하신 말씀이지, 제가 한 말이 아닙니다.
  - (6) 선생님이 아시지, 저희들은 모릅니다.
  - (7) 그저께는 집에 있었지, 외출하지는 않았습디다.
  - (8) 석유 난로는 제가 켜지, 딴 사람이 끈 게 아닙니다.

41.5. 練習文例 —— 引用文末尾の活用形 ②

E. 命令形表現の場合      F. 勧誘形表現の場合

E. 命令形表現の場合——

- (1) 그 학생한테 내일 오라고 전해 주세요.

< (오너라, 와라) =오라(고)>



- (2) 아주머니를 시장으로 안내해 드리라고 하셨는데요.  
 < (드려라) =드리라(고)>
- (3) 영호 보고 문 닫으라(고) 그래. < (닫아라) =닫을라(고)>
- (4) 영순이한테 문 열라(고) 그래. < (열어라) =열라(고)>
- (5) 숙제 빨리 다 하라(고) 그래. < (해라, 하여라) =하라(고)>
- (6) 선생님께 여쭙어 보라는 말씀인데. < (봐라) =보라(고)>
- (7) 야마다씨, 과장님께서 들어 오시라고 그러십니다.  
 < (들어 오십시오) =들어 오시라(고)>
- (8) 오늘 밤은 꼭 주무시라는 말씀입니다.  
 < (주무십시오) =주무시라(고) 하는>
- (9) 이 신청서를 한 번 읽으시라는 말인데요.  
 < (읽으십시오) =읽으시라(고) 하는>
- (10) 부인께 안부 전해 달라는 말씀입니다.  
 < (전해 주십시오) =전해 달라(고) 하는>
- (11) 서류와 편지는 따로 따로 우편으로 부쳐 달라고 하시는데요.  
 < (부쳐 주어라) =부쳐 달라고 하시는>
- (12) 전 번에 받으신 편지를 다시 한 번 더 잘 읽어 달라는  
 말씀입니다. < (읽어 주어라) =읽어 달라(고) 하는>
- (13) 잔디밭으로 들어 가지 말라는 팻말이 세워져 있습니다.  
 < (들어 가지 마십시오) =들어 가지 말라(고) 하는>
- (14) 나무가지를 꺾지 말라는 표시가 달려 있습니다.  
 < (꺾지 마십시오) =꺾지 말라(고) 하는>
- (15) 놀지만 말고 공부하라고 타 일렀습니다.  
 < (공부해라) =공부하라(고)>
- (16) 차도로 걸어 갔더니 인도로 걸으라고 주의를 받았습니다.  
 < (걸어라) =걸으라(고)>

F. 勸誘形表現の場合——

- (1) 다음 달 초순께 만나자는 말씀입니다.  
 < (만나자, 만나십시오) =만나자(고) 하는>
- (2) 언젠가 또 술을 같이 먹자고 하셨습니다.  
 < (먹자, 먹읍시다) =먹자고>
- (3) 국경일에는 집집마다 문 앞에 국기를 달자는 운동이  
 있습니다. < (달자, 다십시오) =달자(고) 하는>

41.6. 挨拶の言葉 ⑭: 練習文例 —— 客と主人側とでかわす言葉

- A. (1) 안녕하세요? 저 야마다라고합니다만 박 선생님 계십니까?  
 (2) 처음 뵙겠습니다. 야마다라고 합니다.

- (3) 저, 야마다라고 하는데요, 부인이십니까?  
 (4) 부인이시지요? 저, 야마다라고 하는데요.
- B. (1) 저, 야마다입니다. 오랫동안 못 찾아 뵈었습니다.  
 (2) 저, 야마다인데요. 오래간만입니다.  
 (3) 저, 야마다인데요. 오래간만에 뵈겠습니다.  
 (4) 저, 야마다인데요. 기억나시겠습니까?  
 (5) 저, 야마다입니다. 전에 한 번 뵈 일이 있습니다.  
 (6) 저, 야마다입니다. 전에 한 번 뵈 적이 있습니다.
- C. (1) 야마다씨, 잘 오셨습니다.  
 (2) 오래간만입니다. 그 동안 안녕하셨습니까?  
 (3) 어서 오세요. 멀리서 오시느라고 수고 많으셨습니다.  
 (4) 잘 오셨습니다. 반갑습니다.  
 (5) 야마다씨니까? 말씀은 많이 들었습니다.
- D. (1) 이 번에는 몇 년만에 오셨나요?  
 (2) 지난 번 뵈 때가 언제지요?  
 (3) 저희 집에 오신지가 얼마나 되십니까?
- E. (1) 벌써 뵈지가 3년이나 됩니다.  
 (2) 한 5년만에 뵈는군요.
- F. (1) 둘째 아들 영호인데 기억나세요?  
 (2) 우리 딸 기억 안 나세요?
- G. (1) 애가 막내지요? 어렸을 때 모습이 어딘가 남아 있어요.  
 (2) 애가 영순인가요? 어릴 때 모습이 하나도 없군요.  
 (3) 아니, 네가 장남이냐? 아버지 닮았구나.  
 (4) 네가 큰 딸이냐? 어쩜, 어머니를 쏙 빼닮았구나.

41. 7. 活用練習——不規則活用：⑥ 중 變格 (形容詞のみ)

語幹：

- |              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| a. 原形        | b. 終止形         | c. 詠嘆形現在      |
| d. 丁寧形現在     | e. 丁寧形過去       | f. 丁寧形「未來」    |
| g. 尊敬(現在)    | h. 連用形 -아서(어서) | i. 連用形 -(으)니까 |
| j. 假定形 -(으)면 | k. 連體形 -(으)ㄴ   | l. 連體形 -는     |

그렇-《そうだ》

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| a. 그렇다   | b. 그렇다   | c. 그렇군요   |
| d. 그렇습니다 | e. 그랬습니다 | f. 그렇겠습니다 |
| g. 그러십니다 | h. 그래서   | i. 그러니까   |
| j. 그러면   | k. 그런    | l. —      |

語例：

[形] 이렇다 《そうだ》 저렇다 《ああだ》 어떻다 《どうだ》 ;  
빨강다 《赤い》 파랗다 《青い》 노랗다 《黄い》 하얗다 《白い》  
까맣다 《黒い》 ; 길다랗다 《長ったらしい》 둥그랗다 《円い形だ》  
(規則活用：子音語幹④ (ㅎ語幹)と比較せよ)

第42課 이제 텔레비전 끄고 그만들 자거라.

42. 1. 對話 :

어머니 : 영호야, 너희들 목욕 갈 때가 됐지?  
영철 : 저는 공부할 게 있어서 오늘은 목욕탕 못 가요.  
어머니 : 그러니? 그러면 영순이하고 영호만 갔다 오렴.  
아버지 : 영철아, 너 전공은 정해졌니?  
영철 : 네, 저는 전자 공학을 하려고 해요.  
아버지 : 그래, 지도교수님하고도 의논해 봤니?  
영철 : 교수님도 좋겠다고 말씀하셨어요.  
어머니 : 여보, 참. 최 선생님한테서 전화가 왔었어요.  
아버지 : 그래? 무슨 일로?  
어머니 : 이 번에 해외 지점으로 전근가신대요.  
아버지 : 그럼 나중에 내가 전화 연락을 해 보지.

\*\*\*

\*\*\*

영호 : 형, 지금 축구 시합 중계 방송을 하는데 안 볼래?  
영철 : 아 참. 오늘 결승전이지.  
지금 몇 대 몇이니?  
영순 : 나는 연속극이 보고 싶은데. . .  
어머니 : 이제 텔레비전 끄고 그만들 자거라.  
영순 : 아버지 어머니, 저는 그만 자겠어요.  
안녕히 주무세요.  
영호 : 저도 자겠어요. 안녕히 주무세요.  
아버지 : 그래, 잘들 자거라.  
어머니 : 방의 불 끄고들 자거라.

42. 2. 練習文例 : 強調していうときの助辞 : 一야 《こそ》

- (1) 재미 있는지 없는지 가 봐야 알겠지요.
- (2) 개나리 진달래가 피어야 정말 봄이 온 느낌입니다.
- (3) 씨를 뿌려야 싹이 돋아 나 옵니다.
- (4) 물은 맑아야 좋고 사람은 어질어야 한다고 합니다.

- (5) 범 굴에 들어 가야 범 새끼를 잡는다고 하지 않아요?
- (6) 이 약은 하루에 세 번 먹어야 효험이 있습니다.
- (7) 저야 뭐 거들어 드린 게 있습니까?

4 2 . 3 . 練習文例： 程度の増進を表す -(으)는수록  
《すればするほど, であればあるほど》

- (1) 사람이 많을수록 즐겁게 놀 수 있습니다.
- (2) 이 책은 읽을수록 재미가 납니다.
- (3) 답장 주시는 게 빠르면 빠를수록 좋겠습니다.
- (4) 이 문제는 생각할수록 모르겠는데요.
- (5) 술은 마실수록 더욱 더 마시고 싶어집니다.
- (6) 벼는 익을수록 고개가 수그러집니다.
- (7) 키가 큰 사람일수록 손발도 큽니다.

4 2 . 4 . 練習文例： 체하다 《ふりをする》

- (1) 잠 자는 체하면서 남의 이야기를 듣고 있었던 모양입니다.
- (2) 모르는 체하면서도 실은 잘 안다.
- (3) 알지도 못 하는 주제에 아는 체하고 있을 뿐이에요.
- (4) 속은 그렇지도 않은데 슬픈 체해 보였습니다.
- (5) 그 사람은 보고도 못 본 체하고 있는 거예요.
- (6) 총각인 체하는 사람에게 속은 모양이에요.
- (7) 알아 듣지 못 하는 체하면서 다 들으셨나 보지요.

4 2 . 5 . 練習文例： 事实に反して考えていたことを言う  
줄 알다 《&think&》, 줄 모르다 《&not know&》

- (1) 오늘은 일요일인 줄만 알았습니다.
- (2) 아버지가 돌아 오시는 줄 알았는데, 이웃집 아저씨였습니다.
- (3) 여자인 줄 알았더니 남자였습니다.
- (4) 내일 떠나실 줄 알았는데 오늘 가세요?
- (5) 미국에 간 줄 알았는데 아직 일본에 있는 줄은 미처 몰랐습니다.
- (6) 벌써 다 알고 계실 줄은 생각치도 못 했습니다.

42. 6. 練習文例： 天氣の様子を言う言葉

- A. (1) 여름 더위가 물러 가고, 시원한 가을이 옵니다.  
 (2) 추운 겨울이 다 가고, 따뜻한 봄이 또 돌아 옵니다.  
 (3) 봄, 여름, 가을, 겨울. 사철이 뚜렷이 구별돼 있습니다.
- B. (1) 아침에 날이 흐리더니, 이제 비가 옵니다.  
 (2) 오늘은 비가 개어서 날씨가 맑습니다.  
 (3) 날이 개어서 아주 더운 날씨가 됐습니다.  
 (4) 어제는 바람이 심하게 불었습니다.  
 (5) 오늘은 바람이 자서 굉장히 무덥습니다.  
 (6) 소나기가 와서 좀 시원해졌습니다.  
 (7) 밤에는 창문을 열면 시원한 공기가 들어 옵니다.  
 (8) 옥상에 올라 가니 바람이 시원합니다.  
 (9) 그렇게 덥더니 이제 많이 선선해졌군요.  
 (10) 날씨가 선선해져서 뭘 해도 좋은 계절이 됐습니다.
- C. (1) 날씨가 점점 쌀쌀해지니까 걱정할 게 걱정이에요.  
 (2) 새벽 공기가 쌀쌀합니다.  
 (3) 오늘은 아주 쌀쌀한데, 장갑을 안 끼세요?  
 (4) 날씨가 싸늘해지면 화분을 들여 놓아야지.  
 (5) 밖이 싸늘한데, 외투 입고 가세요.  
 (6) 아주 추울 때에는 양말을 꺼 신어도 발끝이 시려요.  
 (7) 날씨가 갑자기 추워지면 서리가 내릴 때도 있지요.
- D. (1) 오늘은 날씨가 포근해요.  
 (2) 올해는 좀 덜 춥지요?  
 (3) 몹시 추웠으니까, 내일쯤 추위가 누그러지겠지요.  
 (4) 삼한 사온의 기후라고 하지 않습니까?
- E. (1) 온돌 방은 따뜻합니다.  
 (2) 방바닥은 뜨거운데, 방 안은 따뜻하지가 않습니다.  
 (3) 이 방은 훈훈합니다.  
 (4) 온돌 방은 아랫목은 따뜻한데, 윗목은 차갑습니다.  
 (5) 문을 열어 놓았는지 찬 바람이 들어 오는데요.  
 (6) 낮에는 날이 갠데 밤에는 눈이 왔습니다.

朝鮮語テキスト

内容細目一覧

## 内 容 細 目 一 覧

### 第1課 文字と発音：概観 (pp. 1-4)

- § 1.1.1. 母音字母
- § 1.1.2. 半母音 ([j, w]) と字母
- § 1.2. 子音字母：
- § 1.3. 가가表 (反切表) : (b. 가로 쓰기)
- § 1.4. ハングル書き方練習 (固有名詞)

### 第2課 母音の発音 (pp. 5-7)

- § 2.1. 読み方練習 (1) ———母音の発音———
- § 2.2. 読み方練習 (2) ———母音の発音———
- § 2.3. 母音の種類と発音
  - I. 「에」 と 「애」      II. 「오」 と 「어」      III. 「우」 と 「으」
  - IV. 「어」 : [ə:] と [ɔ]      V. 「어」 : [ə:]
- § 2.4. 読み方練習———
- § 2.5. あいさつのことば ①—— “こんにちは” ——

### 第3課 子音の発音 (pp. 8-9)

- § 3.1. 読み方練習： —— 子音の発音
- § 3.2. 平音の発音： ——
- § 3.3. 平音・激音・濃音： ———
- § 3.4. あいさつのことば ②—— “さようなら” ——
- § 3.5. 単語による発音練習 (子音と母音) ——

### 第4課 半母音と母音字母 (pp. 10-11)

- § 4.1. 半母音の字母と発音
  - A. 発音練習：半母音 [j]
  - B. 発音練習：半母音 [w]
- § 4.2. あいさつのことば ③—— “お元気でしたか” ——
- § 4.3. 激音 (有気音) の練習
- § 4.4. 濃音 (喉頭化音) の練習



第5課 字母の発音

(pp. 12-13)

§ 5.1. 字母「ㄨ」の発音

- (1) 語頭の「ㄨ」：[w<sup>i</sup>] (2) 語頭以外の「ㄨ」：[(w) i]  
(3) 子音と結合した「ㄨ」：[i]  
(4) 所有・所属を表す助辞「ㄨ」：[e]

§ 5.2. あいさつのことば ④——“ありがとうございます”——

§ 5.3 音節末（終声）の子音の発音

- (1) [-m<sub>ɥ</sub>] (2) [-n<sub>ɥ</sub>] (3) [-ŋ<sub>ɥ</sub>] ; (4) [-l<sub>ɥ</sub>]  
(5) [-p<sub>ɥ</sub>] (6) [-t<sub>ɥ</sub>] (7) [-k<sub>ɥ</sub>]

第6課 字母と発音

(pp. 14-15)

§ 6.1. 子音字母の連続 (-VC<sub>1</sub>・C<sub>2</sub>V-) ①:

§ 6.2. 音節末の子音 —— 付属語との連結 ①

§ 6.3. 会話練習：——“どなたですか”——

§ 6.4. 発音練習：

第7課 字母と発音

(pp. 16-17)

§ 7.1. 子音字母の連続 (-VC<sub>1</sub>・C<sub>2</sub>V-) ②:

§ 7.2. 音節末の子音 —— 付属語との連結 ②:

§ 7.3. 会話練習：——“この方、あの方、どの方”——

第8課 字母と発音

(pp. 18-19)

§ 8.1. 音節末の二重子音：

§ 8.2. 音節末の子音 —— 付属語との連結 ③:

§ 8.3. 会話練習：——“これ、それ、あれ；こと、もの；なに”——

§ 8.4. 激音の発音練習：

§ 8.5. 濃音の発音練習：

第9課 字母と発音：字母「ㄠ」と「ㄛ」

(pp. 20-23)

§ 9.1. 音節末の子音の次の音節が母音で始まる場合：

§ 9.2. 音節末の子音の次の音節が「ㄛ」で始まる場合：

§ 9.3. 接辞，語尾の継ぎ目の「ㄛ」と口腔子音の連続：

A. 語幹末の「ㄛ」： B. 語幹末の口腔子音と接辞頭音の「ㄛ」と「ㄠ」：

§ 9.4. 会話練習：——“いつおいでになりましたか”（いつ，どこ）——

第10課 字母と発音：字母「ㄌ」と「ㄐ」

(pp. 24-25)

§ 10.1. 字母「ㄐ」の位置と発音：

§ 10.2. 語頭の「ㄌ」と「ㄐ」 ——（漢字音）：

§ 10.3. 会話練習：——“どちらにいらっしゃいますか”——

第11課 안녕하세요?

(pp. 26-28)

- § 11.1. 対話:
- § 11.2. 練習文例(恭謙形): -입니다(-습니다)と -입니까(-습니까)
- § 11.3. 対話練習:(恭謙形)
- § 11.4. 整理(恭謙形): 現在・過去・「未来・推量」
- § 11.5. あいさつのことば ⑤: わかれ際のことば

第12課 소개해 드리겠습니다.

(pp. 29-30)

- § 12.1. 対話:
- § 12.2. 対話文例: -- 이, 그, 저 --
- § 12.3. 整理--「格」を示す助辞:
  - a. -이/가 《が》
  - b. -은/는 《は》
  - c. -을/를 《を》
- § 12.4. 練習と整理--丁寧な名令形 -(으)시·십시오:

第13課 이 건 누구 겁니까?

(pp. 31-34)

- § 13.1. 対話:
- § 13.2. 人称代名詞の形:
  - § 13.2.1. 第2人称のいい方:
    - (1) 第2人称に使われる単語
    - (2) 呼びかけに使われる単語
  - § 13.2.2. 第3人称と指示代名詞:
    - (1) 第三人称のいい方:
    - (2) 指示代名詞の形:
- § 13.3. 整理と練習文例--体言の否定: -이/가 아니다 《ではない》

第14課 박 대철 선생님 계십니까?

(pp. 35-37)

- § 14.1. 対話:
- § 14.2. 練習文例: 否定の副詞 안
- § 14.3. 現在・過去・推量 --- 作文練習:
- § 14.4. 練習と整理: -겠- 《その気持ち・考えで, いる》
- § 14.5. あいさつのことば ⑥: ひさしぶりに出会ったとき

第15課 오래 기다리셨습니다.

(pp. 38-40)

- § 15.1. 対話:
- § 15.2. 練習文例: -에 《~に》と -에서 《~で, ~から》
- § 15.3. 練習文例: 人間に使う -에게(서)と -한테(서) 《~に, ~から》
- § 15.4. 練習文例: 現在・過去 (-았/었-)・「未来」(-겠-) ①: --
- § 15.5. あいさつのことば ⑦: 日常たがいにかわすことば

第16課 같이 식사나 하시겠습니까? (pp.41-43)

- § 16.1. 対話:
- § 16.2. 練習文例: 現在・過去 (-았/었-), 「未来」(-겠-) ②: ——
- § 16.3. 整理と練習: 親しみと気やすさをもっている  
丁寧表現(恭親形) -세요 と -어요(-아요)
- § 16.4. あいさつのことば ⑧: 日常たがにかわすことば

第17課 좀 더 드십시오. (pp.44-47)

- § 17.1. 対話:
- § 17.2. 敬意表現と丁寧表現(尊敬: a, b, c; 謙讓: g, h, i)
- § 17.3. 練習文例:
- § 17.4. あいさつのことば ⑨: 日常たがにかわすことば

第18課 일부러 마중나와 주셔서 고맙습니다. (pp.48-50)

- § 18.1. 対話:
- § 18.2. 練習文例 (-느라고, 모시다, 다 했다)
- § 18.3. 現在・過去・未来
- § 18.4. あいさつのことば ⑩: 労をねぎらっていることば

第19課 직업은 뭐니까? (pp.51-54)

- § 19.1. 対話
- § 19.2. 活用形の構造:
- § 19.3. 動詞と形容詞の現在形:  
I. 形容詞の場合: II. 動詞の場合:
- § 19.4. 練習文例 (-이니지만, -습니지만):
- § 19.5. あいさつのことば ⑪: 平素の無事息災を確かめることば

第20課 물건 좀 사러 나갑니다. (pp.55-57)

- § 20.1. 対話:
- § 20.2. 漢数詞 ①:
- § 20.3. 用言の活用——語幹の形と語尾の形:  
a. 母音語幹 b. R語幹 c. 子音語幹A d. 子音語幹B  
A:(基本語幹形) B:尊敬語幹形
- § 20.4. 練習文例: —— -(으)러 《~しに(目的)》:
- § 20.5. 練習文例: 建物の階層のいい方(層《階》):

第21課 은행에 가서 돈을 바꾸어야 합니다. (pp. 58-60)

- § 21. 1. 対話：
- § 21. 2. 漢数詞 ②：(百, 千, 万)
- § 21. 3. 練習文例： -지요, -(으)시지요 《ですよ, しますよ; なさるのがいいですよ》：確信をもって, また, 確認したくて相手に言う形
- § 21. 4. 練習文例：  
-(으)니까 《なのか, しょうか》：可能性を考える言い方；  
-(으)니까요 《しますか》, -(으)실까요 《なさいますか》：(意向をきく形)
- § 21. 5. 用言の活用：——連体形の形(規則活用)——
- § 21. 6. 練習文例：——連体形 -(으)ㄴ と -는 ——
- § 21. 7. 活用練習——規則活用：母音語幹 ① (ㅏ ㅑ)

第22課 오늘이 며칠이지요? (pp. 61-64)

- § 22. 1. 対話：
- § 22. 2. 練習文例——慣用表現：人に応対することば
- § 22. 3. 日付 (날짜) のいい方：  
A. 日にち； B. 月の名前； C. 日にちを問う文；
- § 22. 4. 曜日 (요일) のいい方——
- § 22. 5. 練習文例：——  
A. -ㄱ 수 있다(없다) 《することができる(できない)》  
B. -고 싶다 《～したい》
- § 22. 6. 活用練習——規則活用：母音語幹 ② (ㅓ ㅕ)

第23課 몇 년생이시지요? (pp. 65-68)

- § 23. 1. 対話：
- § 23. 2. 否定のいい方(用言の場合)：副詞 안 と 補助用言 (-지) 않다
- § 23. 3. 暦年のいい方：
- § 23. 4. 띠： えと —— 参考： 갑자 [甲子] 《十干十二支》
- § 23. 5. 練習文例： -아야(어야) 하다 (~~ 되다) 《しなければならない》
- § 23. 6. 練習文例： -이 (가) 되다 《(に)なる》——
- § 23. 7. 活用練習——規則活用：母音語幹 ③ (ㅡ ㅣ)

第24課 부인도 같이 오셨어요?

(pp. 69-72)

- § 24. 1. 對話 :
- § 24. 2. 数をいう単語 (固有の数詞) :
- § 24. 3. 順序をいう単語 : -째 《番め(の)》
- § 24. 4. 年齢, 人数, 個数のいい方—— (살, 사람, 분, 개) :  
(1)살 《才》 : (2)사람 《人》, 분 《方》 (3)개 《個》
- § 24. 5. 数の練習 :
- § 24. 6. 練習文例 : -(으)시지 그랬어요 《なさればよかったのに》
- § 24. 7. 練習文例 : -(으)ㄴ 겁니다 《したものです, したのです》
- § 24. 8. 活用練習——規則活用 : 母音語幹 ④ (하 개 나 거)

第25課 지금 몇 시예요?

(pp. 73-76)

- § 25. 1. 對話 :
- § 25. 2. 時刻のいい方 :
- § 25. 3. 練習文例——時刻のいい方 :
- § 25. 4. 十位数の数え方 (固有の数詞) :
- § 25. 5. 練習文例 : -고 《～であり; ～し》 《～してから》
- § 25. 6. 練習文例 : 敬語の助辞 -께서(는) 《は》と -께서 《に》——
- § 25. 7. 活用練習——規則活用 : 己 語幹

第26課 며칠 동안 갔다 오셨어요?

(pp. 77-81)

- § 26. 1. 對話 :
- § 26. 2. 日数をかぞえる数詞 :
- § 26. 3. あいさつのことば ㉔ : 送り迎えにいうことば
- § 26. 4. 練習文例 : -(으)ㄴ데 (形容詞の現在など), -는데 (動詞ほか)  
《～なのだが》 : 前半の内容に対して, 後半にのべようとする内容を附加したり, 対比させたりする時に用いる形だが, 後半の部分を明言するのをやめて余韻をのこす, という意味で文を結ぶのにも盛んに用いられる. 丁寧形として, -요をつけた形, -(으)ㄴ데요, -는데요, も頻繁に用いられる形.
- § 26. 5. 練習文例 : 不可能の副詞 못 と補助動詞 (-지) 못하다 《できない》
- § 26. 6. 活用練習——規則活用 : 子音語幹 ① (하 ㄷ ㄱ)

第27課 며칠 전에 강 선생님을 만났어요. (pp. 82-85)

- § 27. 1. 對話 :
- § 27. 2. 月数のかぞえ方——附：年数——
- § 27. 3. 枚数(장), 杯数(잔)のかぞえ方——
- § 27. 4. 練習文例：連体形 -(으)ㄴ (可能性・未確定の表現) ——
- § 27. 5. 練習文例：-(으)ㄴ 일이 있다 (없다) 《したことがある(ない)》
- § 27. 6. 練習文例：引用の仕方：-고 하다 《という, と思う》の形
- § 27. 7. 活用練習——規則活用：子音語幹 ② (入スエ)

第28課 11시경에 기다리겠습니다. (pp. 86-89)

- § 28. 1. 對話 :
- § 28. 2. 練習文例：잘못 《まちがえて(する)》, 《やりそこなう》の意の副詞
- § 28. 3. 練習文例：-고 있다(계시다) 《しつつある(しておいでになる)》
- § 28. 4. 位置關係を表わす単語：(앞, 옆, 건너편, 못 미쳐, 근처, 안, 밖)  
(1) 앞 《前》 (2) 옆 《よこ, そば》 (3) 뒤 《うしろ》  
(4) 건너편 《向こう側, 向い側》 (5) 못 미쳐 《手前》  
(6) 근처 《あたり, 近く》 (7) 안 《なか, 内部》 (8) 밖 《そと》
- § 28. 5. 練習文例：-밖에 (否定) 《しか(ない, しない)》
- § 28. 6. 活用練習——規則活用：子音語幹 ③ (口 L)

第29課 말씀 좀 여쭙어 보겠습니다. (pp. 90-93)

- § 29. 1. 對話 :
- § 29. 2. 練習文例：-지 않아요? (-잖아요?) : 強調表現——
- § 29. 3. 練習文例：-(으)면 《ならば, すれば》(仮定形) ——
- § 29. 4. 練習文例：-(으)로 《~で》(道具, 手段), 《~へ》(方向)——
- § 29. 5. 活用練習——規則活用：子音語幹 ④ (ㅎ; ㅁ ㅂ)

第30課 경주에 가 볼 생각입니다. (pp. 94-97)

- § 30. 1. 對話 :
- § 30. 2. 練習文例：-네(요) 《印象などを率直にいう》(語尾) ——
- § 30. 3. 練習文例：~지 《かどうか》(半信半疑の様子)  
A. -(으)ㄴ지 : B. -(으)ㄴ지 : C. -는지 :  
D. -았(었)는지 ; -겠는지 :
- § 30. 4. 練習文例：助詞 와(과) 《と》と, 口語的な表現 하고 《と》
- § 30. 5. 練習文例：動詞と形容詞——終止形と詠嘆形 :
- § 30. 6. 活用練習——規則活用：子音語幹 ⑤ (ㅈ ㅊ)

第31課 제주도 가려면 비행기 타고 가야지요? (pp.98-100)

- § 31.1. 對話：  
§ 31.2. 練習文例：-아야지(요) (-어야지(요)) 《しなければなら  
ない(でしょう)》 (-아야(어야) 하지(요)의弱まり形)  
§ 31.3. 練習文例：-(으)ㄴ 것 같다 《しそうだ, するらしい》  
§ 31.4. 練習文例：用言の名詞形：-기 《すること》  
§ 31.5. 活用練習——規則活用：子音語幹 ⑥ (ㄹ ㅂ ㄹ)

第32課 방을 예약했는데요. (pp.101-104)

- § 32.1. 對話：  
§ 32.2. 練習文例：連用形語尾 -아(서) (-어(서)) 《~して, ~くて》  
§ 32.3. 練習文例：丁寧な命令 (-의십시오) と丁寧でない命令  
A. -(으)십시오 と -아라 (-어라) : ——  
B. 特に身近かな目下のものにする命令：-거라 (-너라)  
§ 32.4. 練習文例：動詞と形容詞——連体形 -(으)ㄴ と -는：  
§ 32.5. 活用練習——規則活用：子音語幹 ⑦ (ㄹ ㅂ)

第33課 일본에서 아는 분이 오셔서. . . (pp.105-108)

- § 33.1. 1. 對話：  
§ 33.2. 練習文例：밖에 《~しかない》 (cf. § 28.5.)  
§ 33.3. 練習文例：《行動・状態の継続を中断する》ことを表わす  
連用形語尾 -다가：——附：-았(었)다가  
§ 33.4. 練習文例：「過去」と「未来」の連続, 「過去」の重複——  
§ 33.5. 練習文例：行動の同時進行を表わす連用形 -(으)면서 《ながら》  
§ 33.6. 活用練習——不規則活用：① 르 變格, 러 變格

第34課 추석 날은 9월 29일이군요. (pp.109-112)

- § 34.1. 對話：  
§ 34.2. 参考文例：대목 《正月や秋夕を間近にした大事な時期》——  
附：고비 《最もきびしく困難な時期》와 한창 《そのものの最盛期》  
§ 34.3. 練習文例：-(으)ㄴ 만하다 《する値打がある, するに十分である》  
§ 34.4. 練習文例：疑問を表わす活用形：  
A. -(으)냐 (形容詞現在), -느냐 (動詞など) 事実としてどう  
なのかをたずねる疑問形  
B. -(으)ㄴ가 (形容詞現在), -는가 (動詞など) 事実はそう  
なのか, という意味の疑問を表わす疑問形  
C. -니 直接的な質問形  
D. -나 浮んだ疑念や懸念していることをそのまま表わす疑問形  
§ 34.5. 活用練習 —— 不規則活用：② 하다 系 變格

第35課 추석 날에는 어떻게 지냈니까? (pp.113-115)

- § 35.1. 対話：  
§ 35.2. 練習文例 —— 引用文末尾の活用形 ①：  
A. 終止形表現の場合— B. 疑問形表現 -냐, -느냐 の場合—  
C. 疑問形表現 -나 の場合— D. 伝聞の内容をいう形—  
§ 35.3. 活用練習 —— 不規則活用：③ ㄷ 変格

第36課 박 대철 선생님 덕이시지요? (pp.116-119)

- § 36.1. 対話：  
§ 36.2. 電話番号の言い方：  
§ 36.3. 練習文例：住所と電話番号についての問答  
§ 36.4. 練習文例：電話の受け答えの言葉  
§ 36.5. 練習文例：電話にかかわる言い方

第37課 매운 것을 좋아 하세요? (pp.120-123)

- § 37.1. 対話：  
§ 37.2. 練習文例：좋아 하다 《好きだ》，싫어 하다 《嫌いだ》  
§ 37.3. 練習文例：-게 《結果としてそうなるように》  
§ 37.4. 練習文例：意図する行動を表す活用形 -(으)러, -(으)느러 (口語形)  
§ 37.5. 練習文例：-(으)느라 《そのつもりである》を示す意志形  
§ 37.6. 活用練習——不規則活用：④ ㄹ 変格

第38課 아버지, 안녕히 주무셨습니까? (pp.124-128)

- § 38.1. 対話：  
§ 38.2. 練習文例：次の状況へと導く事実，行為を表す活用形：  
-(으)니, -(으)니까 《～だから，～するから；～であると，  
～してみると》  
§ 38.3. 家族，親戚，あるいは親近者相互の呼び方  
(1) こどもや目下の者はその名前で呼ぶ。  
(2) 一家の主人・主婦などの呼び方。  
(3) 親族で，おじやおば，大おじや大おばなど  
§ 38.4. あいさつのことば ⑩：年長者と少年少女・若者との場合



第39課 장 좀 보고 오는 길이에요.

(pp.129-131)

- § 39.1. 対話：
- § 39.2. 助数詞： 마리 《匹》， 단 《束》
- § 39.3. 練習文例：その値段・価値の「品物」と「分量」： -짜리 と -어치  
(注意： -짜리はその額面の貨幣，切手などについてもいう)
- § 39.4. 練習文例： 次の状況へと導いた事実・行為を，思い返し  
つついう活用形 -더니 《と思ったら，してみたところ》
- § 39.5. 練習文例： 위 《上》， 밑 《下》
- § 39.6. 活用練習——不規則活用：⑤ ㅂ 変格

第40課 영순아, 상 좀 차려라.

(pp.132-135)

- § 40.1. 対話：
- § 40.2. 練習文例： 勧誘形 -자 《しよう》
- § 40.3. 練習文例： 文末用言の -아 (어) [반말] (前後のつながりの  
中からそれだけを取りだして簡単に言う活用形)
- § 40.4. 練習文例： 食べ物に関係する用言——
- § 40.5. 練習文例： -(으)ㄹ 채 《したままで》
- § 40.6. 練習文例： 《予定のこと，当然そうなること》を表す  
(-(으)ㄴ) 데 (터)

第41課 아버지, 안녕히 다녀 오셨습니까?

(pp.136-140)

- § 41.1. 対話：
- § 41.2. 練習文例： 述語のなかの 《だけ》： 뿐
- § 41.3. 練習文例： 付加挿入句의 말, 말씀
- § 41.4. 練習文例： 逆説の -지만 《けれども》と  
力説並結文の -지 《なので，あって》
- § 41.5. 練習文例 —— 引用文末尾の活用形 ②：  
E. 命令形表現の場合—— F. 勧誘形表現の場合——
- § 41.6. あいさつのことば ㉔：客と主人側とでかわすことば
- § 41.7. 活用練習——不規則活用：⑥ ㅎ 変格 (形容詞のみ)

第42課 이제 텔레비전 끄고 그만들 자거라.

(pp. 141-143)

- § 42. 1. 対話：
- § 42. 2. 練習文例：強調していうときの助詞：-야 《こそ》
- § 42. 3. 練習文例：程度の増進を表す -(으)ㄴ수록  
《すればするほど，であればあるほど》
- § 42. 4. 練習文例：체하다 《ふりをする》
- § 42. 5. 練習文例：事実に反して考えていたことを言う  
줄 알다 《と思い込む》， 줄 모르다 《とは知らない》
- § 42. 6. 練習文例：天氣をいうことば